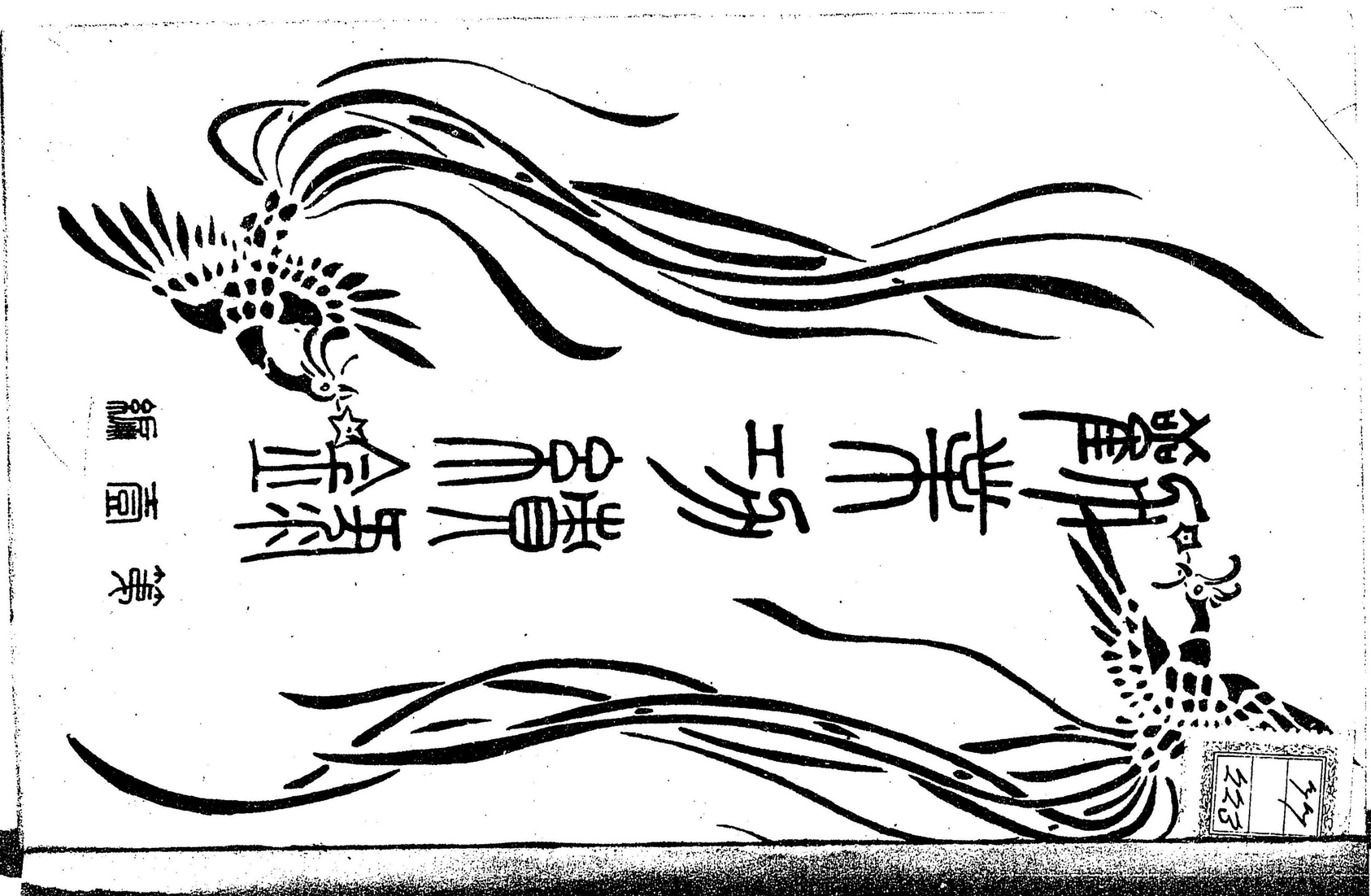
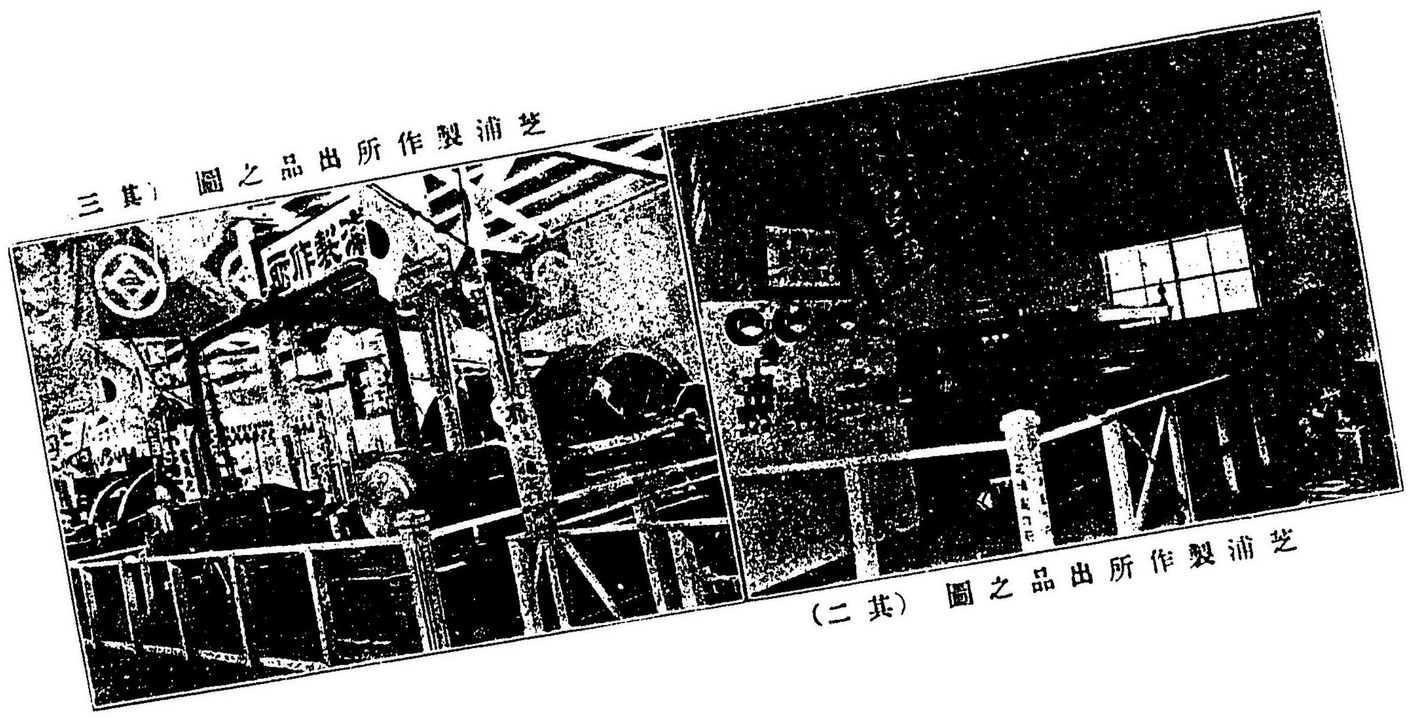


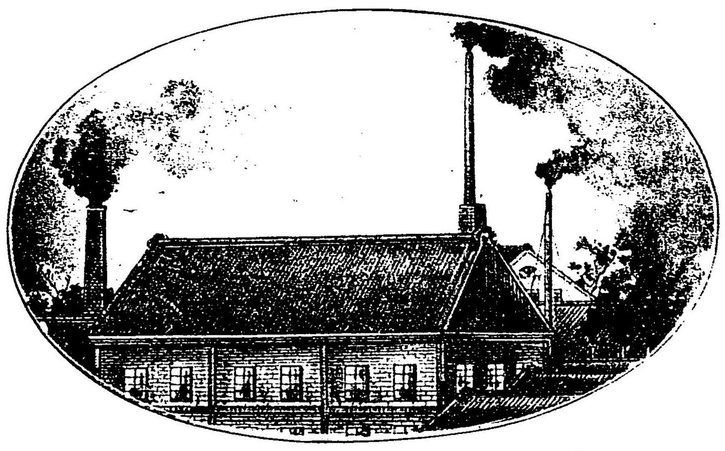
芝浦製作所出品之圖（其一）



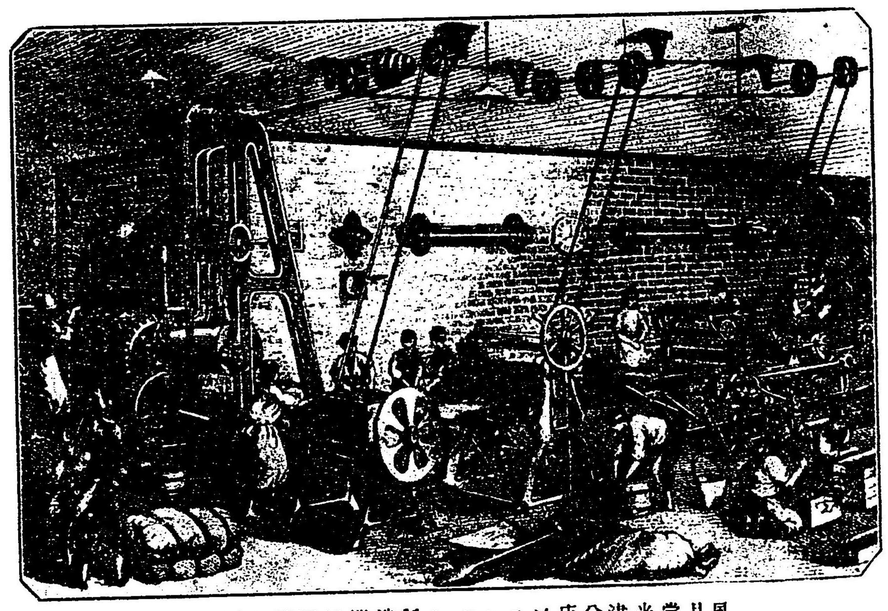
芝浦製作所出品之圖（其二）

芝浦製作所出品之圖（其三）

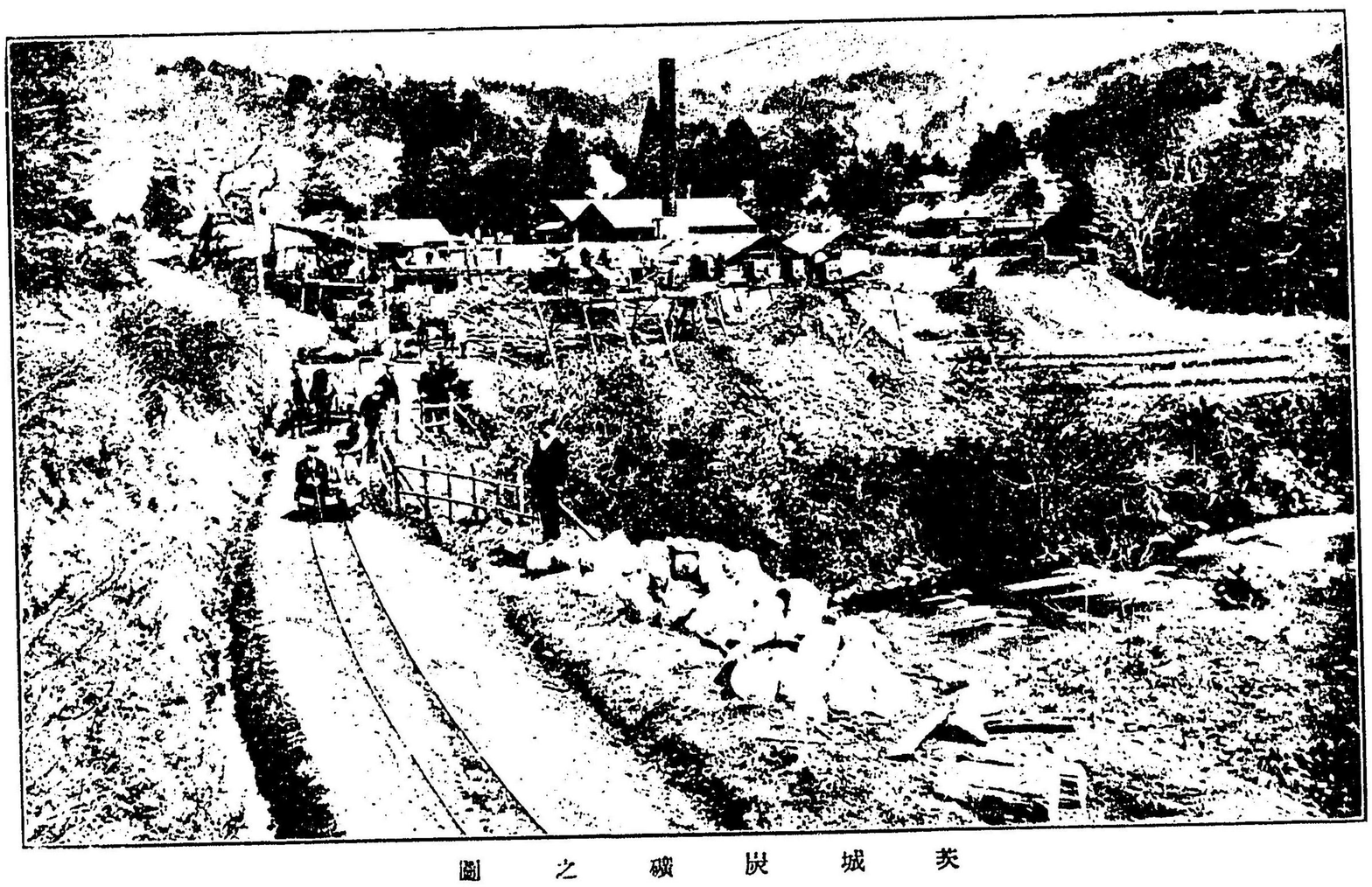
風月堂米津本店之圖



風月堂米津本店工場之圖



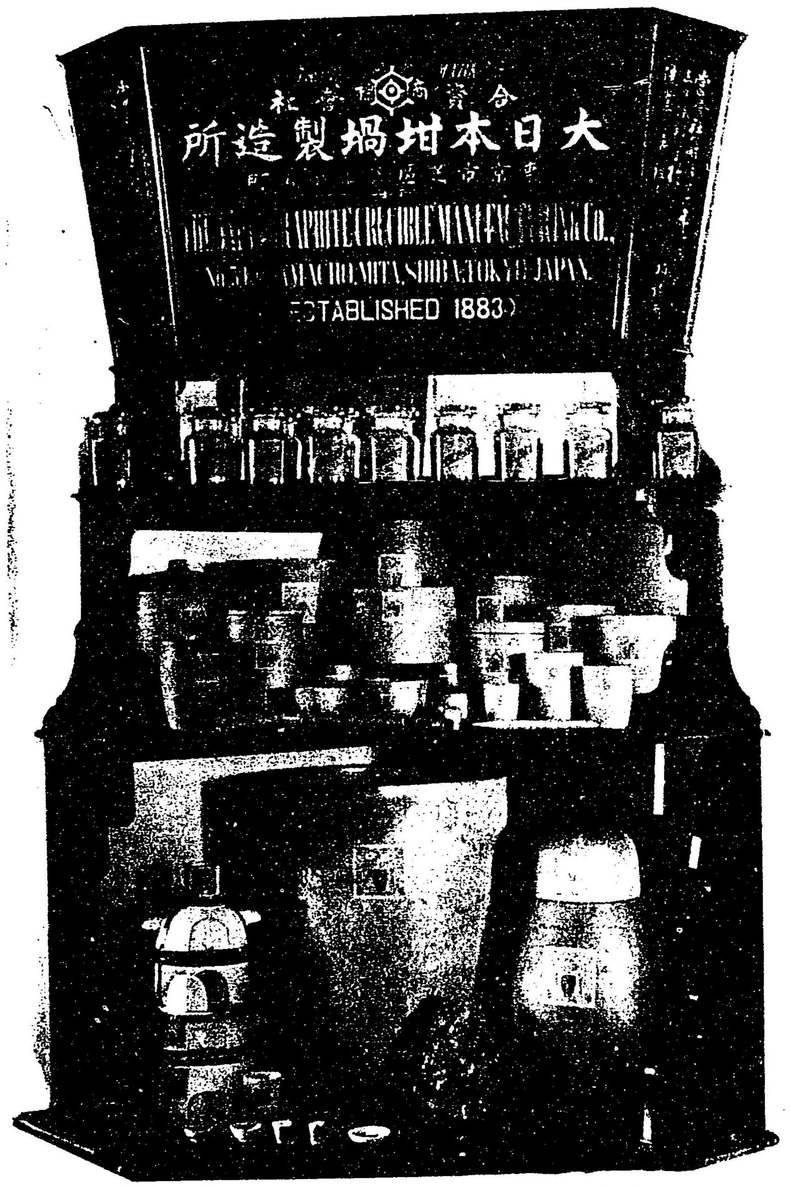
風月堂米津分店ビスケット製造機械運轉之圖



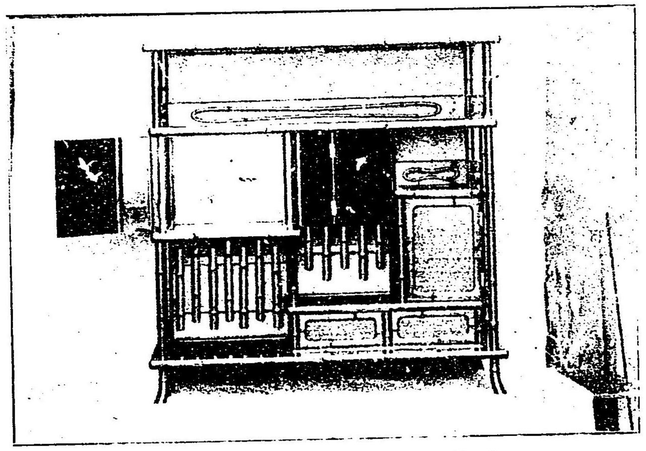
芙城炭礦之圖

日本鉛管株式會社全景

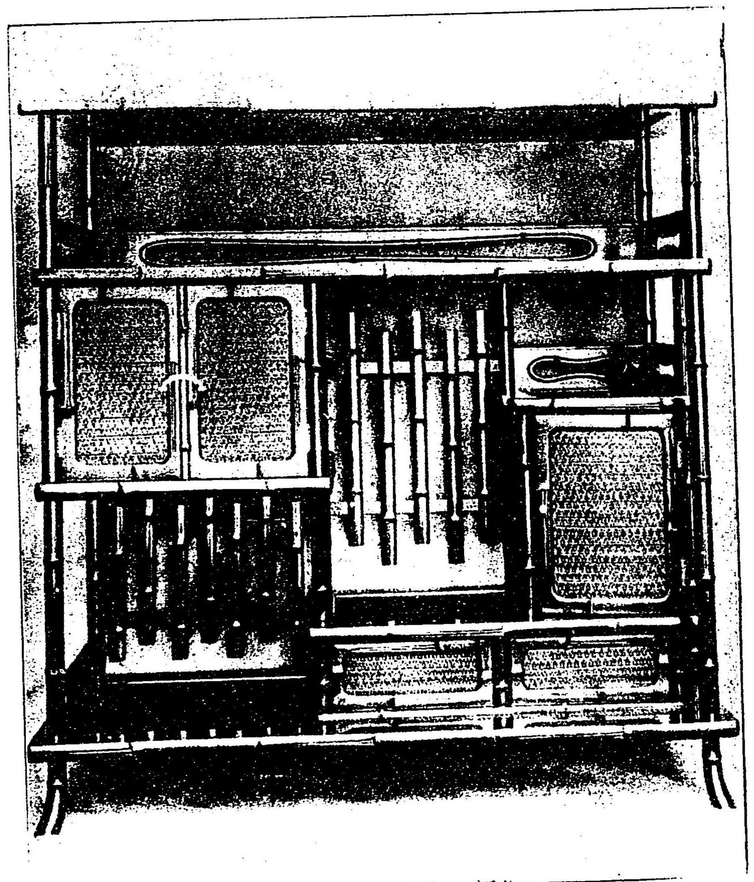
全會社製品之圖



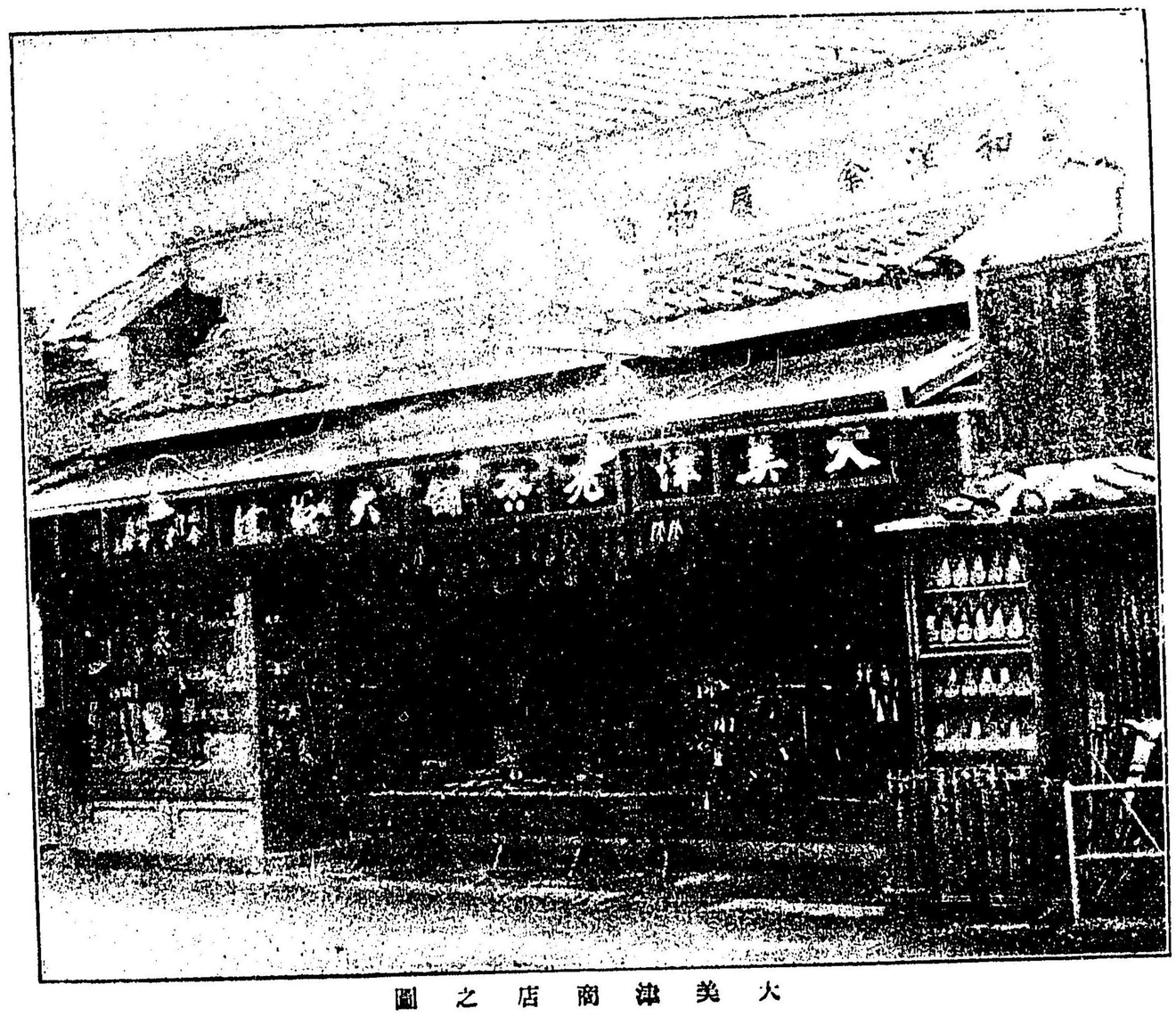
合資會社大日本坩堝製造所出品之圖



石關實太郎君出品開扉之圖



石關實太郎君出品閉扉之圖



大美津商店之圖

安生慶三郎君

清洲商店工場之圖

林九兵衛君

合資會社大日本坩堝製造所
社長　川村朝次郎君

帝國煉炭株式會社
技師兼取締役　本多精九郎君

井上小四郎君

窪田惣八君

製麵機發明者
眞崎照卿君

大日本坩堝製造所
取締役　小林宗英君

山越長七君

製鋼會社專務取締役
荒明淺吉君

茨城炭礦株式會社
取締役　樋口保君

吉沼又右衛門君

崔田甚之助君

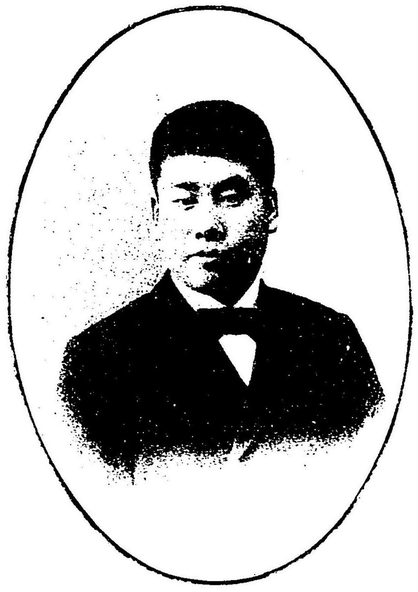
村上勇雄君

君吉藤松植

帝國煉炭株式會社
取締役　遠江桂藏君

君吉清村杉

君衛兵庄瀨川



熊谷卯八君

山上丑太郎君

奥田重兵衛君

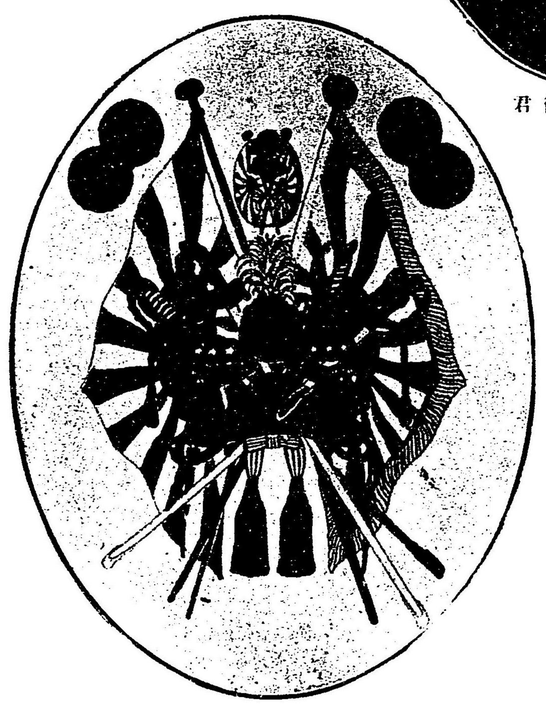
山口喜太郎君

梅田式竈發明者
梅田仙吉君

君助之保永德

君造唯林若

萬木九兵衛君



小松崎茂助君商標

凡例

一本書は第五回内國勸業博覽會に於て受賞せる諸會社の沿革、事業の現況、特に其社に功勞ある人々の事歷、重役の氏名等、及び個人の閱歷、創業の苦心談、製品の特色利便其他記すに足るべき事實を蒐めたるものにして、其趣旨は此等の人々の功績を不朽に傳へ、本邦勸業奬勵の資に供すると同時に、所謂本邦の勸業史として、總ての事業の大勢を一目の下に明瞭ならしめんとするに在り。

一本書の記事は總て其會社其個人に就き之を聞取りて原稿を作り、更に之を其人に示して訂正を求めたるものなれば、毫末の些事も決して誤謬なきを斷言して憚らざるものなり。

一本書は三万六千有餘の受賞者諸氏を悉く網羅して一も遺す所なからんを期し、編を重ね回を積み、凡五年間を期して大成するものたり。

一本書第一編は初め受賞別に依り列次するの考なりしも、事歷の徵集原稿の訂正等意外に手間取り、豫定の期間内に充分の取纏めをなす能はず、依て原稿の到着順に依り剞劂に附するとせり、乞ふ諒せられよ。

凡例

一本書は事歴掲載者の肖像若くは建築物、機械、商標等の類を、洩れなく寫眞版として巻頭に掲載する筈なりしも、中には寫眞の用意なき人もあり、然るに出版期日切迫の爲め撮影するの暇なくして、已むなく省きたるも尠からず、此等は更に撮影の上本書第二編に掲載するともあるべし、是れ亦た諒せられよ。

勸業功績錄第一編目次

日本郵船株式會社……一
芝浦製作所……八
帝國煉炭株式會社……一三
　取締役澁江桂藏君……一六
　取締役兼技師本多精九郎君……一七
米津松造君……一九
米津恒次郎君……二四
茨城無煙炭礦株式會社……二八
　取締役樋口保君……三〇
千葉松兵衛君……三一
吉沼又右衛門君……三三
眞崎照郷君……三六
日本鉛管製造株式會社……四一
大日本坩堝製造所……四八
　社長川村朝次郎君……五三
　取締役小林宗英君……五八
安生慶三郎君……六〇
江澤金五郎君……六二
谷澤禎三君……六八
村井兄弟商會……七三
製紐株式會社……七七
石關實太郎君……八〇
窪田惣八君……八四
林九兵衛君……八七
德永保之助君……九一
窪田甚之助君……九八
栗谷源六君……一〇二
村上勇雄君……一〇九
灰谷儀助君……一一二

東京築地活版製造所……一二〇
共立女子職業學校……一二五
伊東卓夫君……一三〇
梅田仙吉君……一三一
磯野精一君……一三五
齋藤嘉助君……一三八
須田勝次郎君……一四〇
植松藤吉君……一四四
井上小四郎君……一四八
若林唯造君……一五一
市原兼吉君……一五四
川瀬庄兵衛君……一五七
中北庄吉君……一五九
日本電氣株式會社……一六二
東京製綱株式會社……一六六
小松崎茂助君……一七三
奥田重兵衛君……一八〇
山越長七君……一八二
杉村清吉君……一八五
熊谷卯八君……一八七
山口喜太郎君……一九〇
鈴木梅吉君……一九五
東京帽子株式會社……二〇二
木戸元次郎君……二〇五
萬木九兵衛君……二〇九
山上丑太郎君……二一六
大野正君……二一九
岡野勘兵衛君……二二六
東京電氣株式會社……二二八

目次 終

勸業功績錄 第一編

日本郵船株式會社

（東京市麹町區有樂町一丁目一番地）

名譽金牌受領

四面環海の我國は、其必要上よりして夙に航海の術開け、未だ文字を知らざるの以前、既に高麗國と交通したることあり、延て神功皇后の時に至り、朝鮮征伐の爲めに大兵を輸送したるが如きの事實は、世人の既に熟知する所たり、爾來外國との交通は漸次其歩を進め、航海の術亦た漸く發達して、遠く和蘭印度に航するものをも生じたるに、徳川幕府の時に至り、嚴に鎖國の政略を取り、大船を作ることを禁じて、以て隣國との交通を絶ち、只だ內地に跼蹐して一時の偸安を貪りたり、然るに時運の進捗は永く其夢を貪るを許さずして、嘉永五年開國の事となりてより、我が海外貿易は漸く其芽を萌したるも、由來安伏に流れたる我國民は、自ら波濤を冒して遠

海に航するの勇氣なく、假令之れあるも其術に慣れずして、常に外人の爲めに其權を專らにせられ、之が爲めに我國力の損耗せられたると決して尠少にあらざりしなり、於是乎我政府と我人民は、倶に海外貿易を進張し國力を發展せんは、之を航海事業の發達に俟たざるべからざるを知覺し、專ら之に向つて慫慂勸勵する處あり、爾來漸く其氣運に際會して、幾許の滊船を購ふものあるに至りたり、而して組織を會社に取り、初めて航海の業を開きたるを廻漕會社となす、此會社は殆んど政府と人民との共有にして以て東京大阪間の航海を初めたり、然るに右は間もなく郵便滊船會社に移され、次で又た土佐の藩士岩崎彌太郎氏自ら一の會社を組織して、之を三菱會社と稱するに至りたり、斯くの如くにして右の兩會社は互ひに其船數を增加し、航海業の發達に努むる所ありしが、三菱會社は其後大平洋郵便滊船會社の橫濱上海航路を買受け、之が航海を營むに至つて、漸く其基礎を確立したり、初め同會社は僅かに千噸以上の滊船三艘を有するのみなりしに、晩年に及んでは、滊船帆船併せて四十二艘を有するに至り、益々其業務を盛大にしたり、明治十六年共同運輸會社起り、三菱會社と兩々相待つて、斯業に從事しつゝありしに、端なくも此兩會社の間に激烈なる競爭を生じ、爲めに漸次發達し來りたる海運機關に阻害を與ふるの虞あるに至り、政府之を憂ひて旨を兩社に諭し、其合併を勸誘すると切りなり、是に於て兩社協議を遂げ、明治十八年遂に合併して日本郵船會社を新設し、而して其資本金一千百萬圓に對し、政府より年八朱の利子保證を得ることとし、森岡昌純氏を官海より拉し來つて其社長となし、以て營業を初むるに至りたるが、次で二十年政府は利子保證に代ふるに、每年八十八萬圓を創立後十五年間補給するを以てしたり、然るに創業當時は兩社競爭の餘弊を受け、加ふるに內地の不景氣續きたるを以て社業振はず、空しく數年を經過して益々困難を感ずるに至り二十五年會社整理の目的を以て資本金を八百八十萬圓に減じ、神戶浦鹽斯德間、神戶天津間、橫濱上海間等の航海を營み來りたるが、本邦紡績の業漸く熾んにして、原料の棉花を孟買に仰ぐこと尤も多きに至り、則ち明治二十六年初めて孟買航路を開始したり、斯くの如くにして其業務漸く緖に就けるに當つて、忽ち明治二十七年日淸戰端の開かるゝに至り、會社は御用船として五十七艘十三萬餘噸の滊船を政府に提供し、專ら軍事輸送の大任に當り、前後九ケ月の長きに亘りて、彈丸硝雨の危險を冒し、嚴寒凍氷と鬪ふて、以て能く其任務を完ふしたるは、世人の能く知る所なりとす、斯くの如くにして同社は顯著なる功績を表したるのみならず、戰後の經營に當つては、益々其航路を擴張し、以て國運の發展に伴ふの方針を採り、二十九年三月に至りて、先づ航路を歐洲に擴張し、同年六月資本金を二千二百萬圓に增加し、歐洲航路に使用する六千噸以上の滊船十二隻新造の計畫を立て、續ひて米國及び濠洲航路をも開始し爾來益々設備滊船の改良に從事し、社運一時に膨脹して、今や歐米各滊船會社を凌

鴛せんとするに至れり、特に最近揚子江に於ける麥邊滊船會社を買收したる如き、內外人の均しく驚嘆する處たり、斯くの如くにして同社は獨り我邦海運事業の牛耳を執れるのみならず、又た實に世界海運業の牛耳を執らんとしつゝあり、其壯大なる、何人も國家の爲め之を慶賀するに躊躇せざるなり、而して又た同社は平素海員の養成に勉め、種々の保護奬勵をなし、其品位を高め風紀を正し、以て本邦海運事業の發達を助けつゝあり、其効果は極めて顯著にして、初め遠航海の滊船長は必ず外人を以て之に充て居たるもの、今や其大部分は本邦人を以て之を充たすに至り、現に同會社使用船舶職員八百五十餘人の中、外人を使用すること僅かに九十三人に過ぎざるが如き、以て邦人の如何に其術に熟達したるかを察するに足るべく、而して是れ多くは同會社が海員養成の効に基くものなるを思はゞ、世人決して其功績を沒却すべからざるなり。

同會社目下の航路延長海里數は合計約四萬五千海里にして、一ヶ年の總航海里數は二百八十五萬餘海里に達し、所有航海滊船は七十六隻、二十四萬百七十九噸に上り、一ヶ年約二百二十萬噸の貨物、約三十五萬の旅客を取扱ひ居れり、亦た盛んなりと云ふべきなり、尙同社が目今現に試みつゝある處の航路を示せば左の如し、

歐洲線、孟買線、濠洲線、亞米利加線、橫濱上海線、神戸北淸線、神戸韓國北淸線、神戸浦鹽斯德線、神戸小樽東廻線同西廻線、神戸基隆線、橫濱小笠原島線、

青森室蘭線、其他內地要衝航路

又た同社本支社出張所等の位地及び重なる社員名を擧ぐれば左の如し

本社(東京)　專務取締役社長近藤廉平、同副社長加藤正義、專務取締役岩永省一、取締役莊田平五郎、同澁澤榮一、同園田孝吉、同淺田正文、同小川鉾吉(以上重役)文書役堀達、貨物課長兼攝岩永省一、船客課長兼務田中常德、監督長須田利信、調度課長田中常德、會計課長各務幸一郎(以上役員)

東京支店長春田源之丞、橫濱同永井久一郎、大阪同原田金之祐、神戸同谷井保、四日市同甲野莊平、門司同井上良三郎、長崎同東條三郎、函館同柳茂夫、小樽同大崎宗恭、土崎同岡田國兵衛、伏木同久德鐵太郎、上海同林民雄、仁川同(兼務)寺見機一、釜山同(兼務)寺見機一、香港同三原繁吉、浦鹽斯德同寺見機一、倫敦同チー、エッチ、ゼームス、孟買同楠本武俊、基隆出張所長近藤勝之助、天津同中村克己、(以下姓名略)函館支店根室出張所、同青森出張所、四日市支店名古屋出張所、釜山支店元山出張所、神戸支店境出張所、同尾道出張所、大坂支店京都出張所、同敦賀出張所、四日市支店半田出張所、同津出張所、東京支店荻之濱出張所、函館支店八戸出張所、同室蘭出張所、下關支店門司出張所、香港支店廣東出張所、新潟代理店、酒田同、打狗同、シャトル同、ヴイクトリア同、ホノルゝ同、牛莊同、旅順口同、青泥窪同、威海衛同、芝罘同、福州同、廈門同、汕頭同、マニラ

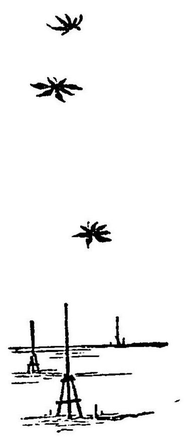
同、柴梶同、新嘉坡同、盤谷同、ペナン同、カルカッタ同、コロンボ同、チユチコリン同、蘇西同、ポルドサイド同、オデッサ同、トリースト同、マルセイル同、ハーヴル同、ミッドルスボロー同、ニューカッスルヲンタイン同、マンチエスター同、グラスゴー同、アントワープ同、ロッターダム同、アムスターダム同、ブレメン同、ハンバーク同、サースデーアイランド同、タウンスヴィル同、ブリスベーン同、シドニー同、メルボルン同、アデレイド同、フリマントル取引店、ヲークランド同、デユ子ヂン同、グレーマウス同、リッテルトン同、ウエリントン同、インヴアカーギル同、ヌーメヤ同、巴里同、

同會社が今日の隆盛を見たるは、實に以上重役諸氏の施設其宜しきを得たると、本支社出張所員等の互に戮力協心其事に當りたるとに因るものとして、編者は茲に其功勞を表彰するに躊躇せざるなり

今回同社が第五回内國勸業博覽會に出品したるは、滊船の摸型及び地球儀の航路表示摸型等にして、一見直ちに同社の現況が如何に壯大なるかを察するに足るべく、而して實に之に對して名譽金牌の最高賞を得たるなり、其褒文に曰く、

卒先して内國海運事業の進歩を圖り殊に明治二十七八年の戰役に方り帝國空前の大輸送を遺憾なからしめたる其功偉なり又時勢の進運に應じ奮て巨多の大船巨船を新造し從來全然外人の手中にありし海外航海權の大部を我有に歸せしめ今や世界の大海運業會社の中に就き優等の地位を占むるに至り且海員養成に盡力尠からざる等其功績の顯著なる特に感賞すべし

其最高の名譽を受けたる、決して偶然にあらざるを知るべきなり



芝浦製作所

（東京市芝區金杉新濱町一番地）

名譽金牌受領

芝浦の海邊大厦巍然として天空に聳へ、黒煙常に天雲を掩へるものを三井鑛山合名會社支店芝浦製作所となす、其位置や東は東京灣に面し、南は海道首驛の品川町に連り、西北二面鐵道線路を隔てゝ區内の諸街衢に接し、實に交通運搬の要衝を占む、蓋し市内大工場中有數なるもの丶一たり。

今同製作所の沿革を原ぬるに、明治八年田中久重氏初めて之を設立し、爾來引續き營業し來りたるを、明治二十六年一月に至り、舊三井工業部に於て其全部を買受け、明治三十一年十二月更に之を本社管轄の下に屬せしめたり、買受の當時に在ては事業尚ほ甚だ振はず、其總地坪の如き僅かに三千九百餘坪を有し、地域極めて狹少なりしを、爾後大に事業の擴張を期し、構内地先の海面七千二百餘坪を埋立て、總計一万二百有餘坪の大工場となし、各工場其他の建物を增築若くは改築し、當事者鋭意熱心之が經營の任に當り、内外百般の組織を改善して、竟に能く事業隆々として振興し、以て今日の盛運を見るに至れり。

同製作所は純然たる機械製造業にして、彼の鐵道車輛の傍ら他の小諸機械を製作し、又船渠業の傍ら船舶機械を製造するが如き、普通の製作工場と其趣を異にせり、此を以て其事に當るもの精益精、練益練、儻に他の製作品を凌駕するに至る、而して其製作品の如き、指命と入札とに拘はらず、一般の注文に應じて製作するを常とするも、又た時に仕込販賣をなし、或は注文主の依頼に應じて、鋼鐵板若くは帶鋸の如き、我國に於て製作し得べからざる物品に限り、特に取次販賣を爲すことあり。

同所の重なる製作品は瀘機、瀘鑵、耐震烟突、鐵道用橋梁、水車喞筒、石油鑿井製油機、鑛山用諸機械、木挽機械、精米機械、鐵索機、發電機、電動機、電氣鐵道用諸機械、水力電氣機械、電燈用器具、變壓器等にして尚其他電氣工事の設計及監督を爲して、一に顧客の便益を圖れり、而して其製作品は總て入念を主とし、我國に於て購求すべからざる用材は、直接海外より精選せるものを取寄せ、製作出來品は一々十分なる試驗を施し、敢て苟くも忽諸に附せず、又た決して注文品の約束期日を誤たず、以て大に顧客の信用を博しつゝあり。

斯くの如くにして同所の當事者は皆一意專心其事業の研究工風を爲し、特種の機械の如き、自家の手に案出製造せるもの尠からず、現に技師小林作太郎氏の如きは直線定寸機械及銅帶卷機械を新案して、製作上尠からざる利便を與へ、又工學士岸敬二郎氏の如きは、發電機及電動機の磁田鐵心を發明して、新たに專賣特許を受け

たり、其他諸機械の益精巧を積めるもの〳〵如き甚だ尠からず、是等の事は作業全般中の一部分に過ぎずと雖も、其効果の及ぼす所決して少々ならず、亦以て同所當事者の如何に製作上に留意せるかを證するに足らん。

又た同所にては宮原式水管瀝鑵の一手製造をなしつゝあるが同瀝鑵は最も嶄新なるものにして、從來歐米に於て行はるゝ諸種の水管式瀝鑵より、極めて優等なる性質數多を具ふ(其効用の多大なるとは此瀝鑵の發明者にして、同じく今回受賞せる宮原二郎氏の事歴中に詳記するを以て之を省く)而して芝浦製作所は實に此効用多大なる瀝鑵の一手製造及販賣權を有せるなり、同瀝鑵の効用は今や大に世人の認むる所となり、各所に續々同式採用の計畫あり、殊に最近東京電燈會社に於て九基の同式瀝鑵を同製作所に注文したる如き、最も世人の注目すべき所なりとす、思ふに今後同瀝鑵の需要は益々其多きを加ふるに至らんも、而して此新瀝鑵の恩惠に浴せんと欲せば、必ずとを芝浦製作所に待たざるべからざるなり。

同所は全工場を分つて六となす、則ち第一は專ら大形に屬する諸機械の製作仕上をなし、第二は專ら電氣機械類を製作し、第三は木型の製造所にして、第四は銑鐵類砲金類の鑄造場たり、第五は錬鐵物、瀝鑵及び煙突の類を製作し、第六は以上各工場に配置せる諸機械運轉の爲に設けられたる原動所にして、常に百キロワットの發電機を据付け、各工場に對する動力傳送の爲め、百五十馬力の大蒸瀝機械を運轉しつゝあり、以て其盛況を卜すべきなり。

同所は太田黒重五郎氏主として其所務を掌り、以下所員技師等數十名、何れも孜々として其精練の功を積みつゝあり、職工は方今一日平均六百餘名を使役し、尚月々增加の傾きを示せり、而して其所員職工は何れも之を優遇し、傷痍疾病等には十分の吊慰金を支給し、又た別に所員職工の預金に對し、特に高率の利子を附する等、注意到らざる處なきを以て、末端の職工に至るまで其變更を見る事甚だ尠しと云ふ。

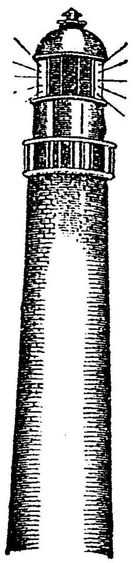
今回同所が第五回內國勸業博覽會に出品したるは、三百二十五馬力瀝機一臺(但二百キロワット發電機と直結)百馬力三相誘導電動機一臺、瀝機直結直流發電機一臺、二百キロワット發電機一臺、瀝機直結直流發電機一臺、二十馬力同三臺、變壓器十一個、直流發電機千噸捲揚機一臺、五吋複式渦卷形坑底唧筒一臺(但二十馬力電動機と直結)二十五馬力耐水形三相誘導電動機一臺等にして、皆其精巧を極めたるもの、是に依つて國家に貢獻する所蓋し尠少ならざるべきを信ず。

同所は曾て第四回內國勸業博覽會に出品したる、發電機變壓器配電盤アーク燈電話機等に對し、範を海外に採るも製作精巧にして改良の點亦尠からずとの故を以て有功二等賞を受領し、同時に出品の風車に對しては製作良好効用尠からざるを以て進歩二等賞を受け、創設二十五年紀念博覽會には、電氣器械を出陳して有功金牌を領

し「模範を遠く泰西の外に採るも近く改良を施すの點尠しとせず構造周到能く實用に適す勵精の効果甚だ著し」との鴻文を得たり、而して今や第五回內國勸業博覽會に於て最高の名譽金牌を受くるに至りたり、其鴻文に曰く

夙に巨資を投じて機械製作の事業に經營し設備完整技術精熟製法意匠俱に緻巧なりとす就中高速度渦機運轉調節法の研究發電機磁極構造の發明の如き巧績顯著特に嘉賞すべし

斯くの如くにして前博覽會に漸く有功二等賞を得たるもの、今や一躍して最高の金牌を得るに至りたる如き、以て同所技術の進歩益々著しきを證するものにして、而して此進歩の著しきは、前に述べたるが如く所員一同の能く共力一致事に當りて奮勵せるの功に歸すべしと雖も、特に太田黑主事が赴任以來、殆んど寢食を忘れて之れが發達に熱中し、能く所員を統率し、能く之を監理して、施設機宜に適し、處措其當を得たるに因らずんばあらず。是れ編者が特に此に附記して、以て其功勞を表彰せんと欲する所のものなり。



帝國煉炭株式會社

（東京市京橋區月島西河岸通四丁目四番地）

三等賞牌受領

明治三十四年佛國巴里に萬國博覽會の開かるゝや、帝國煉炭會社の煉炭は、其代表者男爵楠本清七郎君の名に依て最大名譽の褒章を得たり、然るに今回の第五回內國勸業博覽會に於ては僅かに三等賞を得たるに過ぎず、之に就て其重役諸氏の意向は曰く、三等賞決して不名譽にあらず、寧ろ大名譽なり、見よ渺たる一小會社、名は株式なるも其實は同志數人の合資に過ぎず、而して其目的は將來帝國海軍の原動力たらしめんとするにありて、今や其應用的試驗の時代に屬するなり。其試驗中のものに對して三等賞を得たるは寧ろ滿足せざるべからず、只だ審査官は未だ煉炭の効用を知らず、帝國大學に其審査を托して、工科大學教授工學博士的野中氏の、去五月三十日態々當工場に臨檢せるありて、其結果此賞を得たるものなるも、其博士も果して充分に煉炭の効用を知悉せるや、頗る覺束なきものあるなり、左れど今は斯る事を論ずべきにあらず、只益々奮勵して從來の試驗的より、近き未來に實驗的に移りて、以て國家に貢獻する所あらんを期するのみと、今同社の創立を原ぬるに、同

工場は明治二十八年日本煉炭合資會社に於て創業したるものなるも、四十年以前の舊式機械にして、壓搾力薄弱なるのみならず、其製造法宜しきを得ざりしが爲め、遂に失敗に歸したるものを、同社に購入して大修繕を加へ、三十四年七月を以て開業し、十數年來斯業の爲めに刻苦研究の末發明したる所の、同會社技師本多精九郎氏の藥料と方法とを以て製造に着手し、益々實驗する所ありて、製品大に精巧を加へ、且販路も漸次各地に普及し、殊に三十五年九月、佛國東洋艦隊旗艦ルッドタブル號が再應試驗の上、全部同會社の煉炭を使用することとなり、又同年十二月橫濱に入港せる遲羅國旗艦マハチヤクルクリー號は、同國皇太子殿下の御召艦なるを以て、最上燃料を使用するとゝし、全部英國產カーヂーフ無煙炭を購入する筈なりしも、同社煉炭の優等なるを認めて、英炭と共に特に之を使用したり、爾來橫濱市場に於ては、好箇貿易品の一として同煉炭を歡迎し、外國艦船賣込商人にして、同社煉炭の見本を有せざるものなきに至れり、又橫須賀鎭守府造船廠に於ては、日本煉炭合資會社時代より再三試驗の結果、其煉鐵工場燃料に最も適當なるを認め、現に同煉炭を使用しつゝあり、元來煉炭事業としては、軍艦の燃料を製造するを以て、世間殆んど唯一の目的となし居るも、本邦に軍艦用煉炭原料として、適當なる最上の無煙炭なく、依て同社はコークス煉炭の製造法を研究し、歲月を經て一種の化合劑を發明し、終に精良なるコークス煉炭を製造し得るに至りたるものにして、爲めに如上の好評を博するを得たるものなるが、其規模小にして、普ねく其需要に應ずる能はず、又た海軍省に於ても、汎く之を使用するの意志あるも、同省には自ら內規ありて、製造力少數のものを使用する能はざれば、當局者は同會社に向ひ、暗に其工場の擴張を勸告するあり、旁々今日の試驗時代より、實地應用的第二期の時代に移るとゝなり、今回獨逸國製造最新式一日百二十噸の製造力を有する壓搾機械を購入し、之に附屬せる從來の諸機械に擴張改良を加へ、大に製造額を增加し、生產入費を減少して、價格を廉にし、且製品を精良にして、專ら日本軍艦用品を製造し、若不幸にして其希望を達する能はざる時は、內外艦船其他汎く上等燃料を要する瓦斯車諸工場等に供給し、一は以て廢物利用の途を開き、一は以て國產增進の實を擧ぐる決心なりと云ふ、方今同會社にて製造せるものは(一)軍艦水雷艇用(二)瓦斯車瓦斯船用(三)一般工業用(四)特別紡績及精米用(五)特別鍛冶用等にして、其中鍛冶用の如きは從來三池粉炭に限り、他種の石炭は如何なる上等品も使用に適せざるものとなり居たるを爲め供給の途狹く、隨つて非常の高價なりしを、同社の煉炭發明せられてより、大に當業者の好評を博し、殊に「ノロ」の附着せざると、金肌の浮かざると、及び火造り上後金色赤錆せざるとは、此炭の特性にして、隨つて仕上の際松炭等を使用するの必要なきが故に、石炭其物の代價の外に、利得を得ること尠からずと云ふ、斯の如くにして同社は、創立以來滿三年間、營利を計らずして專ら良煉炭を製出するに苦心

經營し、而かも其業に當れるもの、皆相當の恒産を有し、且舊大名其他華族等の後援あるあり、能く其實力を養ひ得て、以て此事業を完成し、今や世人をして益々煉炭の必要を悟るに至らしめ、爲めに同社に倣ふて中國九州等に其設計を爲すものあり、又た海軍省が益々斯業の發達を企圖する等種々の計畫あるに至れり、同社重役諸氏の本懷想ふべきなり、依て編者は其功勞を表彰せん爲め、是等諸氏の經歷を求めたるも諸氏笑つて應せず、依つて一二他より聞得たるものを左に掲ぐ、又た實業奬勵の微意に外ならざるなり。

取締役　澁江桂藏君

君は長崎縣西彼杵郡多以良村の人、父を慶左衛門と云ひ、子女七人あり、君は其第三男たり、幼時神童の稱あり、資性温和にして最も理財の才に長ず、夙に長崎縣師範學校を、學術品行共に優等を以て卒業し、十七八歳の交擢んでられて小學校長の職を取り、汎く同縣下の各學校を巡視して令名あり、然れども君は之を以て甘んずるものにあらず、二十二三歳の交、驟然上京して專ら英學を修め、舊藩主大村伯、故楠本男等に愛せらる、中年海軍省の屬官となり、居ること數年、外務省に轉じ、文書課に在て專ら外交秘密の文書を司掌す、適々日清の亂あり、君尤も匆忙を極めて能く任務を完ふす、亂平ぐの後感ずる所あり、職を辭して房總鐵道會社に入り、又た茨城無煙炭鑛會社に入りて、共に會計主任の職に在り、三十四年帝國煉炭會社の

起るや、聘せられて亦た其會計主任となり、後五十株の所有主として、同社の取締役に擧げられ、以て今日に至りたるものにして、同社の爲めに盡せる處甚だ尠からずと云ふ。

取締役兼技師　本多精九郎君

君は肥後國熊本の城下に生る、本姓木下氏出でゝ本多家を嗣ぐ、幼にして理化學を修め特に藥學に長ず、本年三十有五、性極めて剛直敢て一歩も讓らず、其一言は金鐵よりも之を重くし、一たび決心せば何事も成就せざれば止まず、此心此膽凝結して二十有餘年、終に能く煉炭の發明を成就して、帝國煉炭株式會社を鼎鑊の重きに置きたるなり、曾て美話あり、君其姉婿にして同じく煉炭の發明者たる草野義住氏と意見合はず、一日意激して草野氏を馬鹿と叫べり、草野氏亦極めて剛直、之を怒つて互ひに吳越の思ひをなす、而して二人共に煉炭の發明を企て、相競爭して以て之が功を修めんとし、爲めに相互其家産を抛つて苦心經營すること幾十回なるを知らずと雖も、双方頑として聽かず、益々反目して一意他を凌駕せんとし、苦心慘憺を極めたるの結果、俱に共に完全なる煉炭の發明を遂げ、双方幾度か軍盧に水雷艇に、其實驗を經て最良好の成績を擧げたり、而して本年偶ま其父母の十七回忌法要あり、兩々之に會して位牌の前に初めて和解の式を擧ぐ、此一

第一編　帝國煉炭株式會社

事如何に其意志の鞏固なるを證して餘りあるぞ、一の發明を遂ぐ決して容易の事にあらず、知るべし此意志の凝結して初めて之が功を奏するものなるを、君の意志や誠に貴重すべきなり、惜むらくは君其熱心の爲めに健康を害すると尠からざるものありと、乞ふ自愛せよ。

和洋菓子製造及販賣業

米津松造君　風月堂米津本店

（東京市日本橋區兩國若松町十一番地）

名譽銀牌受領

米津松造君本性入間川氏、即ち角力道に於て最も有名なる所の東京深川常磐町なる、入間川德藏氏の次男にして、慶應二年八月を以て生る、十二歳の頃下谷坂本町二丁目十九番地なる、菓子商岡野德之助氏の門に入り、菓子製造の業を實習す、岡野氏は昔德川幕府の御用菓子司として、都下菓子商の第一位を占め、其製造最も精良にして世の好評噴々たり、蓋し氏は其頃江戸本町に於て職工百五十有餘を使役せる、鈴木越後守の高弟なりしなり、君之に就きて一意心を其製造法に寄せ、幼少の身を以てして既に深く習得する所あり、主人其有爲の才を見て、大に之を愛し、萬事意を用ゆると殊に深し、君愈々精勵怠らず、勤續十餘年にして、終に主人より菓子製造の秘傳を受け、同店の職工長に擧げられたり、然れども君の大志は尚之に甘んずるとをなさず、益々深く斯業に就て研究せんとを欲し、主人に請ふて暇を貰ひ、洽ねく全國有名の菓子製造業者を訪ひ、恰かも古昔武士の武者修行の如く、到る處に其研究を積むと二年餘、終にあらゆる菓子の製造法、一として知らざるなきに至れ

り、以て君の如何に斯業に熱心なるかを知るべきなり、風月堂米津本店の先代主人、即ち現今隱逃して餘生を樂しみつゝある所の松濤翁、深く其才を愛して之を養子となす、君入つて翁の長女タカ子に配す、時に歳二十五六なり、風月堂は世人の知れる如く、數世菓子製造販賣業者として、世に其名を知られたるもの、殊に先代松造氏嘉永年度の頃、江戸傳馬町の同業者大住喜右衛門に就き、二十餘年間の實習を積んで、大に之に精熟するを得、明治三年を以て現今の處に開業し、初めは專ら日本菓子の製造にのみ從事しつゝありしが、世の變遷に伴ふて西洋菓子の嗜入年々增加の傾きを見るに至りたるも、未だ本邦に於て之を製造するものあらず、是に於て同店は大に考ふる所あり、奮進全力を歐州風菓子の製造に注ぐに至りたるものにして、其意志や之に依つて大に滋養分を世の嗜好家に與ふると同時に、又た海外の輸入を防ひで、以て國益を增進せんとするにありたるなり、然るに先代松造氏(即ち今の松濤氏)は年漸く老ひて隱遁の志あり、而して長男恒次郎氏は、自ら出でゝ南鍋町の分店を管理するに至りたれば、君即ち養子の身を以てして其宗家を襲ぎ、多年研磨せる所の技倆を揮ひ、益々盛んに營業をなすに至りたり、而して分店の恒次郎氏、亦た極めて營業に熱心にして、前後七年間海外に在て研究を積み、西洋菓子製造の秘訣を極めて歸朝したれば、茲に兩々相待つて益々其精を盡し、愈々風月堂の聲價を高むるに至りたり。

現今風月堂に於て製造販賣せる和洋菓子類は其類甚だ多くして、何れも世の好評を博しつゝあるが、其內今回第五回內國勸業博覽會に出品したるはシユガー、ウエーフアース(バニー入)チヨコレート、ウエーフアース、マンユーバロー、バナヽ、サブレー、カルヽス煎餅、カステーラの七種なるが、右ウエーフアースの如きは、近時英國倫敦を初め、歐米各都市の上流に最も愛賞せらるゝ所のものにして、本邦に於て未だ曾て之が製造者を見ず、依て同店初めて之が製造に着手し、新式機械を英國より購入し、原料の配合に就ては、醫學博士三宅秀氏の指揮を仰ぎ、屢々其試驗を乞ひ、數回研究の上漸く發賣するに至りたるものにして、其原質澁泊、能く老人小兒又は病者の常用に適す、又たバナヽの如きは最も夥多の滋養分を含めるものにして、曩に皇后陛下博覽會臨御の際、特に御買上の榮を蒙りたり、其他の菓子皆滋養分に富み、茶菓子として輸出向として、各其特長を有し居れり。

風月堂の菓子製造工場は、日本橋區若松町十一、十二、十三の三番地に跨りて、二百坪を有し、使用職工日々六十有餘人を下らず、製造の數量は、一ヶ年約一百七万個にして、其販路は內地一般の外、清國、朝鮮、新嘉坡等に及べり、亦た盛んなりと云ふべきなり。

同堂が西洋菓子を初めてより以來、褒賞を得たると一二にして足らず、即ち明治十年第一回內國勸業博覽會の開會に當り、數十種の摸擬西洋菓子を出品して歐洲風菓

子製造家の模範たり」との褒告文に添へて鳳紋褒賞を賜り、引續き研磨の功を積みて、十四年第二回勸業博覽會には、洋風菓子十二種に對し一等有功賞を、乾煎餠に對し二等進歩賞を得たるも、尚之に甘んずることなく、一層の改良を施して、二十三年第三回同博覽會には、歐洲風菓子に對して一等有功賞を、カルヽス煎餠に對して褒賞を得、而して今回の第五回博覽會に於ては、實に名譽銀牌の重賞を得るに至りたるなり、其褒文に曰く、

今回出陳の七種共に精良にして一種の特色を有す殊に業務年を逐ひて倍々隆盛に赴き今や風月堂の本支店は延て都鄙に及び一系統の下に氣脈連絡して隱然新式製菓の中心となり世の同業者をして其嚮ふ所を知らしむ蓋乃父松濤が當初の規畫を繼承して倍々之を發展し着々機先を制するに由る其成績甚だ偉なり

其新式製菓の中心となると云ひ、同業者をして其嚮ふ處を知らしむと云ふが如き、實に九鼎よりも重きの語にして、同店が特に此語を得たる其榮も亦大なりと云ふべし、宜なる哉全國の菓子業者中、名譽銀牌を得たるもの只だ君一人に止まれるとや

又た君は右の褒文中にも見ゆるが如く、多數の分店支店を有す、即ち別項記載の分店米津恒次郎氏を初めとし、横濱市常盤町同分店米津武三郎、東京市神田區淡路町同支店穗積峰三郎、同麻布區飯倉同支店七澤康太郎、神田區今川小路同支店伊東直吉、長野市横町同支店七澤三右衛門、大坂市高麗橋同支店鹽谷五郎、神戸市元町同

支店吉川市三、横濱市本町同支店原田千太郎、信州上田原町同支店鈴木敬介等にして、尚別に特約賣捌店として、千葉縣千葉町柴野要之助、山形市旅籠町小林榮太郎等あり、而して右の支店は何れも君の店に使用せられ、七年乃至十年を勤續して、能く功勞顯著たるものに其暖簾を分ち與へたるものなりと云ふ、君が斯業の爲めに竭せる所亦た大なりと云ふべきなり、君當年三十八歲、妻タカ子との間に五人の子女を有し、極めて圓滿なる家庭の生活を營みつゝあり、亦た多幸なるかな。

和洋菓子製造販賣及西洋料理業

米津恒次郎君

風月堂米津分店

（東京市京橋區南鍋町二丁目三番地）

勤業功績錄

君は風月堂米津本店の長男として生れ、當然其宗家を襲ぐべき身を以て大に見る所あり、家を義弟即ち當代の松造君に讓り、特に今日の分店を管理するの身となりたり、君は初め慶應義塾の出身にして、其後今を去ること二十五年前、十八歲の弱冠を以てして、踽然萬里の波濤を超え、米國に渡航してエレメンタリー學校に入り、三年の苦學を積んで其業を卒へたり、當時君は人生に最も衛生の必要なるを感じ、而して此衛生を助くる最も近接なるものは食物にあるを知覺し、自己の營業に係る菓子類の如き、充分之に滋養分を含ませしめ、以て衛生上の一助たらしめ、又た西洋料理の如きも充分之を精選して、以て我國人の營養に資し、大に國家生育の健全を圖らんと欲し、即ち洽ねく滋養食物に關する調査をなさんとを決心したり、依て先づ米國に於ける之が調査をなしたるが、滋養食物の最も發達せるは英國なるを以て、更に同國に渡り、首都倫敦に在て精細に之を取調べ、大に心に得る所あり、而して更に其最も華美にして贅澤を極むるは佛國巴里なるを以て、之をも併せ調査するの必要あり、乃ち又た同國に到りて深く其奥秘を究め、前後七年の長日月を費して、明治二十四五年の交歸朝したり、君が以上の感を抱き以上の研究を積みたるもの、素より其鋭志に依ると雖も、抑も亦た起因する所なくんばあらず、即ち明治元年六月、勤王佐幕の兩黨干戈を交ゆるの時に當つて、薩藩兵粮方より、兵粮麵麭の製造を風月堂に命じ、同店は黒胡麻入の麵麭を携帶に便なる樣特製し、五千人分を納めたる事あり、而して薩藩の兵戰ひ急なる時は之を食して飢を凌ぎ、大に其便利なるを感じたり、其後時勢大に進み、飲食も亦た從つて改良する所あるに依り、同店卒先して西洋菓子を製造し、兼ねてビスケットを製造して世の需めに應じたるに、內國勸業博覽會に於て之に乾蒸餅の名を附せられ、或は有功を以て或は進歩を以て、常に高位の賞牌を得たり、然れども當時尚其製造は充分の精良に至らず、其風味に於ても稍缺くる所ありたり、是れ君が米國に在て、大に衛生の感念を起すと同時に、滋養食物に就て充分の研究を積むに至りたる所以なりとす、以上の如き狀況なるを以て、君が歸朝の當時我國西洋菓子の製造法は尚極めて幼稚に屬し、僅かに人力を以て之が製造に從事するものあるのみ、其產額も極めて少く、之を食用するもの殆んど輸入品を仰ぐの有樣にして、其消費高も從つて多額に上りたれば、君は今日完全なる西洋菓子を製造するとの、獨り衛生上に必要なるのみならず、又大に國益を增進するものなるを思ひ、即ち英國倫敦にて有名なる、シエー、ベーカー、ソンス會社に注文し、公稱十馬力のビスケット製造蒸滾機械を購入し、之を南鍋町一丁目七番地の家屋に据付け、其多年研究せる技倆を揮ひ、夥多の職工を使役して、盛ん

に其製造を試むるに至りたり、是れ我國に於ける同機械設備の嚆矢となす、君年少の身を以て既に此擧あり、其抱負の雄大なる以て知るべし、而して君の此設備は忽ち國家に功を與へたり、夫は他なし日清戰爭の開始にして、此際陸軍省は特に風月堂に命じ、軍用ビスケットの納入をなさしめ、二十七年七月より翌年五月に至るまで、滿九ヶ月の間に無慮三百万斤、此價格三十万圓の巨額を製出して、能く軍用の供給を完ふするを得たり、是れ特に君の功勞として、表彰すべき所のものなりとす。」

明治三十三年佛國巴里に萬國博覽會の開かるゝや、君は之を機として再び佛國に渡航し、滿一年の滯在に、愈々其見聞を博ふして歸朝せり、而して其當時君はウエーファースなる菓子の、同地及英國倫敦等に最も流行し、且つ東洋諸國に輸出せらるゝ額も甚だ尠からざるを見、之を製造して其輸入を防ぐと同時に、大に東洋諸國に向つて之が供給をなさんと欲し、歸路英國に於て其最新式の製造機械を注文したり、而して歸朝後其着するを俟ちて之を兩國若松町の本店に据付け、彼ビスケット製造機械と相俟つて、現今盛んに其製造をなしつゝあり、其他同店製造の飴の如き、初めは其需要內地にのみ止まりしを、君は種々に工風して外人の嗜好に適せしむるやう製造し、終に其目的を達して大に外人の愛玩を受くるに至りたる等、國益を增進するの點に就て、力を注ぐ所のもの甚だ尠からず、又た君は今回の博覽會に大坂支店鹽谷五郎氏の名を以て、同店製造の七寶と稱する菓子を出陳せしめ、之に對して

一等賞牌を受領したるが、此の菓子は最も風味好良のものにして、其七寶なる名は鷗外漁史森林太郎氏の選べる所なりと云ふ。

以上の如くにして風月堂製造の菓子は、一として好評ならざるはなく、現今宮內省の御買上を初めとして、日本赤十字社、日本駐劄各國公使館、其他重なる諸官衙諸會社の用品として、販賣高極めて多額に上り居れり、君又た菓子製造と同時に、米國歸朝後其研究したる料理法を以て、自店の樓上に西洋料理店を開きたるが、佛國再度の渡航に、更に深く同地の料理法を究め歸來世界第一と稱せらるゝ同地の風習を此に移して、益々其精良を加ふるに至りたれば、是亦た極めて好評なると共に、大に滋養分の營養を我日本人に與へつゝあり。

君は極めて店則を嚴にし、菓子類の販賣時間は午前六時より午後八時迄を限りとし、四季更に異なることなし、其店員は常に七十名を下らず、而して君に代つて之を總括し支配せるを石井和三郎氏と云ひ、溫厚忠實の人にして、且つ能く店務に熟練し、注意更に怠ることなく、店員との和睦も甚だ圓滿にして、一人として表裏の行爲をなすものあらざれば、店の信用は益々廣まりて、營業は日に盛大に赴くの一方なり、同店製造の菓子の種類は西洋菓子、ビスケット、日本菓子、飴の四種なるが、何れも其風味佳良にして、且つ滋養分に富めること、世人の既に味ひ知れる所なれば、今此に贅言するの要あらず。

茨城無煙炭礦株式會社

（東京市京橋區築地二丁目三十一番地）

褒狀受領

茨城無煙炭礦株式會社は、明治二十九年中大江卓、竹内綱其他有力家諸氏の創業にして、資本金三十五萬圓、拂込二十九萬六千圓なり、其礦業所は茨城縣多賀郡華川村に在りて、日本鐵道海岸線磯原停車場より坑口に至るの距離凡そ三哩半なりとす、而して同社は之に馬車鐵道を敷設して、礦物運輸の便を圖り、又た坑口には百馬力瀉罐二基、八十馬力捲揚機械一基、十五馬力乃至十二馬力の排水喞筒二基、其他採炭機械等を備へ居れるが、坑内各坑道の總延長は四哩に達すべく、從來の蒸瀉機關のみを以てしては動力の不足を告ぐるに至り、更に今回三十馬力電氣機械の設備をなし、坑内に於ける排水及石炭捲揚の動力に資するとゝなれり、同社明治三十五年六月より三十六年五月に至る、一ヶ年間の採炭額は、實に五千八百有餘萬斤なりき、又た同會社の所有なる炭田の總坪數は百四十餘萬坪にして、其炭質最良好なりとの評あり、近來茨城無煙炭と稱して、採炭販賣するもの尠からずと雖も、其地方に依り炭脈炭質不同にして、華川村に産する同社の採炭に比しては、何れも劣ると數等

なりとす、元來茨城無煙炭は其火力弱くして、大裝置の原動力運轉には適せざるも、之を燃燒するに頗る稀薄なる白煙を吐くのみに止まり、如何なる短き煙筒も、黑煙飛散の憂なきを以て、厨房据風呂ストーブ用等として最も多數の需要あり、殊に都下の湯屋、蕎麥屋、諸釀造所、飴屋、菓子製造所其他煮物等に最も適當し、漸次此等小工場に於ける薪炭の需要に代る傾向あり、又地方に於ても地廻酒造家、上武の製糸所等に使用せられ、特に前橋地方に於ては、座繰製糸竈の燃料として、多數の賣行ありと云ふ、思ふに茨城無煙炭は薪炭の競爭品として市場に迎えられ居るとなれば、將來同炭の運命は、薪炭市價の如何に依りて盛衰するものなりとす、然るに一方薪炭の需要益々增加すると同時に、一方木材の減少益々甚しきに至りたるの今日、薪炭の市價は益々騰貴して、無煙炭を代用するもの漸く多きを加ふるに至るは蓋し必然の勢と云ふべく、同社將來の隆盛亦た期して俟つべきものあらんなり、且つは世の益々進歩發達するに連れて、各鐵道會社の如き、必ず有煙炭を廢して無煙炭を使用するに至るの期あるべく、同社の將來愈々有望のものあるを見るなり、去れど今日の需要は尙ほ甚だ少額に止まり居れるに拘はらず、諸種の會社若くは個人の此業に從事するものありて、炭質の良否をも擇ばず、羽砂利の有無をも避けず、盛んに採炭したるの結果、忽ち供給過超の傾きを呈し、各炭坑其貯炭に苦しめるの餘、過度の競爭を試むるものさへあり、時々投賣同樣の有樣に陷り、終に一二休業

者をさへ出すに至り、同事業は此に頓挫の狀況となりたる中に在つて、同社は毅然として動くとなく、益々其品質を精選し、徐ろに後圖の計をなしつゝありと云ふ、現下同會社の重役は、取締役會長伊藤幹一、取締役樋口保、同竹内明太郎、監査役大野清敬の四氏にして、又た支配人としては同社創立以來の功勞者として又た最も職務に忠實謹嚴なる二宮景輔氏のあるあり、是等諸氏の經驗は能く世の風潮に捲込まるゝことなく、施設悉く其宜しきを得て、會社の基礎益々其固きを加ふるに至れり、依て右の諸氏中、他より聞得たる處の小傳を掲げて其功勞を表彰せん。

取締役　樋口　保　君

君は肥前國東彼杵郡彼杵村の人、世々大村藩士にして本姓森氏、出でゝ樋口家を襲ぐ、資性濶達にして深慮あり、幼時鄉黨に就て漢學を修め、中年明治法律學校に入りて其業を卒へ、直ちに元老院に屬となつて勤務すること數年、後之を辭して舊藩主大村家の家從となり、今尚現に其職に在り、且つ傍ら房總鐵道會社專務取締役、帝國煉炭株式會社取締役等を勤め、且つ金邊鐵道株式會社再興整理委員長として、現に其事に鞅掌しつゝあり、金邊鐵道は世人の知れる如く、初め三百五十萬圓の大會社なりしが、經濟界の恐慌に伴ふに内部の不整理を以てし、社務紊亂して殆んど收拾すべからざるに至りしを、今や其株主及び有志者等奮勵して、之を百萬圓に買收し、更に二百五十萬圓を此人々の手に引受くるか、若くは汎く募集して、以て其事業を再興せんとしつゝあり、整理委員は則ち此目的を以て設けられたるものにして、而して君は特に該鐵道の大立物たる小澤武雄男を初め有志者の推す所となつて之が委員長たるに至りしなり、君最も事業經營の抱負に富み、茨城無煙炭礦、帝國煉炭兩會社の創立の如き、最も與つて力あり、其技倆頗る人の推服する所なりと云ふ。

取締役　竹内明太郎　君

君は彼の政治界の大立物として、所謂土佐派の中堅となれる處の、竹内綱氏の長男なり、父の資性を享けて豪放濶達、極めて自信の力に富み、敢て世の毀譽褒貶を以て自說を枉ぐることあらず、能く果敢決行して毫も憚る處なし、常に語つて曰く、王侯將相豈種あらんやと、蓋し其意我を措て他に人なきを云ふなり、是を以て新聞雜誌の記事の如き、之を賞むるも喜ぶの色なく、之を謗るも毫も意となさず、其自信力寧ろ驚くべきものあり、編者一日君を訪ふて其事歷を徵む、君曰く、我に一の事歷あるなし、若し強て之を求めば只だ失敗の痕あるのみ、君我を褒むるも可、貶すも亦た敢て辭する所にあらず、只だ貴意のある所に任せんのみと、更に又た他を云はず、其飾りなきを此の如し、是れ君の君たる所以なるか、會て君の剛腹と自信とを證するの一事あり、日清戰役の當時、石炭は軍用品なるを以て之を敵國に販賣すべからざるの禁令あり、君は芳谷炭礦會社長たる其嚴父綱氏と共に、窃かに之を

中立國たる米國某會社と密約し、九州唐津港外數ヶ所より、盛んに石炭を輸出したるの結果、巨萬の富を得たるを以て、當時九州の諸新聞紙は、筆を揃へて君父子を攻撃し、之を呼ぶに國賊賣國奴を以てせるも、君平然として更に顧みざりしなり、是れ君が自信力に出づるものにして、而して其意は蓋し小量の石炭輸出何の敵國に利する所ぞ、而して我は之に依りて巨萬の外資を流入す、寧ろ之れ國益を增進するものなりと云ふにありしならんか、君は一方に於て斯く自信力の厚きと同時に、一方に於て慥かに事業經營の大手腕を有せり、則ち芳谷炭礦が十二萬圓の小資金を以てして、常に五十萬圓以上の事業を營みつゝあるが如き、又た其茨城無煙炭礦株式會社重役として、常に其措置宜しきを得つゝあるが如き、優に其手腕を表はせるものと云ふべし、君漢洋の學に通ず、前途有爲の老青年と稱すべきか、本年四十有四。

牡丹煙草製造販賣業

千葉松兵衛君

（東京市京橋區銀座一丁目四番地）

名譽銀牌受領

君は元治元年一月を以て、江戸の中央銀座街に生れたるの人なり、而して其家は遠く天保の初年より、煙草製造の營業に從ひたるものなるも、當時社會の進歩未だ今日の如くならず、煙草の如き僅かに刻の一種あるに過ぎざりしが、維新後一般舶來品の輸入するに伴ふて、漸く其需要者を生じ、我が固有の國產煙草は、爲めに一大影響を蒙らんとするの情況あり、君夙に之を憂ふること深く、以爲らく我が固有の煙草は純粹にして自然の香味を有す、是れ他に比類なき處のものなり、然るに世人の爭ふて西洋煙草を愛喫するに至れるは、一は新を好むの人情に驅られたるに依ると雖も、又た我が煙草製造業者の因循にして、只だ舊態に甘んじ、毫も之を精選し改良するの道を知らざるに座せずんばあらずと、是に於て君は深く其改良に心を寄せ、自ら同業の任務を取りたるは、明治十年即ち西南戰役の當時なりしと云ふ、爾來君は牡丹印卷煙草の製造に着手し、以て大に本邦煙草業の非運を輓回せんと企てたり、君は之が爲めに殆んど寢食を忘るゝ迄に苦心經營し、而して終に能く純良の

製品を出すを得て、漸次內地の需要を增進し、更に進んで淸韓兩國並びに露領浦港等に供給するに至りたるが、君は尙大ひに輸出を計るの目的を以て、曩にナインスターなる兩切金口付紙卷煙草を製造發賣し、專ら日本純良の名葉を撰び、其製造法等にも充分注意したるの結果、大に世の好評を博するを得て、海外の輸出額亦た頓に增加し、大に國利を增進しつゝあり、而して君は又た夙に、完全なる日本煙草を製造せんと欲せば、獨り其製造法に就て改良すべきのみならず、斯業の根原たる耕作法に就て、大に改良せざるべからざるを思ひ、熱心銳意栽培業者に向つて之を鼓吹しつゝあり、斯の如くにして君が國產煙草の特長を發揮し、我が喫煙家の嗜好を固定せしめ、以て外品の輸入を防遏するに就て、既に着々其功を收めつゝあるにも拘はらず、君は更に大に進んで充分に其素志を貫徹せざれば止まざるの決心を以て、一意之に力めつゝあり、其事業に忠實なる實に感ずるの外あらざるなり、現今君が製造する所の煙草の種類は、其數實に百を超え、一ヶ年の賣上金高は四百五十萬餘圓に上ると云へり、而して其製造工場は、自家の裏手なる宏大の本工場を初めとして、市內に九ヶ所の分工場あり、現に使役せる職工人員は約三千人にして、製造關係人員は實に一萬人を下らずと云ふ、尙右の工場內には事務所の設けありて、君自ら之を監督すと、以て其如何に熱心なるかを見るべし、今回其の出品せる紙卷煙草が、名譽銀牌の重賞を得たるは、專ら內地產の原料を撰び、配合調製其宜しきに適し、喫味豐美にして燃燒均齊に、且つ其製額歲を追ふて倍々增進し、能く內外の嗜好に適し、成績甚だ偉なりと云ふに在り、而して特に其褒文中に「業務に忠實なる」を見る」の句あり、今回の博覽會に煙草業者として名譽銀牌を得たるもの實に三名、而して其褒文中に業務に忠實云々の文字あるは君一人のみなりとす、是れ益し眞に適切の句にして、而して君の誠忠能く世に徹底する所あるに依りたるものなるを知るべし、君の心中亦窃かに滿足する處あるべきなり、曾て人あり、煙草界の三傑として、君と及び村井吉兵衞、岩谷松平の三氏を擧ぐ、而して岩谷氏を魏の曹操に比し、村井氏を吳の孫權に比し、君を蜀の劉備に比したり、編者は其比較の悉く當れるや否やを知らずと雖も、君を劉備に比したるに至つては、最も其適評なるを信ず君は劉備の如くに謙讓なるの人なり、君は劉備の如くに德望あるの人なり、謙讓なるが故に、能く業務に忠實なるなり、德望あるが故に、能く世の同情を得るに至れるなり、加ふるに君は人と接して城廓を設けず、一見舊識の如く、而して甚だ愛嬌あり、是も亦君が今日成功の一原因となすべきか、君は又美術思想に富み、諸新聞紙の廣告文案意匠等は勿論、商標レッテル等の如きに至るまで、能く人目を惹くに足るものあり、千葉商店販賣の煙草の包紙を見るものは、必ず其悉く美術的に出來上り居れるを首肯するならん、而して之を開きて中なる一本の煙草を取出すものあらば、必ず其香味の馥郁として能く日本煙草の特性を發揮せるに服するなるべし。

歐米各國時計
寶玉美術品商

吉沼又右衛門君

（東京市京橋區南傳馬町三丁目七番地）

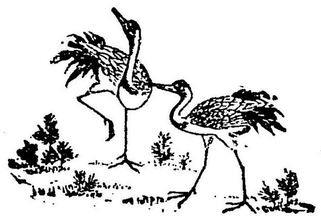
三等賞牌受領

君は山梨縣八代郡市川大門村の人、父を又兵衛氏と呼び、一農夫より起りて、忽ち海外輸出入商となり、人をして其激變の甚だしきに驚かしめたり、君父の資性を受け幼にして大志あり、加ふるに其嚴訓を受けて、能く堅忍不拔の氣性を養成せり、僅かに十八九歲の交に當つて、君心窃かに思へらく、方今人文日に進み、社會の複雜に赴くと同時に、寸間片時を爭ふの必要上、家として時計を備へざるなく、人として時計を携へざるなきに至らん、然るに此前途の需要益々頻繁なる時計にして、一々之れが供給を外國に仰がば、之に依て國益を損すると果して幾何ぞ、左れば我手に於て之を製造販賣するとを得ば、獨り一家を成し得べきのみならず、國家の爲めに貢獻する所亦た決して尠少にあらざるべしと、即ち斯業に就て研究する所あり、終に明治十六年を以て時計店を開き、而して其抱負を實行せんが爲めに、大に奮勵して時計製造職工を養成し、東京市小石川區戶崎町及び表町の兩所に時計製造所を設置し、先づ現今我國に於ひて需要の大部分を占むる所の、掛時計置時計等を製造し、極めて利益を薄ふして汎く世の需要に供したれば、人々爭ふて之を購ふに至り、爾來社會の需要に應じて供給したるの數は、實に君が豫想の外に出でたる巨額に達せりと云ふ、斯の如くにして一方同品の輸入を防ぎつゝ、更に奮勵其歩武を進め、支那、印度、新嘉坡、濠太利亞等の各國に向け、反つて我より輸出を試むるに至り、是に依つて海外の實貨を吸收し、既に奪ひ去られたる我國富の賠償を圖るとに努めたり、斯の如くにして君は二十年一日の如く、黽勉更に倦むなきを以て、能く其素志を貫徹せると同時に、我國時計商の泰斗として仰がるゝに至りたり、而して更に君の功勞として特書すべきは、時計に保險を附するに至りたるの一事にして、由來時計は至微至細なる物質を以て組織せられたる、極めて複雜の器械なれば、幾百圓の高價なる時計と雖も、時に動止破損の虞なき能はざるは云ふ迄もなしと雖も、而かも物質の精粗、製造の濫否に依て、自ら其耐久の差なき能はず、世の奸商等時に外觀の裝を美にして、內部の濫造を厭はざるものあり、爲めに實用に缺くる所甚だ少しとせず、君之を慨して大に其內部の堅牢に力め、而して之を保證するの手段として、其種類に依り保存の年間を定め、其期間內條件の範圍に於て、動止破損等の事ある時は、無料を以て之を修繕し、又は他品と取換へ、若くは何割引かに買戻す等、專ら顧客の安全と便利とを圖り、以て一般普通の時計販賣業者と其趣を異にし、大に社會に注意を促し、粗製濫造時計販賣

者の毒手を防がんとに卒先盡力したり、君の此擧は大に其効果を收め、人々保險附のものにあらざれば之を購はざるに至り、爲めに世の奸商等も、已むなく一々保險を附するに至りたるも、其保險たるや極めて曖昧のものにして、偶ま此證に依り修繕を托するものあるも、種々の口實を設けて之を逃れ、或ひは全く之を拒絶する等、無責任の行動をなすものあるとは、世人の能く知れる處なりとす、君は此點に就て深く其責任を守り、以て大に世の信用を博したり、而して君の此擧は、明治十七年に於てなされたるものにして、本邦時計保險の嚆矢たるは云ふ迄もなく、又た實に商品の賣買に安全を與ふる一大提案にして、君の着眼の新しきと、其業務に着實勵精なると、大に感賞すべき所ならずや、又た君の販賣せる美術品に至りては、從來內國向の販賣を專らとし、各種の巧工名手に囑托して製作せしも、明治二十七八年の日清戰役終局後は、我國の武威を敬慕して、外人の渡來倍々頻繁となり、是に伴ふて我國特技の美術品製作も、亦大に擴張を圖るの必要を生じたれば、君は進んで外人の嗜好に應ずべく、世界的眼光を以て彼此折衷し、大に其製作法を改めて、盛んに販路を海外に開拓し、以て國益の一端を與さんとを期しつゝあり、而して君の商店は初め日本橋區兜町に在りたるも、業務隆盛其家屋の狹隘を告げ、明治二十九年東都の中央にして四通八達の要地たる、日本橋區通二丁目に地をトし、新築工事を起すに至れり、其構造は模範を泰西に採り、六層樓の洋風となし、屋內には階上

階下に陳列場を設け、あらゆる商品を陳列して、以て公衆の縱覽に自由にし、其選擇の便利を圖りたるが、其後に至り、中央停車場成工の期も近づき、市街の地位に一大變遷を來すの期も亦遠からざるを以て、更に將來の要地を計り、顧客の便利を計らんとを期し、京橋際なる今の處に新築工事を起し、工事落成本年七月を以て盛んなる移轉式を行ひ、從來の業務に一層の擴張を加へ、殊に陳列場の構成は和洋折衷最も平民的を旨とし、出入觀覽の自由を專らとせるが、之に使用せる店員は、常に四十名を下らず、又た大阪に於ける其支店の店員も、常に二十名を下らずと云ふ、以て其如何に盛大なるかを知るべし、其他君の海外特約店は、米國に在りては彼有名なるウォルサム會社及びエルジン會社にして、瑞西に在りては世界有數なるタバレス會社及びコダイシヤ會社なり、其他佛白伊獨英等に於ける特約店も尠からずと云ふ、斯く盛大にして且つ効力ある君の事業に對し、今回僅かに三等賞を得たるは、世人の悉く目して不可思議となす所なるが、君は之に對し編者に語りて曰く、余は賞を得んとして出品したるにあらず、只だ營業販賣品の一班を看覽人に知らしめんと欲したるに過ぎず、之に對して賞を得たる、寧ろ異數と云はざるべからず、人或ひは本店の經歷を以てして、僅かに三等賞に止まれるを怪しむも、是れ決して不可思議の事にあらず、今日世の進歩の迅速にして、余が進歩の之に伴ふ能はざりしに依るのみ、之に依つて見れば此薄賞は、余に取つての好奬奮劑なり、只益々今後奮

勵して、以て世の進歩に伴ふを期せんのみと、君の坦懐にして事に忠實なる、豈賞すべきにあらずや。



素麺及溫飩製造機械發明家

眞崎照郷君

（本工場　佐賀縣佐賀郡巨勢村字牛島
東京支店　東京市淺草區駒形町十二番地
大阪支店　大阪市北區曾根崎二千八百十三番屋敷）

一等賞銀牌受領

君は嘉永四年十二月十日佐賀縣佐賀郡高尾村に生る、家世々一鄉の富豪にして、田園數百町歩を有し、龍造寺氏の時官の度支多く君の家に給を取りたり、君の曾祖父半兵衛氏酒造を業とし、杜氏を攝津に聘し釀法を改良せり、當時肥前の酒造家未だ火入法を知らず、其之あるは氏に初まる、是を於て高尾酒の名近年に至るまで一般に高し、父保右衛門氏更に大に家道を興せるも、不幸君の幼時に早逝し、爾來君は專ら母雪子の敎養に依る、母氏最も賢、扶育其宜しきを得、君十五歲にして家政を管し、頗る造詣する處ありしに、明治七年佐賀の亂あり、君の家賊軍の屯所となつて、倉中の釀稟中の米悉く掠奪さるゝ、故を以て酒造を廢せるも、家產猶饒なれば、君是より心を學術に潛め、專ら數理の二科を研究す、性器械製造の事を好み、十七歲の時早く既に學理を應用して櫨實より蠟及油を採るの法を發明す、明治八九年の頃地租改正の實行せらるゝに方り、遠近高低周圍面積悉く圓盤紙上に出現する一の測量機械を製し、之を眞崎測量丹度と名けて其用に供したるに、忽ち好評を得て頗

る其業に便せり、次で測量繩を製す、而して其製麺器械發明の端を啓きたるは實に明治九年にして、而して刻苦慘憺二十年の長日月を費して、終に能く之を完成したり、初め君が其第一木製器械を作るや之を以て試に素麺を製したるに、簾麩類似のものを得たれば、略ぼ其成功すべきを知りて、九年九月頃更に工夫を加へ、第二機械を製作せり、此の機械は素麺一筋毎に小車を繫ぎ、木製の轉子に銅版を張りたるもの〻上に轉じて截斷すべき裝置なりしが、試製の結果一寸許毎に竹節狀の結節を生じ、毫も素麺に類せざるのみならず、機械運轉の際木製盤摩擦力の爲に發火し、製造室を延燒せんとせしとあり、第三機械は十年春より十二年冬に至り、三年を經て成功せるも、試作の結果、又た麺線方形にして素麺に類せず、依て更に工夫を凝し、麺線は半圓形となすを得たるも、尚製麺の三分の一は結節あるを免かれず、且間々延長せざるの憂あり、君是に於て機械發明の大難事なるを思ひ、一たび之を放擲せんとしたるも、更に大に決心する所あり、再び勇を鼓して考案を積み、第三器械の要部を變更して試作したるに、頗る好結果を得たりと雖も、尚其製品乾きて折れ易く、又た煮え易くして恰かも平温飩の如きものをなせり、因て暫く之を温飩機械と名け、常に君の家に出入せる所の鶴澤榮吉なるものに貸與し、製造販賣せしめたるに、鶴澤は其恩惠を忘れ、君を欺き併せて世人を欺き、後年其機械を自己の發明の如く裝ふて特許を出願し、以て其證を得るに至りたるは、實に憎みても餘りある所行と云ふべし、然れども君敢て之を意とせず、十三年春に至り、更に第四機械の製造に着手し、同年十二月十日に成る、而して此機に依りて乾きて折れ易きを防ぎ、容易に首尾を取つて結ぶことを得たるも、一難去つて一難來り、製品皆赤黄色を帶び、且つ煮え易くして微温湯に投ずるも其形を失ひ、終に此機も廢棄するの已むなきに至り、一時失望落膽の域に沈めるが、同十二月中旬より君は一室の中に潜居し、麥粉と食鹽との關係を明にせんと欲し、苦辛晝夜を連ね、幾十回の分析試驗を重ね、大晦日の朝に至り、漸く澱粉質に温度の關係あることを發見し、其試驗を終りたるは、正に明治十四年一月一日朝旭の暉々として東天に輝くの時なりき、君喜躍措く能はず、未だ新年を迎ふるに及ばずして、麥粉硬軟の度を測りて試製し、初めて普通の素麺に異ならざるものを得て、洪洋萬里の中に彼岸を認めたるの思をなせり、是に於て一家狂喜し、團欒栢酒を酌んで新年を迎ふ、其翌日より第五器械の製作に着手し、五月に至つて成れるも、尚種々の缺點あり、且多量に製麺する能はざるを以て、十五年八月更に第六機械を作り、尚其難所を幾回か改修補正して、十六年春に至り、漸く一日能く百貫目乃至二百貫目を製造し得るに至り、此に初めて多年の宿志を遂げたり、然るに此發明事業の爲に家産は全く蕩盡して、負債山積、妻子凍餓に泣き、併せて世の信用を失するに至れり、當時君の母氏尚健在し、巾幗の身を以て此悲慘に沈みながら、毫も之を意とするの色なく、頻りに君を勵まして其大成

を、促す、君が此偉功を奏したるもの母氏の力與つて甚だ大なるものあり、賢母の龜鑑として仰ぐべきなり、而して更に其姉時子の之を助くるあり、時子は同村藤瀬長平氏に嫁けるもの、弟の苦心を見て夫に訴き、殆んど其家財を竭して之に投じたり、君が其姉君に負ふ所亦甚だ大なりと云ふべし、

君は曾て鶴澤榮吉の爲めに、所謂倚犬に手を噛まれたるのことあるを以て、之が特許を得んと欲し、十七年一月此器械の專賣特許を出願せるも、特許條例發布の上に非ざれば詮議に及び難しとて却下され、同年四月同條例の出るに及び乃ち更に出願す、此歳夏縣內惡疫大に行はる、君火葬場を設け、是に由て三百餘圓を利し、器械に修繕を加へて、漸く世の信用を回復せり、十九年の末又器械に大修繕を加へ、翌年一月より五月に至り、殆んど三萬斤を製造せり、六月初旬乾燥室使用に堪へざるに至り、此に業を中止して又大に貧困を窮め、百計既に盡きて、只一縷の望を特許證の下附に繫ぎ、幾回か之を請求せるも更に回答を得ず、二十年冬親戚知己其悲境を見るに忍びず、金を醵して上京せしむ、淹留歳を超ゆ、此間佐野伯君に勸むるに仕官を以てせるも辭して應せず、特許願を代願人に托し、去つて名古屋兵庫等の麵產地を視察せり、其名古屋滯在中二十一年三月三十一日、第四四八號を以て專賣特許證を得たるも、代願人の爲に誤られ、特許願明細書中刪除又は更正されたるもの往々あり、就中硬コテ機械製麵に硬軟二機あり軟製は油を用ゐ硬製は然らず」の如き

は大同小異なるを以て此に說明せずとの理由を以て變更せられたれば、適々得たる特許權も未だ完全の効果を有する能はず、大に失望し、直に上京改訂を出願せんとせしも旅費なきが爲めに果さず、因て其機械は容易に發賣せざるととし、名古屋人に說て合資の溫飩製造業を起さしめ、又姉及從弟を東京に出し、芝區田町に於て溫飩屋を營ましめしに、冷麥の名一時好評を得たり、然るに名古屋にては失敗し、東京の店も故あつて廢し、百斤製機械を携えて大坂に赴きしも、同地熟練の製造者は一日能く百斤を手製するを以て、其機械を買ふものなし、君大に失望して倉皇名古屋に歸り、更に三百斤製の大機械を作り、之を携て再び大坂に赴きしに初めて稱贊を得たり、二十六年に至り、更に工夫を加へて製麵に關する機械を完成し、爾來尙々其特許を得たるものを擧ぐれば左の如し。

特許第二六九七號	同	明治廿一年三月三十日
特許第二七四一號	同	明治廿九年三月十六日
特許第三二六七號	同	明治廿九年五月三十日
特許第四四六號	麵帶製造機械	明治卅一年十一月廿一日
特許第四四八號	麵類製造機械	明治卅三年十二月十四日

尙右の外三十五年に麵帶製造片出機械及自働掛機付麵類製造機械等の新發明をなし

て、以て愈々我製麵業の完成を期することを得たり、今同機械の特長なる諸點を摘記すれば、價格を減じ手數を省き一滴の油も用ひずして、精良佳美なるものを變化なく製出するを得、且つ婦女子も直ちに習熟するを得て、其製量は舊法手製の二十倍に達する等にして、殊に其最良機械の如きは、上より粉を入るれば忽ち下つて糸の如き麵類となり出づる等、實に人目を新たにするものあり、而して其人力を以てするものは、一日十時間に能く三百貫目を、又た其水力及蒸氣力を以てするものは、一日十時間平均實に五百貫目の多額を製するを得、左れば其需要は年々增加し、內地は勿論支那、朝鮮、浦鹽斯德、布哇其他の露領にも及び、毎年平均の販賣高少くも七八萬圓を下らずと云ふ、斯の如くにして君の名聲は大に揚り、獨り家運を再興し得たるのみならず、又た之に依つて國益を增進せること決して尠少にあらざるなり、今や君が舊居の工場のみを以てしては世の需要に應ずる能はざるに至り、大坂及東京に分工場を設置し而して其販賣店は前記東京大坂兩地の外、目下北海道札幌にも設置の準備中なりと云ふ。

曾て世の奸商其隆盛を羨みて、君が發明品を摸造し、一時暴利を貪りたるものありしも、其機械の粗雜なる其製品の不良なる世間何時までか之を容れんや、君は明治十八年官の許可を得て、製麵機械を英國萬國博覽會に出品したることあり、今回第五回博覽會に於ては一等賞を受くるに至りたり、嗚呼二十年の辛苦經營、之を忍ぶ

もの果して幾人かある、堅忍不拔志を奮つて屈せず、而かも能く自信の力に厚きことのにあらざるよりは、焉んぞ能く此大業を完成するを得んや、而して君の此忍耐と自信との力は、其賢母に依つて與へられたるものなるを思はゞ、誰か母氏に向つて謝せざるを得んや、母氏は君の成功を見たる後、明治三十二年、七十四の高齡を以て莞爾として逝けり、若し夫れ地下に今日の盛運を見ば、其喜び更に如何、

君は斯の如くにして其大業を了り、今や之が販賣を其甥藤瀨清一氏に委ねつゝあり、藤瀨氏は則ち君の發明を助けたる其姉時子の息にして資性溷達機敏且つ能く業務に習熟し、東京大坂兩支店の主任として、販路擴張等に盡せるの功勞からずと云ふ（因に記す本書に揭ぐる君の肖像は數年前一家相集まりて撮影せるものゝ中より拔取りたるものなり）

日本鉛管製造株式會社

（東京市芝區三田四國町二番地）

二等賞牌受領

文明の進歩に連れて衛生事業は愈々隆盛を來し、諸大都相踵で水道工事を起し、之に伴ふて鉛管の需要亦益々增加し、加ふるに實業界の進歩に伴ふて諸般の工場及び其他の建築工事頻りに起ると共に、材料の改良を來し、鉛管の需要又た益々增加したるも、從來我國には未だ之を製造するものなくして、一に外國管を輸入し、僅かに其用に供するを得たり、然るに其品質頗る劣等なりしを以て、使用者は爲めに不時の損害を蒙るとあるも、亦如何ともする能はざりしなり、故海軍技監工學士若山鉉吉氏大に之を慨し、大江卓氏と謀りて、明治二十九年八月奮つて鉛管製造工場を起し、曾て歐米滯在中目擊せる所の諸種の製鉛機に就き、其長所を採て彼此綜合し、茲に數種の製管機を組立て、弥ら技師技手を率ひて、此新機械に依り製管に從事し、更に之に改良を施して、漸く其意に充つるものを製造するに至りたり、此間に於ける氏の苦心經營は、筆紙に盡すべからざるものあり、其資を投じ難を排し、專念機械の改良に從事して、亦他を顧みざるもの數閱月、漸く其功を奏して之を發賣するに至りたるが、明治二十九年十二月大阪水道部に於て初めて之を採用したるに、其成績良好にして、之を外國品に比するに價甚だ廉に、而かも品質は却つて優れるものあるを實地に證明し、大に公衆の注意する所となり、次で廣島市軍用水道、神戸水道及び東京市等皆之を用ゐて良好の成績を得、爾來橫濱、長崎、函館の水道部も亦之を用ゐるに至りたり、特に板橋及び宇治火藥庫、下瀨火藥製造所の注文に依り納付したるものゝ如きは、大に當路技師の稱讃を博したりと云ふ、斯の如くにして其需要大に增加したれば、東京本工場の外更に大阪分工場を設け、愈々技術を磨き製造に勉めたるの結果、未だ二歲ならずして外國品の輸入は著しく其量を減じたるも、各市の需要益々加はれる爲め、未だ全く其輸入を杜絶するには至らざりしが、是れ畢竟若山氏の製造所が創業日尙淺きと、資金甚だ饒ならざりしに由るものなるを以て、氏は更に大資本を醵集し、工場の規摸を擴張し益々斯業の改良に從事し、一は外國製品を我市場より排斥し、更に進んでは之を東邦諸國に輸出せんことを期し、實業界の諸名士に謀りて其贊同を得、茲に組織を株式に改めて、三十二年四月日本鉛管製造株式會社を設立し、若山鉛管製造所を擧げて、其事業を繼承することゝなりたり、是れよりして同社は愈々製品の改良に勉め、使用者に就て其製品に關する所見を叩き、種々改良する處あると共に、專門技師が銳意研究の結果、技術上改良發明したるの點も尠からず、殆んど斯業の蘊奥に達し、且職工の熟練も愈々加はりて、

終に一點の非難なき完全の鉛管を製出するに至りたり、然るに其需要は年を追ふて益々加はり、既設の機械漸機を以てしては到底其需要を充たす能はざるを見、三十一年最新式大製管機を英國に注文し、同年十二月到着し翌三十二年二月漸機の据付に着手し、十二月に至り漸く其工を竣たり、茲に於て東京本工場は新式機械と共に四臺の製管機を有し、大阪分工場は三臺を有するとゝなり、製造力は從來に倍加し、毎日の製造高十五噸より二十噸の多きに及び、且つ新機械の到着に依りて大口徑のものをも容易に製造し得べく、加ふるに英國製管機を實地に運轉し、其長所を採り て更に改良を加へ、三十三年之が設計に着手し、十月大阪分工場に此改良機械を据付けてより、愈々其業務の完整を見たり、斯の如くにして同社が豫期の第一段たる外國品輸入の杜絶を見、更に其第二段たる輸出の事も近來着々其功を收めつゝあるは、獨り同社の本懷なるのみならず、又た國家の慶事として賀すべきなり、抑も鉛管の最も多く使用せらるゝは水道工事にして、瓦斯用、製藥用之に次ぎ、近時に至りては工場船舶其他下水工事等亦多く之を用ゆるに至りたり、此の如くなるを以て、若し鉛管にして不良の鉛塊を以て鑄造せられしものなる時は、鉛塊中に混在せる不純物の、漸次水或は藥液中に溶解し、爲に鉛管に無數の小孔を生じ、其使用時期を短縮するのみならず、遂に目的の用をなさしむる能はずして、爲に生ずる損害は使用者のみに止まらず、其水を飲み其藥液を用ゆるものが、直接間接に被るべき害毒は計るべからざるものあらん、是れ最も恐るべきの事なるを以て、同社は原鉛の撰擇に最も注意し、各地の鑛物を取て詳細に分析し、遂に濠州產鉛中、不純物の混合最少なるものを發見し、此を採て同社製管の原料となしつゝあり、而して此鉛塊は又た最も粘着力に富み、可展性も亦大にして、水道の如き强壓力に耐ふるは、他に其比を見ざる處なりと云ふ、又た水道管に最も忌む所のものは偏肉にして、此の如き鉛管を用ゆる時は、水の高壓力に依り薄弱なる部分に破裂を來し、用を爲さゞるに至るのみならず、鉛管は重量に依り賣買せらるゝものなれば、非常の高價を拂ひ、全く之を損失せざるべからざるに至る憂あり、故に偏肉匡正は從來製造家の最も苦心する所なるも、此缺點は最も起り易きものにして、嘗て本邦に輸入せる外國管の如き、偏肉ならざるものは殆んど之なき有樣なるが、同社は苦心の結果能く此缺點を除去することを得たり、又た瓦斯管は極めて薄肉のものを使用するを利益とするものなるが、薄肉のものは機械の精良と技師職工の熟練を要すると極めて大なるに、同社は亦た此點に於て充分の成功を奏し、其他化藥製品等の諸工場製造用管、船舶、下水用管、錫引鉛管、合金管等亦皆最も其用に適し、近頃は錫管鉛線鉛棒ハンダ管等をも製造して顧客の便益を計り、而かも何れも代價極めて廉なれば、需要者の之に依て利する處極めて大なるものあるべきなり、同社の資本金は十萬圓にして、內拂込濟六萬五千圓なり、株主總數は四十二名にして、重役の氏名は左の如し。

事務取締役社長鄉誠之助、取締役長松篤棐、同大江太、監査役佐々田懋、支配人飯田一馬、

而して事務員は五名にして職工は僅かに十一名を使雇せるのみなりと云ふ。

合資會社 大日本坩堝製造所

（東京市芝區三田小山町三番地）

二等賞牌受領

黒鉛坩堝は由來貴重の品なるにも拘はらず、初めは悉く其供給を外國に仰ぎたるに、其後漸く官に於ても之を內地に製造するの必要を感じ、曾て工部大學內に同製造所を設け、能々外國より技師を聘して之に着手したるも、其の効果を收むる能はずして止み、其後明治十六年藤田一郎氏は、兵器製造上必要なるの廉を以て、東京府より數萬圓の保護金を受け、同志と共に本業を芝區三田小山町に起したり、左れど是亦た失敗に歸して、二十五萬圓の損失をさへ生じたるを、即ち今の大日本坩堝製造所に於て引受け、同志數人の合資會社として、明治十七年愈々其業を繼續するに至りたり、是れ即ち同所の起因にして、而して實に本邦に於ける斯業の嚆矢なりとす、爾來同所は備さに千難萬艱を嘗め、鋭意斯業の發達を企圖し、器械を改善し、職工を練磨し、倍々研究の功を積んで、終に能く今日完成の域に達したるものにして、其製品は年一年と需用增加の一方に傾き、殊に二十七八年戰役の後各種の工業勃興してより、愈々其需要を增進して、好評至る處に嘖々たると共に、此に殆んど外國

品の輸入を杜絶するを得たるは、一に同所の大功勞として表彰すべきなり、抑も同所の未だ盛んならざりし頃に當つては、米國モルガン及びヂクソン商會等專ら之を輸入して多額の價格を貪り、國帑を吸收し去ると甚だ尠からざるものありたるに、一たび同所の精品出でたるより、忽ち其品質は外國品に優り、而して價格は低廉なりとの好評籍甚して、須臾に同業の覇權を握るに至り、其製造高の如き年々長足の增加をなし、今や一ヶ年約二百萬番を製出し、其他黑鉛類耐火用器の販賣を併せ、一ヶ年の賣上價格大凡三十萬圓の多額に上れり、尙ほ同所製造の初めに當つてや、內國製は外國製に比し、耐火力薄弱なりとの非難ありたるも、是は畢竟其原料の異なる爲めにして、決して製造技術に優劣あるにあらず、故に外國原料を以て製造せば、能く外國品に劣らざるものを製出すると容易なりと雖も、斯くては價格昇騰し、外國品を用ゐるの寧ろ優れるに若かざるの結果を來さんとす、依て同所にては外國品に優る原料を發見すると種々苦心の結果、耐火力を有する精品を發見し、良品出來するに至り、目下は專ら內地產の原料を基礎とし、之に外國產原料を加味し、幾多の苦心を重ねて、終に能く價格低廉にして、外國品を凌駕するの良品を製出するに至りたり、而して其原料たる黑鉛は北海道に在ては後志、幾內に在ては山城、東海道に在ては三河、伊勢、東山道に在ては陸前、下野、上野、飛彈近江、北海道に在ては越後、越中、加賀、山陽道に在ては長門、南海道に在ては紀伊、西海道に在ては筑後、豊後、肥後、大隅、薩摩等に涉り、其產出甚だ尠からざるも、特に最も良質にして、且つ多額の產出あるを飛彈なりとす、依て同所は專ら飛彈產のものを擇み、同國赤城郡壬生村に黑鉛鑛數十萬坪を所有し、常に百八十餘名の坑夫を使役して專ら採堀なさしめ、其一ヶ年の採堀高二千俵以上に上り、同國にて他人の採堀する黑鉛山三四ヶ所あるも、其內製品の七分通りは同所にて買入るゝは勿論、尙傍ら印度、錫蘭等より多額の原料を購入して、以て不時の用に備へつゝあり、其注意の周到なる、他に其比類を見ざる所なりと云ふ、抑も黑鉛坩堝は原名之をGraphite Crecible（グラフヰット、クルシップル）と稱し、強大なる火に耐へ得るを其特質とし、金屬等を溶解するに必要のものにして、特に軍器を製造するには、最も缺くべからざるの品たり、何となれば軍器として最も大切なる大砲の如きは、坩堝式にあらざれば到底製造する能はず、現に世界に有名なる獨逸クルップ製の大砲の如き、悉皆坩堝を以て鑄造するものたり、斯く大切なるものなれば、一朝開戰の時に當つてや、黑鉛坩堝は忽ち禁制品となるべき性質を有するものにして、直ちに國家的のものとして重きを置かざるべからざるも的のみと見る能はずして、同所が初め利益の有無を顧みず、幾多の困難と闘ふて備さに辛酸を嘗めたるも、畢竟一片爛々たる愛國の衷情に出でたるものにして、其至誠能く之を完成するを得たるは、獨り同所の爲めに賀すべきのみならず、又た國家の爲めに大に

之を賀せざるべからざるなり、若し夫れ同所の之に成功するなく、今にして依然外國品を仰ぐとせば、其平素に於ける國費の損耗は暫らく措て問はずとするも、一朝事あるに當つて、果して能く尚ほ之を輸入して、以て軍器の運用を完ふするを得たるや否や、編者之を思ふて窃かに寒心する所あると同時に、同所の功勞に對して深く謝する所なくんばあらざるなり、同所の製品は一千八百八十五年英國倫敦萬國發明品博覽會に於て最も名譽ある賞牌を受領し、今又た第五回內國勸業博覽會に於て二等賞牌を受領するに至りたり、同所製品の如何に精良なるかは、左に載する數種の試驗成績證明書に依て證するとを得ん。

書面耐火の回數試驗候處左記の通りに候事

鑄鐵用　十五回
同　十三回

從來使用の舶來坩堝

橫須賀鎭守府海軍造船所

其社製坩堝

保存回數　五十二回
同　四十回

明治十七年九月十日

東京砲兵工廠

書面の坩堝黃銅鎔解に使用試驗候處其保存回數左の通に候事

其社製坩堝十六番形

保存回數　五十二回
同　四十回

モルカン社製同

明治十七年十二月十五日

東京砲兵工廠

五月二十日十月二十八日の書狀正に領收致候將た五月二十日附の書面を以て御申越に相成候坩堝正に相達し領收致候右製造所の坩堝を以て拙製造所に於て試驗の手續

致し端士國產鋼鐵を鎔解するに必用の時間火中に投じ候に少しも缺損又は破裂するなく實に火力に堪ゆるの確證を認め候右坩堝は英國ドウルトン會社の製造品と御比較相成候も實に優劣無之ものと存候先は用事迄匆々頓首

千八百八十七年十一月十一日　巴里府プロバンス街五十六番號　カルスネイ

大日本坩堝製造所出願同社製造の黑鉛坩堝二個試驗の結果左の如し

一黑鉛六十番形二個

右坩堝を以て精製銀を鎔解せしに一個は二十回、一個は二十一回の使用を經たるも毫も缺損を生ぜず但其側壁薄弱となれるを以て其上の使用を止めたり此結果に由て觀れば製作佳良なるものと見做す

明治二十八年三月十六日

試金部長理學士　甲賀宜政
造幣局

右報告候也

大日本坩堝製造所出願黑鉛坩堝二個試驗の結果左の如し

一黑鉛坩堝九十番二個

精製銀を鎔解せしに二個共に二十六回の鎔解に堪へたり

試金部長理學士　甲賀宜政
造幣局

明治二十八年七月二十九日

右及報告候也

同所社長は川村朝次郎氏にして、代表社員は小林宗英竹田錠三郎の二氏及び通常社員は中野長兵衛、藪田岩松の二氏なりとす、又た同所創立以來技師の任にあるは小澤金太郎氏にして、氏は極めて斯業に鍛鍊の聞えあり、同所今日の隆盛以上の諸氏に俟つ所極めて多きを見る。

社長　川村朝次郎君

君は醬油釀造地として有名なる下總國葛飾郡野田村の人、本姓茂木氏、父を七郎右衛門氏と云ひ、世々土地の名家たり、君夙に千葉中學校を卒業し、十九歳の時海外貿易の雄志を抱ひて、單身孤行清國に遊び、各市場を渉獵して得る處あり、又た此時を以て米人某に知られ、共に米國に航せんとしたるも、感ずる所ありて之を止め、翌年歸朝して福澤諭吉翁の知を受け同家に止まる、然るに海外漫遊の雄志勃々として禁せず、乃ち同年高島小金次氏と共に米國桑港に到る、蓋し日本醬油の販路を海外に求めんと欲したるなり、醬油は英語之をソースと云ひ、曾て和蘭人の初めて我國に渡航し來り、爾來之を釀造するに至りたるものにして、我國實に之が元祖たるなり、依て君は我國釀造のものが最も精良なることを汎く米人に知らしめんと圖りたるも、之を爲すと廣告に依るの外なく、而して其廣告料は少くも十萬圓を費さゞれば、汎く各地に行渡らしむる能はざるを覺り、乃ち心に決する所あり、桑港を去て直ちにヒラデルヒヤに至り、自ら同地に雜貨店を開き、其利益を以て廣告費に充つるの計畫を立てたるも故ありて果さず、依りて先づ一身を研學に委ねんと欲し、更に東部ニユーヨークに出で、同地の商業學校に入りて苦學研鑽、其業を卒へて更に南部イサカのコロヂル大學に入り、專ら理財學を修むるの傍ら、國際公法を修めたり、是より先君の友人岩崎清吉氏はエール大學に入りて

理化學を修めつゝありしに、君の說を聞て同學の迂遠を覺り、去つて君と共にコロヂル大學に轉じ法律學を研究したり、君は修學の後更に實地の研究をなさんが爲めに配す、川村氏は昔時彼の十人衆と稱し、三井等の人々と共に幕府の用金調達方として、最も有名なる舊家たり、傳藏氏は號を綠陰と稱し宗家を實弟傳衛氏に讓り、自ら別居して狩獵官に任ぜられ、親しく宮中に咫尺するの身にして、今尙其職に勤めつゝあり、又た傳衛氏は十年以前迄三十三銀行、馬車會社等諸種の重役として最も實業界に重んぜられたるの人にして、垣塲製造所には今日に至るまで二十餘年間絕えず出資して其功勞極めて尠からず、是等の關係よりして君も大に同製造所の爲に盡力する所あり、三十四年推されて終に其社長となり、今に至るまで專ら其事に執掌し、以て第二のモルガンたる初一念を貫徹せんとに力めつゝあるなり、君本年三十有八、春秋甚だ富む、前途夫れ多望なるかな。

取締役　小林宗英君

二十餘年の長日月間、絕えず坩堝製造所に出資して其命脈を繫ぎたるものは前述の如く川村氏其人なり、而して又た二十餘年間作戰計畫の任務に當り、施設其宜しきを得て以て同所今日の隆盛を來したるの功は之を君に歸せざるべからず、君本年四十有三歲、夙に攻玉社に入つて其學を修め、最も數理の學に長せり、君の亡父君を順興氏と云ひ、曾て坩堝製造所に在りて最も力を盡したるの人、若し川村傳藏氏を肅何に比せば氏は實に韓信たるの人なりしなり、而して君亦其遺志を繼ひで專ら同所經營の任に當り、今の社長川村朝次郎氏が養父の後を繼ひで肅何たるの位地を保つと同時に、君亦た亡父の後を受けて韓信たるの位置を失はず、兩々相待つて同所の盛運を來しつゝあるなり、初め川村傳藏氏は藤田一郎氏を其代理者として、君と共に業務を執らしめつゝありしに、君偶ま藤田氏と意見の合はざるものあり、乃ち自ら潔よく身を退かんと決心し、明治十八年一たび去つて直ちに芝神明町に、獨力を以て鑄壺製造所なるものを設立し、以て大に獨立營業の旗幟を飜へしたり、其意氣の壯なる以て見るべきなり、斯の如くにして君の營業は明治三十四年迄繼續したるが、兩々相分立するの不可を說くものあり、入つて君と川村朝次郎氏との間を調停す、是に於て其融和成り、乃ち兩所を合併し、更に其業務を擴張するに至り、以て君父子が同所に盡したるの先功を完ふすることを得たるは、自他の幸福と云ふべきなり、爾來君は專ら同所經營の任務に當り、造詣する所のもの極めて多し、而して更に君は合併の一條件として、耐火粘土製分拆器具の製造は、依然君一人の經營に係るものとし、而して同所は之を特約販賣することとなり居れるなり、以て君の同所に於ける勢力を知るに足らん。

武力板着色玩具美術諸印刷及製鑵業

安生慶三郎君

清州商店

（東京市京橋區月島西河岸通十丁目五番地）

三等賞牌受領

君は慶應二年五月下野國上都賀郡清州村に生る、兄を武一郎と云ひ、其宗家を襲ぐ、君別に一戸を成し、水戸の有志加藤木甕の妹スエ子を娶り、本年九歳を頭に三人の子女を擧ぐ、君幼にして頴悟、夙に我國工業の振はざるを慨し、一たび米國の同業を視察して、大に我國に資する所あらんを企て、十八歳の時僅かに旅行の費を作つて同國に渡り、苦楚辛酸を嘗めて、斯業に就き深く研學する所あり、多くの師友の愛する所となる、君既に學理を修めて、更に實地の研究を積まんと欲し、米國有名のフレザー、エンド、チヤーマン會社を初め、斯界二三の會社に入つて、專ら機械に關する實地の經驗を積み、斯界二三の會社に入つて、專ら機械り、南北兩亞米利加の諸鑛山を歷遊し、其實地習得せる所の技術を、層一層に經驗し、能く實地と學理との蘊奥を究むるを得て、二十二年の春歸朝したるが、憶りなくも故古河市兵衛氏の聘する所となりて、其所有の足尾銅山に、諸機械の監督を專任するとゝなり、傍ら古河氏所有の各地鑛山を巡視して、一に諸機械設計の事務を

司り、貢獻する所のもの甚だ多し、斯の如くにして黽勉すること前後九年の久しきに亘り、明治三十年の暮に至りて、竟に之を辭せり、蓋し多年の蘊蓄を發揮して、獨立の營業を試みんと欲したるなり、古河氏大に君の去るを惜みたるも、終に之を止むるに由なく、重く其多年精勤の功を賞して分る、君は赤手より起りて、多年の辛酸漸く多少の財を餘すを得たるを以て、之に依り其多年志せる方向に進まんことを企てたるなり、其方向とは他なし、卽ち今の武力板玩具等の製造業にして、當時君心に思へらく、我國の工業上に百年の大計を立つるは、汎く兒童の腦漿に之に關する新思想を浸染せしむるに若くはなし、而して之を浸染せしむるには必ず家庭教育に於てなさゞるべからず、而して其家庭教育の捷徑は、兒童の頭腦に直接感化を及ぼす所の玩弄物をして、悉く技術的教育の趣味を帶ばしむるに在り、歐米人の能く技術思想に富み、婦女子に至るまで能く之を嚙分くるの能力を有するは、主として其玩具の技術的なるに依るものにして、而して歐米の發達は實に重きを此に於けるものなりとす、然るに我國には蒸滊、電氣、水、風等の諸原動力を應用せる、教育玩具の如きものは殆んどあるなく、兒童が技術的思想養成の媒介となるもの絶へてあるなし、是れ家庭教育上の一大恨事ならずや、假令ば今日滊車滊船に乘るもの、能く其獨力馳行するを見ると雖も、如何なる故を以て獨力馳行するかの理を知るものは、兒童は勿論大人中にも、甚だ尠きにあらずや、斯の如くにして我國技術の發達

を望むは、木に椽つて魚を求むるの類のみ、左れば滊車滊船等の玩弄品に至るまで、之を技術教育的に作成し、之に依りて一は水力に依り一は火力に依り馳行し得るの理を知らしめんには、好箇の遊戯物たると同時に、好箇の新智識注入品たるを得て、其功果は必ず大なるものあらんと、乃ち自ら此大任に當らんと決心し、三十二年十二月、麹町區飯田町四丁目一番地に工場を設け、先づ武力板着色の試驗に着手するに至りたるが、此間君は非常の苦心と工風を費して三十三年五六月の頃、僅かに不完全ながらも印刷物として見るべきものを得たり、爾來尚鋭意之が研究を積み終に能く之が功を收むるを得、玆に數萬圓を費して、獨逸國ヒーゴ、コッホ會社より、武力板印刷機械、ワニス引機械、同艶出機械、製鑵機械等の數種を購ひ、又た公稱三十馬力の滊機を佛國に、共に數萬圓を投じて特製せしめ、明治三十四年の春を以て、前記月島の海岸に三百有餘坪の大工場を設立し、玆に初めて其製造に着手するに至りたるものなるが、其初めは邦人尚未だ武力板印刷物の利用を知らざりし爲め、事業萎靡として振はざりしが、君の熱心は能く世間に徹底するを得て、爾今漸く其需要を增し、君の考案に依りて之を印刷する數多の同業者をさへ生ずるに至りたり、方今君は常に三十名乃至五十名の職工を使役して、盛んに業務を營みつゝあるが、其製品の販路は東京大部分を占め、地方にも相當の賣行あり、又た直接には輸出せざるも、諸種の容器となりて、

支那朝鮮等に輸出せらるゝものも尠からずと云ふ、而して又た之に依りて製せられたる諸種の教育的玩具は、東京教育博物館を初め各地の學校等に寄贈して、教育上有益のものなりとし、知事其他より賞狀木杯等を贈られたることも尠からずと聞けり、今其幾十種の製品を見るに、何れも美術的新巧緻のものにして、優に舶來品を凌駕するに足れり、特に其諸製鑵や茶具盆や諸看板の、數度乃至十數度摺にしたるものゝ如き、繪畫着色等の美術的優等品なるは勿論、更に剝落汚染等の憂なく、人をして能く武力板に斯る巧緻を施せるに驚かしむるものあり、又其玩弄品中滊車の如き滊船の如き軍艦の如き水雷艇の如き、一たび床上に置けば忽ち笛を鳴して疾驅し、一たび水上に浮ぶれば忽ち波を蹴つて進行するが如き、何れも精巧無比人目を新たにするものあり、且つ其堅牢にして能く耐久の力ある等、實に工業美術的教育上の新製品として、更に間然する所あらざるなり、君は之に對して今回第五回内國勸業博覽會に三等賞牌を受領したるが、つゝ答へて曰く、今回の受賞は實に以外なりき、其三等賞を得たるは前々よりの賣殘品にして技術の最も拙なるもの、若しくは殆んど出來損じの品のみにして、自分が最も意匠を凝し最も力を費して、舶來品に對し敢て遜色なしと信じたるものに對しては、何等の沙汰もあらざりしなり、審査官の見る處果して那邊にありしやは、自分の窺知する處にあらざるも、自分は寧ろ此受賞を難有迷惑に感じたり、思ふに

歐米に於ける同業者の、美術的武力板印刷業を營むや、悉く其特長ありて優に專賣特許を得るの價値あるも、敢て之を受くるとなくして、特長のある所即ち顧客のある所となし、他を顧みず一意研磨の功を積めり、其自信力の厚き欽羨すべきにあらずや、我國に於ける本業は不肖慶三郎を以て嚆矢とす、其技術の未だ熟せざる、敢て歐米品に優るべしとはなさゞるも、又た聊か自信する所のものあり、褒賞の厚薄我に於て何かあらんや、只だ其自信の力に依つて、今後益々其發達を期せんのみと、編者其言を壯とし、乃ち之を錄して以て後日の左券となす。

因に記す、清州商店とは君が出生の地名に採りたるものにして、現工場機械等數萬圓のもの、一毫の徽も之を他人の力に藉らず、能く獨力以て之を營みつゝあり、初め君の知友之を株式若くは合資にするを勸むるものありしも其の不可能なるとを慮りて斷乎として之を斥け、獨力能く精勵したるの結果、今日の盛況を見るに至りたるものなりと云ふ、若夫れ今後其製品が益々盛大となりたるの曉、其如何に美術教育的家庭の必要品として世の歡迎を受くべきや、而して更に其如何に世の兒童を益し國家を利するとの多きや、刮目して待つべきものあらんなり。

君は以上の如く美術工業的家庭教育に熱心なると同時に、能く自家の家庭に其模範を示しつゝあり、夫人スエ子との交情鴛鴦も啻ならざるは云ふ迄もなく、其三人の子女の教育の如き、米國的獨立自尊の思想を啓發するに力めつゝあり、君は多く工

場に在り、子女教育は勿論夫人の任務なるが、夫人亦た能く良人の意志を体し、最も圓滿に、最も愉快に、又た最も規律正しく家庭を治めつゝあり、而して此家風は能く其使役せる職工等迄を感化し、同工場にあるもの何れも其品行を愼み德義を重んじ、他職工の龜鑑となるべきものありと云ふ、亦た感ずべきかな。

時計寶玉類內外雜貨各
種美術品及銃砲火藥商

江澤金五郎君

家號天賞堂

（東京市京橋區尾張町二丁目十六、十七、十八、十九番地）

一等賞牌受領

編者此書を纂するに當つて、一々其人に就て事歷を徵む、則ち一日腕車を驅つて江澤氏を訪ふ、君偶々支障あり、店員をして代つて應接せしむ、店員編者の徵めに對えて曰く、主人年齒未だ高からず、事歷として世に傳ふべきもの更になしと、編者其謙辭なるを說き更に之を求む、店員頑として聽かず、曰く、僅かに一等賞牌を得、何ぞ以て名譽となすに足らんや、否、啻に名譽となすに足らざるのみならず、此以上の賞牌を得る能はざりしとせば、偶ま以て其技の未だ熟せざるを示すのみ、是れ寧ろ本店の世間に對し恥とすべき所にして、主人は決して之を世に吹聽さるゝを好まざるなり、左れば今後此恥を恥として益々其技を進め、他日能く其功を奏して一家を成せるの時、初めて其事歷を世に吹聽することもあらん、主人の意志此の如く、他の事歷を徵せらるゝ人々に對しても、一切此旨意を以て斷然之を謝絕し居れり、決して貴下に對してのみ謝絕するにあらざれば、乞ふ惡からず諒せられんことをと、編者其意志を壯とし、更に曰く、貴店の從來の名聲を以てして今日僅かに一等賞を得、然れども之を以て恥とすると云ふに至つては、畢竟是れ貴店の遜辭のみ、世人の貴店に對する信用は、之が爲に增すあるも決して減ずべきにあらず、則ち今回の事を傳えて、更に又他日奬勵の資となすも可ならずやと、店員尙ほ應せずして曰く、主人既に前述の決心を以て立てり、店員一同亦此決心を以て事に從はんのみ、之を措て更に他志あらず、乞ふ再び言ふ勿れと、其意益々軒昂、編者即ち之を壯として去る。思ふに此意氣と此決心とを以て事に從ふ、他日必ず將に大成するの期あるべきなり、編者は深く其小康に甘んぜざるの意氣を欽す、乃ち窃かに他より傳聞する所を記して、以て其風丰の一端を窺はんと欲す。

蓋し江澤氏の先代が、初め篆刻の業に從事するや、其技巧妙一世を驚かすものあり、終に叡聞に達して、畏くも玉璽の篆刻を命せらるゝに至り、深く天恩に感じて爾來天賞堂と名くるに至りたるは、世人の既に熟知する處たり、而して同氏の事歷に就ては、世間兎角の議論をなすものなきにあらずと雖も、氏は大志を抱ひて而かも小心翼々たるの人なりしなり、極めて精神的の人なりしなり、何事も之を口にせずして、實行の成績上之を世に知らしめんことを期したるの人なり、追從なく方便なく只だ赤誠ありしのみ、故に時として人に誤解されたることありと云ふ、當代の主人金五郎君、亦た最も謹嚴の人にして、浮華輕佻の行爲なく、其言語少くして沈重なる所更に先代に勝るものあり、故に亦た人の誤解を招くこと多く、驕慢なりと誹

り、無禮なりと詈り、あらぬ怨を買ふことなきにあらざるも、君は決して之を以て意に介せず、只だ着實兼行、以て素志を遂げんことを期しつゝあり、其經歷としては、初め慶應義塾に入り、優等の成績を以て其業を卒え、更に進んで米國に渡航し、同地大學校に入りて孜々黽勉し、卒業の後更に實地に就て其技を磨くこと三年、能く勵精の功を積んで歸朝し、爾來父祖の業を襲ひで、以て今日に至れるものにして、年齒未だ三十に滿たず、而かも其身を持すること極めて愼重にして、敢て苟くもせず、能く質素を守つて毫も驕奢に流れず、常に店員と同一の衣食住をなし、店員と共に孜々として勉勵しつゝあり、種々の名譽職の如き、人の之に就かんとを勸むるものあるも、尙ほ未熟の身を以て身心の勞を他に分たんは、決して職業に忠實なるものにあらずとなし、一切之を排けて毫も心を他に馳せず、是に於て曩には第四回内國勸業博覽會に於て妙技一等賞を得、今又た一等賞牌を受領したるも、君は決して之に甘んせず、益々勵精研磨の功を積まんと欲すると、前掲店員の談の如し、其意氣實に愛すべきものあり、編者は刮目して其大成の日を俟たんと欲す。

天賞堂販賣の時計類寶玉類各種美術品等が、極めて精巧優美の物にして、他店多くは其比を見ざるは、世人の既に認識する所なるが、同店は實に此種の商店中、帝都第一等の良店として、銀座街頭に巍然たる大厦を構へつゝあるのみならず、全國重要の地に支店出張所等を置き、極めて盛大に其業を營みつゝあり、日本全國是等諸品の需要中、少くも半ば以上は同店の供給に依ると云ふも敢て誣言にあらざるべし、而して其他の銃砲火藥内外雜貨等亦た多數の販路を得つゝあるが、君は更に業務の擴張に鋭意にして、曩に米國に渡航したるの際、歐米諸國の製作品中、二十世紀の學理を應用し、發明したる處の精妙嶄新の物品多數を輸入し、之と同時に同店の商品陳列場を增築し、此處に諸種の嶄新なる物品を陳列して、縱覽人の耳目を新たにしたるが、就中其新輸入品中の大聲蓄音機の如きは、世界に於ける蓄音機の特許權を有する、紐育コロンビヤ蓄音機會社の製造にして、天賞堂に於て東洋一手販賣の委托を受けたるものなり、其蓄音機中デスク即ち圓盤大聲蓄音機は、最新の發明にして、其發音極めて剔明に、如何なる微音も之を洩さず、且堅牢にして、保存運搬共に極めて便利なりと云ふ、其他シリンダー即ち蠟官蓄音機の如きも幾多の改良を加へ、大に其發賣に力を盡しつゝあり、然るに大聲蓄音機には、未だ本邦の音曲又は諸大家の演說等を吹込みたるものなきを以て、今回階上に電氣應用のレコード即ち蓄音機の譜製造場を設け、態々米國より二名の技師を招聘し、以來專ら諸大家の演說講話及び有名諸藝人の音曲等を吹込みつゝありと云ふ、其業務に熱心なると以て知るべきなり、君又た客の待遇を最も親切丁寧になし、諸種の景品と種々の餘興とを以て之に滿足を與ふる等、注意更に怠るなきに依り、店頭常に客足の絕ゆるとなき

しと云ふ。

思ふに此記事の本書に掲載せらるゝは、獨り君の意志にあらざるのみならず、或ひは之を好まざるものあらん、然るに編者尚之を掲ぐる所以のもの、決して徒らに君を賞揚せんとするにあらず、只其決心の堅くして勵精なるを證し、以て他日の質となさんと欲するのみ、君若し他日聊かにても、其意志の怯むことあらんか、冀くは此書を繙きて、君が當初の意志は此書に依り、世に證言せられつゝあるを思ひ、奮然として更に勵精する所あらば、此書豈君に對し世に對し、些の功勞なしとせんや。

鞄製造販賣業

谷澤禎三君

（東京市京橋區銀座一丁目四番地）

一等賞牌受領

第五回内國勸業博覽會に鞄の出品亦た甚だ尠からず、而して其一等賞を得たるもの、全國を通じて只だ君一人あるのみ、以て其製鞄の如何に精巧堅牢を極むるかを推知すべきなり、君は文久三年八月二十日を以て生れ、幼にして夙に斯業に就き研究する所あり、明治五年初めて鞄製造及び販賣業に從事せり、蓋し是れ我邦同業者あるの初めなりとす、儼來君は益々斯業に就て研鑽すること十三年の久しきに亘つて更に倦むとなく、以て能く其精巧緻密の功を積むを得たり、依て明治十九年十一月店を銀座一丁目四番地、則ち現在の處に移して、汎く製造販賣の業務を營み、尚は其研究に甘んせずして、專ら案を凝らし巧を廻らし、側ら外國製品の粋を參酌し長を採摘し、以て其製造法に種々の改良を加へ新工風を施したるのみならず、原料の選擇を苟くもするとなく又た之に要する勞費を吝むとあらず、是を以て粗製なく濫造なく能く人氣に投じて、其名聲忽ち全國に高まるに至り、需要日を追ふて益々多きを加ふ、依て三十三年十一月更に支店を銀座一丁目八番地に設置し、愈々其業務を擴

張するに至りたり。君が多年研鑽の功は此の如くにして能く其一家を成さしめたるのみならず、君の伎倆は又た深く同業者間の推服する所となり、君が特種の意匠を擬したるものにして、今日同業者間の採つて以て模範となせるもの甚だ尠からずと云ふ。

君夙に斯業の發達を期し、孜々として自家研究の功を積むの側ら、他に向つて大に之を奬勵し、明治二十五年之れが發達進歩を圖るの目的を以て、鞄盛會なる一の親交會を組織し、其理事となつて專ら斡旋執掌する所あり、斯業今日の發達、亦た力を之に藉るもの決して尠しとなさゞるなり、二十八年東京鞄商組合の創立さるゝに當つてや、君之れが總代となり、尋で其委員に擧げられ、亦た熱心以て之に從ひたり、三十一年內國商品陳列館の業務を擴張するに當つてや、君亦た其擴張委員に擧げられて、是亦た執掌尤も力めたり、三十三年東宮御慶事の大典あるに當つてや、同業者組合より鞄の獻納をなしたき旨を出願し、其許可せらるゝに及んで、君實に其鞄の製作主任となり、能く精妙緻巧の品を製出するとを得、東宮御嘉納の榮を得たり、亦た名譽と云ふべきなり、三十五年七月讀賣新聞社の卷賣入意匠懸賞募集をなすや、君擧らげれて其審査委員となれり、亦た以て君が精巧の名の世に流布せるを證すべきなり。

明治十四五年の頃より、鞄の賣行漸く盛んとなりたるが之に附着する處の口金具は、何れも歐洲より輸入せるものにして、其額年々甚だ尠からず、君之を憂ひて之が製作を企圖し、明治三十一年中別に一の工場を設けて、盛んに同口金具を製作するに至りたるが、幸ひに世の高評を博して、漸く同品の輸入を防遏するに至り、昨今に至りては全然輸入金具の跡を絶ちて、以て君が國家に貢獻するの素志を果せり、君は先年來都合ありて、同金具工場との關係を絶ちたるも、內國各地の店頭に販賣する所の鞄口金具は、悉く君の苦辛經營に出でたるものなるを知らば、唯か之に向つて感謝の意を表せざるべけんや。

君が以上の經驗と熱心とは、其業務をして益々盛大に至らしめ、全國の同業者中、實に君を以て其冠となせり、而して其製品の販路は東京五分、大阪神戶にて三分、支那孟買等諸外國に二分の割合なりと云ふ、尙は同鞄の中第一號、第二號の大鞄は外國人及び洋行者の需要最も多く、又た是等の人の手を經て外國に輸出せらるゝものも頗る多しと云ふ、而して君の製品は專ら其原料を內國品に仰ぎ、萬已むを得ざるもの、外決して外國品を使用するとなきを以て、其國益に稗する處亦た決して尠からざるを見るべきなり。

明治二十八年第四回內國勸業博覽會に際し、君の製品は堅牢にして精良に、縫綴亦巧みにして價格も低く、能く外國品の輸入を防止するに足るの故を以て、有功二等賞を得、三十年十一月第二回水產博覽會には、鰐皮製の鞄と、海驢の提鞄とを出陳

して、亦た能く時好に適し實用に便にして輸入を防遏するに足るとし、進歩二等賞を受領したり、而して今や内地空前の大博覽會に於て、其技益々精功を加へ、能く全國唯一の一等賞牌を得たると、豈亦た名譽と云はざるべけんや。

株式會社

村井兄弟商會

（東京市芝區田町二丁目十三四番地）

名譽銀牌受領

村井兄弟商會の名は遠く既に紙巻煙草サンライスを以て世に知られ、而してヒーローを以て更に其名を廣め、國中到る處に是等の煙草を愛喫すると同時に、殆んど兒童に至るまで、村井の名を知らざるものなきに至りたり、村井吉兵衛氏が赤手以て創設したる處の商會は、煙草の名に呼べるサンライスの夫れの如く、恰かも旭日冲天の勢を以て日に益々盛大に赴き、人をして村井氏が材の非凡なるに驚かしめたり、爾來同商會は京都に本社を、内外重要の地に支社を置いて、盛んに業務を營み來りしが、益々同業擴張の必要上よりして、明治三十二年十二月其組織を株式會社となし、日米兩國人中より其株式を募り、舊村井商會の營業に、亞米利加煙草會社の營業を併せ買收し、資本金一千萬圓の大會社となしたるなり、是に於て明治三十四年其本社を京都より東京に移轉し、日本產外國產を併せて十數種の紙巻煙草を製し、盛んに内外諸國に販賣するに至り、三十五年三月更に資本金を一千二百萬圓に增加し、直ちに本社の傍らに、四階煉瓦建大工場の建築に着手し、目下既に大半其工を

竣り、全く落成の上は此工場を以て關東の需要を充たし、京都工場を以て關西地方の需要に應ずる計畫なりと云ふ、而して現に使用せる同會の職工は、東西通勤の者のみにて常に一萬人を下らず、若し自宅内職の職工を加へなば、慥かに二十萬以上三十萬内外に達するならんと云ふ、以て如何に其業の盛大なるかを察すべきなり、而して兩工場の坪數は五千坪以上に及び、常に數十臺の嶄新なる機械を以て其製造に從事し、一日の製額二千五百萬本に上り、之を普く内國に供給せるのみならず、上海、天津、香港、芝罘、海峽殖民地及び印度等に輸出する額も甚だ尠からず、其重なる製品はカメオ、ピーコック、コイン、アッキス、オールド、ピンヘッド、ヒーロー、ホーク、常盤、二十世紀、武藏野、武德、忠勇、太閤、カメリア其他數種にして、何れも其實質精良能く内外人の嗜好に適するは、茲に記す迄もなく内外需要者の平素親しく實驗せる處なりとす。

現在同商會の重役及び重なる役員は左の如し

取締役社長村井吉兵衛、取締役副社長イージエー、パリッシュ、取締役村井貞之助、取締役松原重策、文書課長兼財務總長ジーピーゴッドセー(以上重役)東京工場主任麻生確之助、京都工場主任田村武治、仕入部長石川清靜、商業部長倉知誠夫、工業部長池田寅次郎(以上役員)

また同商會の支店所在地及び支店長は左の如し

東京支店長酒井靜雄、大阪支店長船本務、京都支店長鈴木定次郎、神戸支店長藤田嘉五郎、名古屋支店長高木喜一、博多支店長山根銅吉、

尚同會は代理店を上海、香港、新嘉坡、カルカッタ、ボムヘイ、波南、マニラ、臺灣、長崎等に置き、其工場は東西兩工場の外東京に三田分工場を、京都に松原分工場を設け居れり、而して同會の經營の極めて宏大なるは、今回大阪博覽會に於けるオールド高塔、無料休憩所其他の設備に就ても之を窺ひ知るを得べく、又た如上重役及び役員諸氏の抱負甚だ壯とすべきものあるを見るべきなり、宜なる哉其名譽銀牌を得たるとや、扨文に曰く

原料の配合調製其宜きに適し喫味豊美にして燃燒勻齊なり殊に引火と保火力に富めり故に需要内外に涉り製造販賣歲を逐ふて倍々增進す其成績甚偉なり

而かも同會は決して之を以て甘んずるものにあらず、近き將來に於て如何に滿天下を驚かすべき大活動を爲すべきかは、姑らく之を世人の注視に委せんのみ、銀牌何かあらんとは、同會役員の一人が編者に向つて語りたる所、編者は刮目して其大活動の日を待たんと欲するものなり。

製紐株式會社

（東京市日本橋區通油町七番地）

二等賞牌受領

同社は故品川忠道氏の創むる所にして、初め氏は明治十五年頃より單獨を以て此業を起し、藤川商店と稱し來りたるが、二十二年に至り其組織を株式となし、日本組紐製造株式會社と稱し、本社を日本橋區通四丁目十番地に置き、氏其社長となりて一層盛大に業務を營むに至りたり、然るに品川氏は不幸にして、二十四年二月十八日病歿し、爾來他の人々の經營に依り、愈々製品を改良し、大に世の好評を博するに至りたるが、二十六年中商法の實施と共に其社名を製紐株式會社と改め、二十八年頃より、更に從來の製品の外、眞田・護謨の製造に從事したり、蓋し當時同護謨の海外より輸入し來るもの頗る多く、國益を損するとも尠からざるを以て、全く之を防止せんとの目的に出でたるものなり、而して此製造能く其時宜に適し、製品亦た極めて良好なりしを以て、需要靡然として之に傾き、爲めに其輸入防止の目的を達するに至りたるが、今尙は我國にして此業に從事するもの、唯一の同社あるのみ、而して更に昨年頃より、靴・護・謨の製造を初めたるが、是亦た尙は日淺きにも拘はらず、能く良品を製し得て世の嗜好に適し、同品の海外輸入を防止するの氣運に向へり、斯くの如く同社の業務日を追ふて益々盛大に赴くに連れ、三十年本社を今の處に移轉し、又た曾て品川氏在世の頃より設立せる、內藤新宿北裏町なる第一工場の外、更に二十九年の頃下谷區入谷町に第二工場を設け、兩工場合して各種の機械千三百臺を据付け、蒸滊力を以て之を運轉し、日々職工三百五十餘人を使役して、日夜盛んに其製造に從事しつゝあり、職工は多く女工を用ゐ居れり、而して第一工場は專ら平打紐を製し、第二工場は圓打紐のみを製し來りしが、明治三十一年の頃より第二工場中に新たに染・織・部を設けたり、右は初め各染物業者をして之を受負はしめ居りたるに、兎角其染色良好ならずして、折角精緻の製品も、之に依つて其品位を下すと尠からざるが爲め、費額の嵩むにも拘はらず、奮つて之を設くるに至りたるものにして、愈々良好のものを製出し得るに至りたり、而して同社は一意各品の輸入を防ぐの目的よりして、費用の嵩めるにも拘はらず、專ら薄利を以て販賣したれば、愈々世の好評を博して、優に各品七八分の輸入を防止するに至りたり、尙ほ第二工場中に包糸部をも設け居れるが、市內にて製造する包糸は何れも手製なるを以て、或は太く或は細く、一定のものを製出し能はざるに、同社は悉く機械を以て之を製造するに付更に不同なく、極めて精巧のものを得つゝあり、而して同社は又た石・蠟・心の製

邊にも從事しつゝあるが、是亦た外品の輸入を防止するの目的に出でたるものにして、內地此業に從事するもの、他にもなきにはあらざるも、何れも其製品粗惡にして、外品の輸入を防ぐに足らざりしを、同社に於ては最も力を此に致す所あり、特に之に用ゆる藥品等に就き、充分の研究を重ねたる結果、最も良好なるものを發見するを得て、其製品管に內地製の同品に優るのみならず、遙かに外國品をも凌駕するを得て、大に世の歡迎を受け、近時其製造甚だ盛んにして、一ケ月平均目方三百貫目、此價格千二百餘圓の多額に上るに至りたり、橫濱サンダー商會の如きも蠟を外國に取り、心を同社に仰ぐに至りたるの有樣にして、是亦た大に外國品輸入防止の目的を達するを得たり、斯くの如くにして輸入を防止したるの結果、同社が國益增進の點に就て裨益せる所決して尠きにあらざるを知るべきなり、左れば同社の製品は曾て第三回內國勸業博覽會に於ては進歩二等賞を受け、第四回同博覽會に於ては有功二等賞を得、而して今又た第五回博覽會に於て二等賞牌を受領するに至りたり、同社現今の重役其他重なる人々の氏名を擧ぐれば左の如し。

專務取締役荒明淺吉、取締役平田常次郎、同島田胤則、監査役石橋政方、同內藤國造、第一工場事務長桃澤延吉、第二工場事務長安藤兼次郎、本社事務長竹川幸吉、大坂出張所長淺井辰三郎、

同社今日の隆盛を見たるは、以上諸氏の施設其宜しきに適したるに依るは云ふ迄もなし、同社は資本金十萬圓にして積立金一萬二千圓を有す、其大坂出張所は同市東區唐物町にあり、其製品は前述のもの〻外、前掛紐、羽織紐、組糸等にして極めて盛大に其業務を營みつゝあり、而して同社製品は何れも一富士一鷹二茄子の商標を附せり。

室內裝飾家具商

石關實太郎君

（東京市京橋區南傳馬町三丁目二十四番地）

二等賞牌受領

君の父を庄兵衛氏と云ひ、明治五年初めて此業を日本橋區瀨戸物町に起し、石關商店と稱し、能く精巧堅牢なるものを製出販賣し、忽ちにして世人の好評を博し、其名汎く世に知らるゝに至れり、爾來幾多の變遷を見たるも、終始石關商店の名を以て一貫し、能く其隆盛を來すことを得、明治二十六年を以て今の處に移り、愈々其業務を擴張し、隱然斯業の泰斗を以て目せらるゝに至りたり、君は翁冠にして能く父の業を繼ぎ、孜々として業務に勵精し、技を磨き術を積み、以て世運の流潮に伴ひ、内外の需要に應じ、愈々其業務を擴充しつゝあり、由來君の業務は最も困難の地位に立ちつゝあるものと云はざるべからず、則ち商工業の發達するに連れて、近來何れの業務にも團体若くは他の方法を以て、之を保護奬勵するの設備あり、君の業務の如きも、大阪府等に在つては、直接間接に府廳の援助あつて多くの便宜を有しつゝあるに、東京府に在りては毫末の之に便宜を與ふるの道あらざればなり、是れ或ひは同業は美術品若くは國益品に非ずと云ふの意か、要するに吏民倶に此業に向つて極めて冷淡なるは、斯業者の身に取りて頗る遺憾の事と云はざるべからず、加ふるに工業發達の今日と雖も、斯業の如きは機械的のものにあらずして、一に練磨切瑳の功を積める職工の腕一本に依り、精巧緻密を旨として製作するものなれば、一時に多數のものを製出する能はず、左れば夥多の需要を充たさんが爲めには、多數の職工を雇使するにあらずんば能はず、而して勞働者の賃銀愈々騰貴せる今日に在つては、之に要する資額も又た益々多端にして、其困難當に二三に止まらざるなり、君此間に在つて能く之に堪ふるのみならず、益々多數の職工を雇使して、愈々盛んに製出し、其支店を芝公園東京勸工場内、神田表神保町一番地、京橋區銀座竹川町商榮館内、上野公園陳列所の四ケ所に設け、盛んに其販路を擴充せり、其最近五ケ年間の販賣額を平均すれば、一年の賣高實に五萬餘圓の多額に上れりと云ふ、曾て機械の力を借らず、單に職工の腕一本に依りて製出せらるゝ品物にして能く此多額に達す、以て其設備の大なるを知るべく、以て其販路の廣大なるを知るべきなり、而して其販路は内地は云ふ迄もなく、其貴重なるもの多くは最も外人の嗜好に適し、海外に向つて輸出せらるゝもの多數を占むると云ふ、豈之を國益品と云はずして可ならんや、而して更に其斯く内外人の嗜好に適するを以てして、能く美術製作品たるに適へるものなるを證すべきなり、君が今回第五回内國勸業博覽會に出品したるもの、内、棚の如きは最も觀覽者の注目を惹き、其代價は百四十七圓の高價な

第一編　石關實太郎君

るにも拘はらず、其開會中博覽會事務所の手を經て、之を注文し來りたるもの五、八の多きに及べり、然れども前にも云へるが如く、何れも手業のものにして、且つ最も精工緻密を要するものなれば、一時に多數の注文に應ずる能はず、依て君は日夜職工を督勵し、先づ其三個を製出し、以て先着注文者たる大阪安土町福田久米造外二名の需要を充たしたりと云ふ、其棚は即ち本書に寫眞版として掲載せるものにして、之に依て見るも其如何に高尚優美のものなるかを知るべきなり、又た同出品中の桐火鉢の如き、最も多數の注文者ありたるも、這は天然物の製造なれば、到底短時日を以て蒐集し得べきにあらざれば、止むを得ず其注文を謝絶したりと云ふ、以て如何に君の製品が世に嗜好せらるゝかを證すべく、而して斯く多數の注文ありたるは、最も同店の名譽として稱揚するに足るべきなり、之に對し審査の結果僅かに二等賞を與へたるは、頗る不足なりと云はざるべからず、尚ほ君は今回の博覽會に對し、高さ七八尺の大書棚にして、極めて精巧のものを出品するの考えなりしも、製作間に合はずして止みたるが、來る十一月開かるべき東京彫刻競技會に出品し、大に世人の注目を惹く考えなりと云ふ、其斯業に熱心なる以て見るべきなり。

乾海苔業

窪田惣八君　山形屋商店

（東京市日本橋區室町一丁目十一番地）

一等賞銀牌受領

海苔は珍膳佳肴に上して、其風味最も良好、世人の愛用措かざる所たり、而して其東京に產するもの最も好良にして、淺草海苔の名夙に全國を風靡しつゝあり、左れば其需要極めて盛んにして、年々巨萬の額に上れるは、世人の熟知する所なるが、此東京海苔の開祖は實に君の家なるなり、今其の沿革を尋ぬるに、海苔は素より潮海自然造化の無盡藏物なるも、之を採取するに容易ならず、太古は問はず中世に及び、東京芝口の潮入地たりし比ひ、漁人海中に枝付の竹及び俛衆を樹てゝ蠣の生園となし、之をヒビと稱せり、今日公園として其名を現はせる日比谷の地は、實に其遺跡たるなり、然れども其採取の術尚ほ甚だ拙劣にして言ふに足らざりしを、君の祖山形屋惣八氏、今より百二十四年の以前即ち天明元年に在つて、初めて此業に着手し、採取の術を改め、年の立冬より大寒の節に際し、之に寄生するものを收めて以て紫苔となし、精良のものを製出して、初めて汎く世に販賣するに至りたり、爾來忽ち世の好評を博して、人々爭ふて之を用ゆるに至り、山形屋の名聲揚ると共に、

畏くも京都の禁裏、及び江戸大御所の御用を命せらるゝに至り、毎年新海苔の製出毎に、先づ之を上納したる後にあらざれば、決して一般に販賣するを許されざりし等、最も其重きを置かれたるを見るべきなり、後年之に倣ふて乾海苔業を營むもの、江戸城下に續出し、近時に至つて尚ほ永續し居れるものも尠からずと雖も、其最も舊家と稱するものも、尚ほ五十餘年を經過せず、百二十四年の久しきに亘れるもの、實に君の一家のみなりとす、君の家代々惣八を以て名とし、何れも能く勤勉斯業に從事して其聲價を墮さず、君は其六世の孫にして、又た能く斯業に練熟し、世の進運に伴ふて諸種の施設を怠らず、常に同業者の摸範となつて、更に其舊家たるに恥ぢざるものあり、夫の燒海苔一名蓄え海苔の罐詰の如き、明治の初年に在つて早く既に君の家より製出したるものにして、而して此品今も尚ほ大に持囃されつゝあり、現に今回の博覽會に出品して、畏くも　天皇陛下の御買上を蒙りたるものなりとす、此燒海苔に次で、味付海苔、佃煮海苔等を製出したるも、皆君の家の新案に成れるものにして、他は何れも之に倣へるに過ぎず、斯くの如くにして君は事毎に斯業の先達啓發者として、其改良發達を圖りつゝあり、斯業に對する君の功績亦多大ならずとせんや。

日本橋室町にして君の家の在る邊り、通稱之を釘店と呼ぶ、人若此釘店を云ふものあれば、直ちに山形屋を聯想し、殆んど釘店の山形屋か、山形屋の釘店かの區別を

失するまでに、到る處其名を知らざるものなし、以て如何に其世人の注目を惹きつゝあるかを知るべきなり、實に其製品は貯藏久しきに堪へ、香氣永く失するとなく、海苔中の精品として、其販路獨り全國に行渡れるのみならず、遠く海外に輸出するの額も亦た尠からずして、國益を增進するの一要素となりつゝあり、而して君が製出の海苔の產地は汎く東京灣内全体に涉り、其沿岸は延て神奈川縣、千葉縣等に及び、採取區域極めて廣大なり、其採取の方法は、洽ねく其附近の農家漁家等に資本金を貸出し、或ひは專業として或ひは餘業として之に從事せしむるものにして、此方法は獨り君のみならず、他の海苔業者亦た悉く之に依れるものにして、之が爲めに生計を立てつゝある處の漁家農家は實に幾萬の多きに上り、從つて各海苔業者が之に貸出せる資金は、單に東京灣内のみを以てするも百二三十萬圓を下らず、以て同業の如何に盛大なるかを知るべきなり、然れども一人の海苔業者にして貸出せる金額は甚だ多からず、其幾十幾百を合して初めて此巨額に達せるものなるに、獨り君の之に放資せる額は常に三十餘萬圓に達し、殆んど全体の三分の一を占め居れり、以て君が日本第一等の大店たるを證すべきなり、因に此資金貸出法は嘉永年間君の家に於て初めて實行したるものにして、爾來此方法の益々擴まると同時に、產地愈々擴張したるものにして、海苔業の今日の盛大を見たる、其原因を此に歸するも敢て誣言にあらざるなり。

君が製品の從來各博覽會共進會等に於て、賞を受けたるもの實に二十有餘の多きに及び、殊に米國コロンブス大博覽會、佛國巴里萬國博覽會等に於て重賞を得、今や第五回內國勸業博覽會に於ては斯業者中第一等の重賞たる、一等賞銀牌を得るに至りたり、以て其製品の如何に精良なるかを見るべきなり。

君本年三十七歲、勤直にして最も勵精なり、其妻よし子との間に子女三人を擧げ、極めて圓滿なる家庭の中に、幸福なる日月を消しつゝあり、君の店の總支配人を塚田重昌氏と云ひ、亦た極めて勤直にして、且つ店務に練熟し、能く君を助けて斯業の發達を期しつゝあり、店員は常に三十餘名を使役し、採取多忙の季節には五十餘名を使役すると云ふ、亦た盛大なりと云ふべきなり。

美術工藝品金屬彫刻物各種漆器類製造販賣及內外銘木業

林九兵衛君

木屋本店

（東京市日本橋區室町二丁目十二番地）

一等賞二個、三等賞三個及褒狀受領

君は最も舊家にして、其祖曾て天正元年藥種店を大坂に開き、豐臣氏の御用達たりしが、大坂落城の後德川氏の命に依りて江戶に移住し、爾來當今に至るまで十一世、三百有餘年の間、時に榮枯變遷なきにあらざりしと雖も、嘗て他姓を交へず名跡を變せず、世々木屋九兵衛の名を繼ひで以て今日に至れるの名家にして、其家寶として傳へ來れる鷹の如き、最も重んずべきの由緒あるものたり、卽ち元和元年德川二代將軍秀忠公鷹狩の歸途、其秘藏の鷹舞來つて君の家に入る、依て其儘に其鷹を下賜せられ、名を壽老と號して愛護すべき旨を命せられ、扶助料として二百石を賜はりたるも、其鷹死するに及び遺骨を收め、家寶として今日迄持續せるものなりと云ふ、以て如何に其名家なるかを知るべきなり。

元和の初めに當つては江戶未だ發達せず、分業の法行はれざりしに依り、君の家に在つては所謂諸式問屋なるものを起し、諸雜貨品を販賣し來りしが、寬永二年に至り時勢の進運と共に、漸く分業の必要を生じ、玆に塗物類の專賣をなすこととなれり、

爾後世々本業の發達改善を圖り、常に重きを世に置かれ來りしが、君が其遺業を繼承するに及んで、倍々業務を擴張し、漆器及び美術工藝品、金屬彫刻物の如き、時勢に投合せるものを製し、益々世の歡迎を受け、斯業の進歩發達を計るとを得たり、現今其製造品の種目は各種漆器類、箸類、箸箱類、鏡類、美術工藝品、金屬彫刻物、内外銘木指物類、文庫類、三味線道具類、婚禮道具類等にして、更に之を細別すれば幾十種の多きに上り居れり、左れど其主力を注げるは漆器にあり、而して以上の諸品を製作する同店專屬の工場は實に三十有八ケ所の多きに上り、一工場の職工平均四十名を下らず、即ち常に一千三四百名の職工を使役せるものにして、其一ケ年の販賣額は少くも五十餘萬圓を下らずと云ふ、以て其同店が如何に日本に冠たるかを知るべきなり、而して其製品は一品一物毎に各專門の技術を有するものゝ手を使雇し、原料を選び精製せしむるものなるを以て、需要者之を使用して實際に他品と比較するあらば、其原料の産地何れのものなるを問はず、一品として同店製品の優秀ならざるはなし、殊に美術蒔繪物及び金屬彫刻物等の如きに至つては、最も意匠を凝らし、本邦美術の粹を取り、更に之を今日の需要に適合せしめ、其体裁の優美にして技術の精巧なるは云ふ迄もなく、以て能く世の嗜好をして一に同店の製品に集注せしむるに至らしめたるもの、亦た以て名譽と云ふべきなり。

君は最も業務に熱心なる人にして、明治維新の後、内外貿易日に月に盛ん

我國固有の特産たる本邦美術の名聲汎く世界に轟き、歐米各國より來りて之を求むるもの增加すると同時に、粗製濫造の弊起りて、奸譎射利の徒、外美内粗の粗惡品を製し、一時を瞞着して外人を欺き、其結果大に我邦美術品の聲價を傷け、世の信用を失はんとするの傾向あるを慨し、首として之が匡正策を講じ、斯業挽回の法を立てんとを唱導し、第一、第二の兩内國勸業博覽會及び美術協會、彫工會漆工會等の開會ある毎に、諸方の美術家を奬勵して良好なる製作をなさしめ、模範として之を出品せしめたるが、第三回勸業博覽會の擧あるに及んでは、終に自ら京都奈良等の地を巡遊して、金屬、木彫、鑄物、漆器、蒔繪其他に至るまで、細密なる査察を遂げ、彫刻師山田鬼齋氏に托して木彫大塔宮騎馬の肖像を彫刻せしめ、之を出品して非常の好評を博すると同時に、能く我邦固有美術の眞髓を發揮せしめたり、又た我國古來より平板鑄物の大作にして、薄く吹きたるもの絶てあるなく、殆んど世に製作し能はざるものゝ如く斷念せしめ居たるを慨し、大に之が研究に着手し、鑄物師岡崎雪聲氏に謀り、平板鑄物の一大製作をなさんとを企て、新たに工場を起して之に着手したるが、我國未曾有の大事業なるを以て、幾多の苦心困難を重ぬると實に數年の久しきに及び、前後幾十回の試驗に失敗を重ねたるも更に撓むとなくして、愈々勵精研究したるの結果、終に良好の成績を擧ぐるを得て、厚さ一二分、丈七尺有餘なる飛龍雲騰の圖ある門扉一對を作るとを得たり、工成るや美術の大家

たる九鬼隆一、岡倉覺三の諸氏工場に臨んで之を熱覽し、其好結果を得たるに驚嘆し、賞讃措かざりしと云へり、後に記せる第三回勸業博覽會に於て妙技二等賞を得たるは實に此品なりしなり、又た同博覽會には海野勝珉氏の作なる金屬彫刻の蘭陵王舞樂の置物を出品して妙技一等賞を得たるが、是亦た門扉と同じく、多年苦心經營の餘りになりたるものにして、開會中參考品として宮內省へ御買上となりたり、而して夫の大塔宮大木像は他に所望者甚だ多かりしも、君は畏くも大塔宮の御像を外人又たは射利の徒の手に歸するに忍びず、依つて永く之を保存し以て紀念となさんが爲め、官幣中社鎌倉神社に奉納し、今尙ほ同社に安置せられつゝあり、君は斯の如く最も斯業に勵精なるが、其勵精なる所以は決して自家の名聲を求むるが爲めにあらずして、一に本邦固有の美術を益々發揮せんとするに外ならず、其心事誠に多とすべきものあるを見るなり。

君は極めて誠實と信用とを以て世に立ち、其販賣品の如き、種類の如何を問はず、如何に僅少の注文と雖も決して之を疎外するとなく、又た遠隔の地より注文し來るものに對しては最も注意を加へ、相當代價の爲替を送附するも、或は代金引替小包郵便に依るものも、直ちに現品を送り、毫も其店に就きて求むると異ならざらしめ、且つ價格は正確にして厘毛たりとも値引せざるを其特色とせり、特に如何なる多額の注文も直ちに之に應じ得るの設備を充分に整へ居れると君の如きは、全國甚だ稀

に見る所にして、現に今回第五回勸業博覽會に出品したるもの〻內十枚揃の膳の如きは、一組七圓八十錢の低廉なるに依り、開會中實に數百組の大注文を受けたるも、毫も澁滯せずして、直ちに之を整へたるが如き、世人の窃かに驚嘆する所たり、又た同店は樓上を陳列場に充て、汎く公衆の縱覽に供し居れるが、其陳列品の重なるものは蒔繪彫刻品類婚禮道具、會席膳椀、重箱、菓子器、辨當箱等の類にして、何れも新形を擇び、正價を附し、以て需要者の便宜を圖りつゝあり。

君が製品の從來受賞したると甚だ尠からず、即ち明治十年第一回內國勸業博覽會に於て褒狀、同十四年第二回同博覽會に於て褒狀、二十年東京工藝共進會に於て褒賞二十三年第三回勸業博覽會に於て妙技一等賞及妙技二等賞及妙技三等賞、二十四年第四回勸業博覽會に於て妙技二等及三等賞、二十五年同展覽會に於て銅章四個、及銀賞牌、同日本美術展覽會に於て銀賞牌及銅賞牌、二十七年日本美術展覽會に於て一等賞牌、二年同展覽會に於て銀賞牌、二十九年同展覽會に於て銀賞牌、三十年同展覽會に於て銅賞牌、三十一年大阪美術共進會に於て金賞牌、三十二年一府九縣聯合共進會に於て一等賞、三十三年佛國巴里萬國博覽會に於て金賞牌二個、三十四年英國グラスゴー博覽會に於て名譽賞牌、同年日本漆工競技會に於て銀賞牌、三十五年同競技會に於て銅賞牌、同年露國服裝博覽會に於て一等金賞牌を得而して今回の第五回勸業博

覽會に於ては、金白金荒磯蒔繪額面に對して一等賞を、同製作人赤塚自得氏に對して協賛狀を得、漆器各種に對しても同じく一等賞を得、料紙硯箱、同手箱、卷莨箱等に對して各三等賞を受け、箸及箸箱に對しては褒狀を得る等、出品悉く受賞せざるものなかりしなり、以て其如何に精良のものなるかを知るに足らん。

君の家古來家憲制度あり即ち勤儉節約を主とし家業を永遠に繼續するを以て第一の心得とすべき事、一家安泰に生活するは上政道の恩澤に依るものなれば公義の沙汰は一つも背くべからざる事、善惡を問はず訴訟又は危險の營業冒險の事業を營まざる事、奢侈を愼み正道を守り慈善を旨とし窮民無告者を惠むべき事等を其家憲の要項とし、又た制度としては特に店員の功勞あるものに賞典を與へ新たに店を開かしむることにして、是れ實に江戸に於て出店の制度を設くるの嚆矢なるが、此制度に依り、君の家より出店せしめたるもの甚だ尠からず、其の都下に於て木屋の家號を掲げ營業しつゝあるものは、殆んど君の家より出店を許可したるものにして、方今其數府下のみにて實に十有五あり、而して何れも誠實を旨とし、業務日々盛大に赴きつゝあり。

君は當業者に最も重きを置かれ、二十三年第三回內國勸業博覽會褒賞授與式の擧行せらるゝや、東京府外四縣の出品者に推され、其總代となりて畏くも　天顏に咫尺し拜謁するの榮を荷へり、君は之を以て自己一身の榮譽のみならず、實に林家終世の光榮なりとし、長へに天恩の優渥なるを感喜して已まず、益々業務に奮勵せり、今回の第五回博覽會に於ては君は漆器類の審査を囑托せられ、其多年の經驗に依り各品に對し公平なる審査を與へて以て各出品人に滿足を與へたり、君又た公共事業に最も力を盡し、從來之が爲に銀杯を下賜されたるとも數回に及べりと云ふ、君が今後の事業方針は益々美術の發揚を計り、愈々漆器の改良を期して一層輸出額を增大ならしめ、以て國家に貢獻する所あらんと期し、大に之に向て施設しつゝあり、他日必ず大に見るべきものあらんなり、君の本店員は常に三十名を下らず、何れも謹直に勉めつゝあるが、特に其支配人永田清兵衛氏の如き、最も忠實にして能く君の股肱たり、君本年四十有六歲、性謹嚴にして敢て苟くもせず、夫人あや子との間に子女三人を擧げ、極めて圓滿なる家庭を作りつゝあり。

ブラシ卸賣業

德永保之助君

（東京市日本橋區横山町二丁目十三番地）

三等賞牌受領

君は埼玉縣の人、明治十三年の頃奮然決する所あり、赤手東京に出で、某西洋小間物商店に奉公し、勤直勵精十三年の長日月を此に消せり、當時ブラシは悉く舶來品にして、其唐物店に輸入し來る額の如き甚だ尠からざるものあり、心窃かに之を製して其輸入を防止せんには、國益を增進すること頗る大なるものあらんを思ひ、自ら此業に當らんとを決心し、種々其事に就て研究工夫する所あり、其胸算漸く成りたるを以て、明治二十六年主家を辭し、直ちに日本橋區通鹽町六番地にブラシ店を開業したり、然れども當時は甚だ微弱なるものにして、未だ獨立分業の營業として世に誇示するに至らざりしも、君は前途益々其需要の多きを思ひ、望みを將來に屬して敢て屈するなく、特に其製造法に就て非常の苦心を積み、終に完全なるものを製出するを得て、此に業務擴張の緒に就きたり、爾來益々銳意事に當りたるの結果、其營業漸く盛大にして、終に從來の家屋にては狹隘を告ぐるに至り、明治三十一年を以て今の處に移轉したり、ブラシは前にも云へる如く、當時和製とては更にあるなく、又た是の專賣業者もあるなくして、一に西洋小間物商の店前に舶來の品を飾るに過ぎざりしを、君初めて之を製造し、初めて之を專賣したるものにして、斯業に對する君の經歷は決して沒却すべからざるものあるなり、今に至るも斯業に從事するもの、東京には君の外一人もあるなく、大坂には二三の會社組織のものあるも、這は多く外人の手に成り、只だ日本の工銀の廉なるが爲め特に之を日本に置きて、彼等の本國より取寄せたる原料を以て製造し、而して其品は更に本國に輸送して販賣するものなれば、這は素より論外として、此他には同地にも個人として內地向の製造業に從事せるもの一人もあるなし、左れば同業は殆んど君が獨占の姿にして、而して其製品能く內地の需要を充たして餘りあるのみならず、今や其製法益々精巧にして遙かに外國品を凌駕するものあり、且つは原料の木材及び銅線の如き、內地品の方割安なる上に重に手工に依れるが爲め、賃金も廉にして、其出來上り品非常に低廉なれば、能く外人の嗜好をも買ふを得て、長崎商人の手を經、浦鹽斯德、新嘉坡、マニラ、厦門、上海、サーレント等に輸出するの額亦た頗る多きを加ふるに至りたり、而して其輸出品中には齒ブラシ最も多しと云ふ、斯くの如くにして君は其最初の目的たる輸入防止に就て成功したるのみならず、進んで國益を增進するに至り、而して將來其事業の益々有望ならんとす、其勸業上の功績豈偉ならずとせんや、君がブラシの原料として使用せる重なるものは北淸產豚毛、同光り馬毛、同白

馬毛、內地產黑馬毛、朝鮮狸、淳興羊毛、常洲產苅萱根等にして、其種類は頭部の垢を取り、兼て毛髮整理に用ゆる頭ブラシあり、羅紗又は帽子の塵を拂ふラシヤブラシ及帽子ブラシあり、馬其他の動物の垢を取るべき馬用毛櫛あり、馬の身體を洗滌し、兼て廐下樣等の洗滌に用ゆる根櫛あり、而して其製造は元來手工に巧みなる我國人の業として最も適切なるを以て、日を逐ふて益々精巧熟練の域に達し、何れも世の好評を博せる中にも、靴刷毛の如きは最も需要廣く、其賣行甚だ盛んなるのあり、明治二十七八年戰役後は愈々其需要を增し、且つ海外輸出も此頃より初まりて、漸次增加するに至りたれば、明治三十二年の製造數量一万二千ダース此價格二万六千圓なりしもの、三十四年には二万ダース三万五千圓に上り、而して尙ほ益々增加の傾向を示しつゝあり、元來本業は未だ曾て專門業者のあらざりしが爲め、之が製造法等に就ても、更に改良を施すものあらざりしに、君此業に從事してより、專ら歐米精製品中の粹を拔き、更に大に之に改良を施して、獨り和製ブラシのみならず、殆んど世界同業に一新生面を開くに至りたる其功最も偉なりと云ふべし、其現在の處に移轉後は更に塗方及び体裁等にも、種々研究改良を施して、原料の撰擇又た益々精を加ふるに至れり、斯くの如くして其製品は外國精製品に凌駕するものあるにも拘はらず、其價格は二割方の低位にあり、是れ獨り外品の輸入を防止し得たるのみならず、進んで盛んに海外に輸出するに至りたる所以なりとす、君は曾て

昨年中某博覽會に出品して銅牌を得たることあり、今又た第五回內國勸業博覽會に於て三等賞を得たるが、其受賞の理由は、蓋し夙に分業に從事して、能く精巧のものを製出し、外品の輸入を止めて、反つて海外に輸出し、大に國益を增進したる等の點にあるなるべし、而して尙ほ君の功績として數ふべきは、內地刷毛職工をして、ブラシ製造業なる、一新職業を得せしめ、之に依つて大に君に謝する處なかるべからず。

乾海苔業

窪田甚之助君

山形屋

（東京市京橋區南傳馬町二丁目七番地）

二等賞牌受領

君は本姓東端氏、明治十年初めて山形屋窪田惣八氏の店に住込み、專ら其業務を修習す、資性快濶にして大度あり、且最も果斷の力に富み、其一たび決心したることは、假令百雷の頭上に落來る底の困難あるも決して之が爲めに心を變ずるとなく、飽く迄之を成遂げざれば止まざるの慨あり、是れ君の最も採るべき所にして、而して其今日の成功も一に此に基かずんばあらず、其の山形屋に在ること十有九年、曾て異となく勵精刻苦し、一意斯業に熱心して、其沿革變遷、將來の運命等に就て、深く考察する所あり、山形屋が斯業の先達者として、時勢の進運に伴ふ諸種の新設備をなしたるが如き、君の參畫する所亦甚だ尠からずと云ふ、海苔の產出及販賣額の如き、明治十五六年頃迄は尙ほ甚だ振はざるものありたるに、爾後非常の長速力を以て增進し、今や慥かに其二十五倍以上に達したり、斯く驚くべきの增進をなしたるもの、素より世の嗜好の之に向ひたる爲めなりとは云へ、其嗜好をして之に向はしめたるに就ては、君が參畫せる處の力亦與つて頗る大なるものあるなり、山形屋の

先代惣八氏深く君の爲人に信ずる處あり、且つは二十年の長日月を同家に盡したるの功を思ひ、茲に擢んでゝ君を養子となし、其第二女直子に配して之を分家せしめ、乃ち明治二十九年十一月を以て、初めて現在の處に同じく山形屋の名稱を以て、斯業を營なしむるに至りたり、直子の姉良子則ち山形屋本店の現代惣八氏の配にして、君と惣八氏とは實に義兄弟の間柄たるなり、俱に斯業に忠實にして、兩々相待つて益々山形屋の名聲を高からしむ、先代惣八氏の後繼者を擇む、亦た能く其人を得たりと云ふべきなり、君斯くの如くにして其業務に忠實なると同時に、又た能く先代惣八氏に事へ、今日親子の間柄も、尙ほ昔日主從の間柄の禮を失はず、其行爲奉公者の模範として、又た養子の龜鑑として、最も賞揚すべきものあり、其夫人直子との間柄亦極めて親密にして、家に風波の起るとなく、二人の子女を擧げて極めて睦まじき家庭を作りつゝあり。

明治三十年神戸に水產博覽會の開設あり、君開業日尙ほ淺きにも拘はらず、能く精品を製出して之に出品し、其製造額販賣額の尙ほ甚だ多からざりしにも拘はらず、能く褒賞を得たり、爾來君は熱心銳意專ら力を斯業に盡し、特に其產出上の點に就て大に苦心經營する所あり、其結果益々良好のものを製出するを得て、非常の好評を博し、又た其原品の仕譯に於て信用を得、急速の進步を以て其販賣額を增すに至れり、元來乾海苔は食物中最も高尙佳良のものなるも、原質の貯蓄永きに耐ふると

至難にして、爲めに夏期の需要甚だ尠きと、從來最も斯業者の憂ふる所なりしに、君は此容器に就て深く注意する所あり、完全なるものを作り得たるが、之に入れて貯ふる時は、夏期と雖も、毫も香味を失するの憂なしと云ふ、尚ほ乾海苔は能く外人の嗜好にも適するに拘はらず、其輸出を見ると甚だ尠かりしは、是亦た其容器の不完全にして、海苔の貯藏久しきに耐ふると能はざりしが爲めなりとす、君深く此に見る所ありて、又た最も完全なる外國向の容器を作りて之を備へつゝあり、之を用ゐれば其貯藏極めて安心なるを以て、今後は夏期の需要及び外國の輸出等益々多きを加ふるに至るべし、君本年三十有八、尚ほ最も春秋に富む、今後益々施設して斯業の爲めに貢獻する所必ず多きものあらん、期して俟つ。

輸出金屬器製造販賣業

草刈豐太郎君

（東京市日本橋區本石町三丁目一番地）

一等賞牌一個、三等賞牌一個受領

君は舊會津藩士草刈業助氏の長男、安政五年二月二十六日を以て、江戸三田綱坂下なる、舊會津侯の下屋敷に生れ、慶應四年會津に下つて人となり、明治三年再び東京に上りたり、君幼にして怜悧、夙に志を工業に寄せ、大に斯業の研究を積まんと企て、同四年三月、自ら身を貶して神田區明神下臺所町輸出金屬雜貨商三河屋幸三郎方に、年期奉公として住込み、爾來明治十四年迄滿十ヶ年の期限を極めて忠實に極めて勵精に、更に怠るとなくして勤續し、稍心に得る所ありたるも、尚ほ大に之を究めんと欲し、且つ主人の惜む所となれるを以て、更に其後を勤續するとなり、以て明治二十二年に至りたるが、同年五月主人幸三郎沒して、二代目幸三郎之を襲ぐに至り、君は更に之を補佐して、以て三十二年の二月に至り、殆んど三十年の日子を同家に費したり、君は是よりして本郷湯島天神町に居を構へ、茲に初めて自らアンチモニーの製品を初めたるが、君の此製品は歐洲諸國に輸出するを以て大目的とせるものにして、區々內地の需要の如きは殆んど之を眼中に置かず、一に外貨を

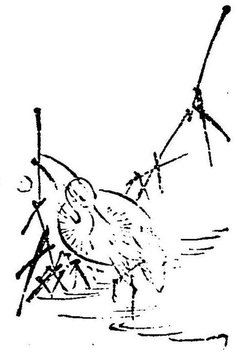
吸收して以て國益を圖らんと欲するにあり、其製品の多くは花瓶、置物の類なりとす、而して君が多年の研究は能く此業に奏功するを得て、營業日に漸く隆盛に赴き、從來の家屋は商業地として適當にあらざるを以て、即ち昨三十五年現在の處に移轉し、一層盛大に開店するに至りたり、由來我邦人の金屬器を製造するもの尠きにあらず、從つて其技術の巧妙なるものも亦た甚だ多しと雖も、惜ひかな多くは舊態に安んじて、敢て之が製造法に改良を加ふることをなさず、區々內地の需要に意を止めて、更に世界的趨勢に眼を注ぐものあらず、爲めに外人の嗜好に最も缺くべからざる寫生の如き、之を試むるもの更にあらざりしを以て、從つて我が金屬器の海外に輸出せらるゝもの、極めて寥々たる狀況なりしなり、君夙に眼を玆に注ぎ、即ち寫生に心懸けて能く之が緻巧を極むることを得、大に外人の嗜好に適して輸出の途頓に擴張せられたるのみか、之れが爲めに外品の輸入をも防ぐを得るに至れり、蓋しアンチモニーは其特性として、極めて緻密に極めて華麗に細工を施すことを得、且つ他の金屬よりも早く仕上ぐることを得て、日本人の技術には尤も適當せるものなりとす、是れ君が特に此金屬を擇んで之に着手したる所以なり、

君は斯くの如くにして、一方能く其事業に成功せると同時に、一方同業者の推重する所となり、常に其牛耳を握りつゝあり、即ち明治三十一年には東京彫工會理事に擧げられ、三十二年八月には巴里萬國博覽會東京出品同盟商議員に推され、三十三

年四月彫工會理事滿期退任するに及んでは、其功勞に酬ゆる爲め、同會より特に銀盃一個を贈れるの事あり、同年八月には東宮御慶事奉祝會々員に列し、三十四年三月東京彫工會議員に當選し、同年三月美術商工信用組合解散に際して精算人に選ばれ、同年五月東京輸出金屬器同業組合副組長に當選し、三十五年二月東京輸出金屬器同業協會幹事となり、次で三月共進會開設に際し、其審査委員に擧げらる、又た東京彫工會に於ては其競技會開設每に之が審査委員及び會計委員長等に選ばれ、同年九月には第五回內國勸業博覽會東京出品聯合會商議員を囑托せられ、同年十一月東京輸出金屬器同業組合副組長滿期に際し、在職中功勞の旨を以て、總會の決議に依り銀盃一個を贈られ本年第五回內國勸業博覽會の開かるゝに當つては、實に其審査を囑托さるゝの榮を得、今又た聖留斯萬國大博覽會の東京出品協會商議員を囑托さるゝに至りたり、以て如何に君が斯界に重きをなせるかを知るに足らん。

君が從來博覽會共進會等にて受賞せることも亦た甚だ尠からず、即ち二十二年九月東京彫工會第十四回競技會に於て協贊銅牌を得、同年十一月會津地方聯合物產共進會に於て一等褒狀を受け、三十四年十月には東京彫工會第十六回競技會に於て二等褒狀を得、三十五年三月には第一回東京輸出金屬器共進會に於て銀賞牌及び銅賞牌を受領し、同年九月東京彫工會第十七競技會に於て協賞銅賞牌を得、本年六月佛領トンキン河內亞細亞博覽會に於ては銀牌を受けたり、而して今又た第五回內國勸業博

覽會に於ては、其出品のアンチモニー製品各種に對して一等賞を、其石膏農夫の置物に對して三等賞を得たり、又た以て君が製品の巧緻精良なるを知るべきなり、尙君が今回の博覽會に出品せる總點數は百三點にして、內賣行きたるもの七十五點、再賣約三十二點にして、八點は非賣品たりしなり、又た以て其製品の世に歡迎せられつゝあるを知るべきなり。



美術銅器及佛具商

栗谷源六君

中島屋商店

（東京市日本橋區通油町九番地）

二等賞牌受領

栗谷氏は極めて舊家にして、世に中島屋源六と稱し、佛具及び美術銅器を以て業とす、特に從來其佛具は甚だ熾んにして、東京附近の寺院に使用せるもの、殆んど之が供給　此に仰ぎ、老舖として其名汎く世に傳はりたるを、君の代に至りて時勢の進運に伴ひ、海外輸出の最も急務なるを思ひ、佛具よりも美術銅器を一層盛大に製出するに至りたり、君は慶應二年十一月を以て現在の家に生れ、幼にして頴敏、能く其業務に習熟し、父祖の業務を繼ひで、愈々之を盛大ならしむることを得たるが、其の海外輸出の事を思ひ立ちたるは、實に明治二十六年にして、即ち海外の嗜好趨勢等に鑑み、一層製品を改良し、茲に初めて輸出を企てたり、左れど此際固より無經驗の業なれば、君も私かに其成功の如何を疑ひつゝありしに、其爐眼と技術の精巧とは、能く外人の嗜好を買ふを得て、賣行意外の好況に達し、忽ちにして斯界の新進者を以て目せらるゝに至り、茲に愈々其業務を擴張するに至りたり、爾來君は更に孜々として勵精し、益々其製品を精巧にし緻密にし、能く美術に適ひて、敢て

聊かも叨りにせざれば、益々内外人の好評を博し、到る處之を愛玩せざるものなきの現況なりとす、去明治三十年の秋東京上野公園に第十二回東京彫刻競技會の開かるゝや、君初めて之に出品し、爾來引續き此種の展覽會に自家考案の製品を出陳したると一再のみならず、而して何れも重賞を受け、其名聲を博したり、今回第五回内國勸業博覽會の開設せらるゝに當つてや、君は徒らに名を美術に假り、新奇を裝ふて一時の人目を喜ばしむる如き虛飾品を避け、何時注文を受くるも直ちに之に應ずることを得べき、寫生新派の工藝品を出陳したるに能く内外人の嗜好に適し、再賣約品數點の多きに上り、而して審査の結果は此種の出品中最も有數なる二等賞銀牌を得るに至りたり、以て其製品の如何に精巧なるかを見るべきなり、左れば君は之を機として、將來益々其品質の改善を圖り、且つ專ら重きを輸出に置き、大に販路を海外に擴めて、以て國益を增進するに力むるの決心なりと云ふ、其抱負の大なる頗る欽すべきものあり、愈々勵精せば其大成を期するも亦た決して遠きにはあらざるべきなり。

靴製造販賣業　村上勇雄君

（東京市神田區連雀町十八番地）

一等賞牌受領

君は安政六年四月八日を以て、新潟縣古市郡長岡村に生る、舊牧野藩士なり、廢藩置縣の際に當つて、君早くも實業にあらざれば以て身を立て難きを悟り、大に決心する處あり、明治四年單身出京して、京橋區和泉町十七番地靴商越川某の門に入り、五年の期間を定めて、靴製造の業を研究し、玆々として怠らず大に得る所あり、乃ち明治十年十一月二十五日を以て、初めて自ら靴製造業に從事す、而して君の此業に就ける目的は、主として外國靴の輸入を防止し、以て國益を增進せんと欲するに在り、一意之に勵精して種々の工夫を凝らし、其研究し得たる處に更に改良を加へ、極めて精巧堅牢なるものを製出したれば、忽ちにして世の人氣に投じ、其販路漸を以て擴張し、早く既に輸入防止の効を見始むるに至りたり、是れよりして君は益々斯業に熱心し、大に業務の擴張を圖ると共に、明治十九年を以て現今の店を開くに至りたるが、世間多くの靴商は只管其價格を低廉にし、以て一時の人目を惹き、其實行を盛んにせんとをのみ力むるの時に當つて、君は毅然として其風潮に染まず、

專ら多年の經驗と自己の考案とに依るの外、外國品中新式のもの等あれば、直ちに之を取寄せて研究改良する所あり、敢て一歩も時勢に後れずして、只管其發達進歩を期し、價格の如何を問はず、專ら精巧堅牢を旨とせり、是を以て君の製品は或ひは下等向にあらざるも、其中流以上にぞつては、最も歡迎する處となりて、東京市内の靴を用ゆるもの、一に神田の靴と稱して之を愛用するに至り、爲めに流行の源泉となり、他の靴商の摸範となり、業務日を逐ふて益々盛大に赴けり、而して君の熱心なる、敢て心を他に移さず、世間多くの靴商は其傍ら、鞄又は他の革細工品等を副業とし、之に志を分つを以て、自然本業たる製靴の粗雜となり拙劣となり、然らざるも少くも之が改善發達を圖る能はざるの流弊を生ず、君大に玆に顧みる處あり、一切手を他に染めずして、專ら製靴法の改善に留意しつゝあり、其流行の源泉となり、同業者の摸範となる、決して所以なきにあらざるなり、君又た防寒靴の製造法に最も留意する所あり、早く既に之に改良を施せるの點も尠からざりしが、二十七八年日清戰役の時に際し、舍弟京四郎氏に命じ、特に第二師團に隨從せしめて、支那に派遣し、戰地に就ひて實地研究せしむる處あり、之に依つて愈々完全なるものを製出し得るに至り、爾來第二師團將校の如き、悉く之を用ひつゝありと云ふ、君は又た曾て大坂より西比利亞に向け靴を輸出したるものあるも、其品極めて粗惡なりし爲め失敗を取り、次で君等相謀り東京より之を輸出して大に其好評を博したるとあるを以て、尚同地方の情況を視察し、以て業務上に資する所あらんが爲め、二十九年四月西比利亞漫遊の途に就き、二年間を費し能く同附近の視察を了して歸朝し、爾來大に其輸出を試みんと欲したるに、不幸にも之に向つて重稅を課せらるゝに至り、爲めに一頓挫を來したるも、旅順ダルニー等に向つては、爾來相應の輸出をなしつゝあり、又たカリフオルニヤのシング商會よりは、特に君に向つて注文をなし來るなど、頗る外人の注目を惹けり、而して尚は大に其輸出を圖らんが爲め、に新嘉坡陳列館に同品を出陳する等、外に對するの施設を怠らざると同時に、內斯業の改良發達を期せんが爲めに、同業團体の設立に就き盡力する所あり、現今組織され居る處の日本靴工同盟會の如き、實に君等の主唱に成る所なりと云ふ、斯くの如く斯業に熱心にして、且つ功勞尠からざるを以て、從來博覽會共進會等に於て受賞せるとも尠からず、則ち明治二十年五月東京府工藝共進會に於て、二十三年七月第三回內國勸業博覽會に於て、千八百九十三年市加古世界博覽會に於て、千八百九十九年巴里萬國博覽會に於て何れも重賞を受け又た本年日本靴工同盟會に於て銀牌を得而して今や第五回內國勸業博覽會に於て斯業中第一等の重賞なる一等賞銀牌を得るに至りたり、而して斯く諸種の重賞を得たる所以は、其用革良好にして裁縫精微に、形狀宜しきに適して時好に遲れず、販路益々盛んにして能く輸入を防止する等の諸點にあるものなりとす、尚ほ曾て君が使雇せる職工にして今回第五回博覽會

第一編　村上勇雄君

に出品したるもの〻中、二等賞を得たるもの四人、三等賞を得たるもの三人の多きを出すに至りたりと云ふ、以て益々君が技術の精巧を證するに足るべきなり。

鉛筆石鹼
洋燈心商

灰谷儀助君

（東京市日本橋區通油町七番地）

二等賞牌受領

君は天保七年を以て江洲に生る、家世々武を以て立てるに依り、君も亦幼よりして之に身を委ね、偶ま明治維新の事あり、忽ち兩刀を捨て〻實業界に身を投じたり、蓋し當時の士族中將來の日本は實業にあらざれば國を立て難きを悟り、昨日まで牛馬の如くに蔑視したる商人と伍をなして、自ら實業に手を染めたるもの甚だ尠からず、其見る所や極めて善しと雖も、其思想なく其經驗なくして能く成功するの理あらず、何れも失敗に失敗を重ねて、終に士族の商法なる語を遺すに至りたり、君の如きも初めや實に其一人たるに洩れざりしなり、初め君は蹶然鄉里を去つて大阪に出で、一の微細なる呉服店を開き、孜々として之に從事する處ありたり、若し君にして一意專心此業務に從事したらんには、非常の發達なかりし迄も、又た非常の失敗もあらざりしならん、然れども君の大志は碌々として之に時日を徒費するを許さず、偶ま福澤諭吉翁の貿易草を讀みて、大に海外貿易の有利にして且つ必要なるを悟り、自ら之に從事するの念を生じたり、此時に當りて廣島に十萬圓の資本金を以

て起れる株式會社山陰社なるものあり、寺尾幸八郎氏の主唱する所にして、我國株式會社の嚆矢たり、君亦た進んで其株主の一人となり、明治八九年の交其社務を帶びて朝鮮に航す君が海外貿易の念は當時益々熾んなるものあり、則ち此行を機として多數の甲斐絹と鑄造物とを載せ、同地に航して之を販鬻せんとす、然れども奈何せん、當時の日本は海外の事情に暗く、能く其趨勢と嗜好とを鑑別するの眼識なく、君が呑吐の志氣も亦た此大勢に抗する能はずして、折角の企畫も一朝水泡に歸し、大失敗を取るに至りたり、君は殆んど之が爲めに產を傾け、空しく恨を呑んで歸朝したるも、其堅忍不拔の志想は決して之れが爲めに挫折せず、更に機を見て大に輸出を試み、以て會譽の恥を雪がんとを期したり、偶ま朝鮮大飢饉に際し米價大に騰貴したるを聞き、積年の目的を達する此時に在りとなし、則ち財を竭して多數の米を購ひ、韓人吳仁壽なるものをして之を携え朝鮮に赴かしむ、然るに君が此熱心尙は天に通せざるものあるか、當時交通機關の不備よりして、君が之を聞くとの甚だ遲かりしを以て、目的は不可ならざるも機は之と外れ、吳仁壽が同地に航したるの時は則ち既に多數の輸入米あり、且つ疾に次年の植付を了して、稻苗は饒々として其青を競ひ、豊年の兆を示しつゝありしの時とて、米價忽ちに下落して、能く其原價を償ふ能はざるに至れり、君が此時の失望果して如何、財全く蕩盡して普通人ならば殆んど之が爲めに失神もすべけんを、君の志氣は茲に至つて尙は挫折せず、否

反つて之が爲めに益々其志氣を堅ふしたり、然るに此際負債漸く生じて、今は大阪の地にも止まり住むと能はず、終に單身赤手を拉して上京するに至りたり、時に明治十三年なり、君が此時に所持したるの金子は實に二十八圓四十錢のみなりしと云ふ、左れば當時君の苦辛經營は實に甚しきものあり、上京の當時一年半計りは、蝸売町に在つて些細の相場に手を出し、僅かに口を糊しつゝありしも、終に之にも失敗して、最早一日も座食する能はざるを以て、意を決して二圓を投じ、洋燈心を購ふて之が行商を初めたり、斯くして種々の辛酸を嘗め、漸く十六年に至りて自ら洋燈心製造の業に着手するとを得、茲に初めて獨立の業務を營むに至りたり、君は之れよりして專心洋燈心の製造に從事し、且つ種々の研究を積んで其製造法に改良を加へ、從來舶來品は二筋糸を以て編みたるものなれば光力はあるも油を費すと多かりしかば、君は能く五筋を以て之を製し、直段を低廉になすとを得ると同時に、石油の費消高をも減ずるを得るに至り、其需要頓に增加して、茲に全く輸入を防止するとを得たり、斯くして明治十八年に至り、君は更に石鹼の製造を初め、之を玉子喜美石鹼と名けて、世に發賣するに至りたるが、是亦た其原料を精選し、且つ其價の廉なるを以て能く世の嗜好に適し、須臾に其製造高を增すに至りたり、斯くの如くにして君は既に洋燈心に成功し、又た既に石鹼製造業に成功したるを以て、更に明治二

十年雉子印鉛筆の製造業に從事するに至りたり、而して其鉛筆も亦た甚だ佳良にして且つ低廉なるを以て、世人爭ふて之を使用するに至り、從來殆んど舶來品を以て充たされたるもの、漸次其數を減じ、今や殆んど全く輸入を防止するの盛運に向ひたり、而して君は此間時に或ひは米相場に手を出し、失敗したる等のことあるも、一失敗毎に君の志想は益々其堅きを加へて、終に能く如上の三製造業に成功し、而して相場は五十歳の時を以て全く斷念し、爾來一回も之に手を出せることあらず、以て今日あるに至りたるなり、而して其の能く之に成功したる所以のものは、無論其製造品の佳良にして、他に卓越するものあるが爲めなりとは云へ、實に又た君は之を販賣するに極めて薄利と以てし、他が一個に付一錢を贏すものも、君は五厘を以て之に甘んじ、決して多きを貪ることなく、以て自個の信用を保維すると同時に、最も顧客の便利を圖れるが爲めにして、是れ實に君が商機の一秘訣たりしなり、士族の商法家豈竟に此成功なくして已まんや、今や君は齡古稀を過ぐること八、而かも尙ほ鑁鑠として壯者も及ばざるの概あり、本年六月契濶多年の鄕里に、初めて錦を飾りて歸鄕し、父の墳墓を改築すると同時に、自己老夫婦の名をも併せ刻し、死後の安心を得て歸京せる後、更に一層業務に奮勵し、今や專ら心を鉛筆製造業に注ぎ、益々之に改良を加へんと欲して、爲めに殆んど寢食を忘るゝに至れり、而して君が之に熱注する所以のものは、既に鉛筆の輸入を防止したるに甘んぜずして、更に大に

之を海外に輸出せんと欲するに在り、其幼時に於ける海外貿易の志想は、今も尙ほ脫却せずして、只管其初一念を貫かんと欲するなり、亦た以て君が志氣の堅固なるを證すべきにあらずや、君が此志氣の堅固は、今日此白髮の老翁を驅つて、尙ほ製造法の改良に熱注せしめ、爲めに毎夜眠りを取ることを許さず、偶ま病魔をして其頭惱を襲はしむるに至れるも、毫も其志氣を屈せしむるに足らず、今回第五回內國勸業博覽會に出品せる、其石鹼と鉛筆とは、倶に第二等賞を得るに至らしめたるが、其石鹼の如きは、副業として、君の餘りに意を注がざる處、而して尙ほ此榮あり、其鉛筆の如きに至つては、全國中文房具を以て賞を得たるもの僅かに六人、而して鉛筆は君只だ一人なりしの結果に徵して、如何に其良好なるかを證すべきなり、而して此受賞は更に大に君の心を激勵する處あり、愈々其寢食を忘れて考慮しつゝありと云ふ、君が此熱心空しからずして他日大に之を海外に輸出するに至らば、君が國家に貢獻する所、蓋し亦た多大なりと云ふべし。

株式會社

東京築地活版製造所

（東京市京橋區築地二丁目十七番地）

名譽銀牌受領

方今我國文運の益々旺盛に至りたるもの、之が原因種々あるべしと雖も、其一活字の發明に負ふ所のもの、亦た決して尠少にあらざるは、何人も首肯する所なるべし、抑も我邦に於ける活版印刷の由來久しからずとなさず、奈良朝の時諸國に國分寺を建て、佛典を頒ちて之を藏せしめたり、而して其佛典の印刷は即ち活字を用ゐたるものなりと云ふ、德川時代に至りても活字印刷の事なかりしにあらず、然れども或は只だ謄寫の勞に代へ、或は法禁の書の印刷に用ゐて、其原版の痕迹を滅するの便に供せしに過ぎず、今日普く使用して、社會其深恩に浴する所の鉛製活字は、實に故本木昌造氏の發明する所にして、而して東京築地活版製造所は、實に氏の創業に係るものなりとす、左れば築地活版所を記さんとせば、勢ひ故本木氏を叙せざるべからず、氏は長崎の人、父を北島三彌太と云ふ、君は其第四子にして、外叔本木昌左衛門氏の養ふ所となる、本木氏代々通詞を業とす、故に氏も亦た幼にして蘭語を學び、文政度の外船擊攘令發布せられて、外交の事頻繁なるに及び、氏其間に周旋

奔走し、時勢を達觀して、專ら心を實學工業に寄せ、而して其先づ着手したるを活版の發明となす、初め氏は蘭書を繙きて、其印刷の精巧鮮明なるに感じ、我印刷術改良の念禁ずべからず、之を洋書に渉獵して僅かに其術の一端を解し、刻苦數年嘉永四五年の頃、初めて「流し込文字」なるものを製造するを得、其製造の活字を以て、自ら著す所の蘭和通字書を印刷し、之を蘭人に贈りて驚嘆せしめたりと云ふ、嘉永六年米艦浦賀に入港の事ありてより、氏は專ら國事に軼掌し、更に活字に心を寄するの暇あらざりしが、安政二年冤を蒙つて獄に繫がれ、在獄四年にして、出でゝ謹愼を命せらる、此時に當つて氏は徐ろに鉛製活字の發明に數層の改良を加ふるに至りたるも、尚之を完成する能はざる中に、萬延元年命せられて長崎鮑浦製鐵所御用掛となり、又自ら汽船に乘込みて、諸所の航海に苦酸を嘗むる等、活字改良に心を寄する能はざるもの多年、明治の世となり、氏自ら一塾舍を長崎に開くに及んで、更に活字製造の初一念を貫かんと企て、乃ち五萬金を投じて之に從事せり、然れども功果甚だ擧がらず、時に米國宣教師の上海に在りて、鉛製活字の鑄造をなすと聞き、人を遣はして之を學ばしめんとしたるも、技未熟にして之を使用する能はずと聞重野安繹氏、活字を上海より購入しやき氏之を買取りて長崎に致し、陽其二氏と共に之が文選に着手し、殆んど寢食を忘れたるも、尚充分功果を擧ぐるに至らず、此時長崎在留の宣教師フルベッキなるも

の教へて曰く、上海美華書院の活版技師ガンフル、其期滿ちて米國に歸らんとす、何ぞ之を歸途に要して其術を學ばざるやと、乃ちガンフルを聘して活版傳習所を起し、長崎製鐵所の附屬としたり、是に於て活字鑄造電氣版等の業大に進めり、後年大坂に東京に官業に民業に活版印刷業の種子を播けるもの、皆長崎の活版傳習所に出でたるなり、斯の如くにして漸く其好果を收めたれば、氏は明治三年製鐵所を辭し、專ら活版事業に從ひて、之が爲めに其產を蕩盡するも顧みず、一意之が振興を圖ると同時に、又た人を大阪に遣はして五代才助に圖り、以て大阪に活版所を創設したり、時に帝都は東京に移され、日本文運の中心茲に移りたるより、氏は小幡正藏氏をして、下谷和泉町に一活版所を創めしめたり、同三年十一月長崎活版傳習所員平野富二氏、長崎製造の新活字を携へて東京に來る、政府其數萬個を購ふて業を初めたるもの、即ち今の印刷局なりとす、本木氏更に平野氏に命じ、留まりて支場を東京に開かしめ、初め之を和泉町に置き、其後六年に至りて、築地に移したるもの、實に現今の東京築地活版製造所なり、明治八年に至り、此活字發明の大恩人本木氏は病を以て此世を辭したるも氏の偉業は能く其後繼者に依りて益々發展せられ、築地活版所の業務は益々盛大となりて、終に巍々たる煉瓦の大建築をなすに至り、現今其工場を十三に分ち、殆んど七百名の職工を使役して、一ヶ年九萬二千百八十三貫以上の巨額の活字を製造しつゝあり、鑄字の種類は、和漢英佛獨露伊希モンゴ

リアン朝鮮印度等世界各國に渉り、年々海外に輸出するの額も甚だ尠からず、近年新たにポイント式活字をも作りて製版上の進歩を圖りつゝあるが、同所鑄造の活字の特色として見るべきは、地金堅硬にして能く久しきに耐え、字畫正格にして書體整齊なる等に在り、又た同所は單に活字製造のみならず、活版及び石版等諸印刷の求めにも應じ、常に意匠高尚にして精彩優美、且つ利を薄ふして迅速注文に應ずる等、一に顧客の便利を圖りつゝあれば、業務日を追ふて益々盛大の一方に赴けり、今回同所が第五回內國勸業博覽會に出品せるもの〻如き、能く精巧緻密を極めて、眞に斯業の摸範となすに足るものあり、其名譽銀牌を得たる素より其所なり、薦文に曰く、

故本木昌造の遺業を繼承して活字鑄造の業を營み專ら進步改良を圖り能く精巧を極めて印刷の体面を一新せしむるに至る且其製造巨額にして獨り海內の需要に應ずるのみならず近年海外に輸出するもの漸く其數を增加せり其功洵に顯著にして斯業の良範たるに足る

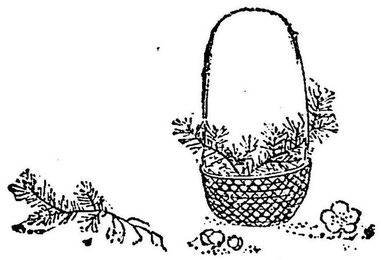
故本木氏之を地下に見て、後繼者の經營に對し、其遺業を辱しめざるに滿足するなるべし、其後繼者として現今同所の業務に當れる、重なる人々の氏名を擧ぐれば左の如し

專務取締役社長名村泰造、取締役西川忠亮、同松田精一、監查役石橋政方、支

第一編　東京築地活版製造所

配人野村宗十郎

其他社員三十名を以て一切の業務を處理しつゝあり



私立

共立女子職業學校

（東京市神田區一ッ橋通町二十二番地）

一等賞牌受領

同校は明治十九年中、服部一三、永井久一郎、手島精一、宮川保全等諸氏の相謀りて設立したるものにして、其趣旨とする處は、女子敎育の一般に學理の末に趨り、實業を輕んずるの弊を矯めんとするに在り、即ち女子に適應せる職業及必要なる學科を授くるを目的とせるものにして、初め校舍を神田區錦町二丁目一番地に置き、服部一三氏を校長として開校したるが、其學能く時好に適したるを以て、忽ち人の着目する處となり、入校生徒日を逐ふて多く、終に校舍の狹隘を告げて二十年二月今の處に移轉し、同八月二階建三十二坪を新築し、二十三年六月更に二階建八十坪を增築し、二十五年二月に至り、宮内省より特別の御詮議を以て、從前の校舍及敷地を下賜せらるゝの榮を荷ひ、二十九年更に總二階建百六十六坪餘の大校舍を新築するに及んで、校運益々隆盛を極めたり、服部校長は、廿四年五月岩手縣知事に轉任したるを以て、手島精一氏代つて其任に當り、三十年十一月手島氏亦た文部省普通學務局長任命の故を以て、中川謙二郎氏を之に代え、三十六年再び手島氏を以て

之に代ふるに至りたり、斯の如くにして其校長に毎に適任者を得たると、他の校員の勉勵能く事に當りたるとに依り、校務益々整理して、成績極めて顯著なるものあり、二十一年時の文部大臣森有禮氏を經て、生徒の製品を、皇后陛下の御覽に供せしに、御嘉賞あつて特に金二百圓を下し賜ひ、二十二年四月には、皇后陛下親しく同校に行啓あらせられ、特に金二百圓を下し賜ひ、且生徒の製品を數多御物に召させ賜ひ、同六月　皇后陛下の御眞影を下し賜ふの榮あり、二十四年十月には　天皇陛下特に侍從を同校に差遣はされ、其狀況を御下問あらせられ、且生徒の製品を叡覽に供すべきの御沙汰あり、爾後今日に至るまで毎歲一兩回同樣の恩命を蒙りつゝあり、三十四年三月には、北條侍從聖命を帶びて臨校し、同校の現況を具して叡覽に供ふべきの命あり、同校は謹で其狀況を記し之を奉呈したり、私立學校にして斯る優渥の天恩を被れるもの甚だ罕にして、同校の榮譽亦大なりと云ふべし、

同校に於て現今授けつゝある處の術科は、裁縫、編物附組糸刺繍、圖畫、造花の五科にして、其他別科の設けもあり、又割烹科をも置けり、而して右の術科は之を甲乙二科に分ち、其卒業生にして有志の者は、尙一ヶ年間の補習をなさしめ、既に修めたる技術を研究し、教員志望のものには、特に教授上必須なる學科を授け、高等女學校其他實業學校の教員に適せしむるの設備をもなせりと云ふ、同校今日迄の卒業生は千五百三名の多きに達し、現今の生徒數は各科を通じて五百九十三名なりと云ふ。

同校は去三十二年一月財團法人たるの認可を得、三名の理事と十名の商議員を選擧して、益々其基礎を鞏固にすることを得たり。

同校現在の職員及教員は六十七名にして、其姓名及擔任は左の如し。

理事手島精一、同中川謙二郎、同宮川保全、監事小西信八、同武村千さ子、商議員服部一三、手島精一、永井久一郎、那珂通世、中川謙二郎、小西信八、宮川保全、武村千さ子、山川二葉子、鳩山春子、校長手島精一、校長補宮川保全、事務員中島鍋次郎、同藤村はる、同山中こう、同小杉倉、同齋藤かね、同原けん、同堀江みち、教授囑托修身中島德藏、教育藤堂忠二郎、裁縫教授法矢田部順、洗濯岡本金一郎、圖案井手馬太郎、刺繍科圖書、島田佳矣、刺繍金山つね、學科教員藤村はる、山中こう、小杉倉、齋藤かね、原けん、荒井桐月、術科教員裁縫科山崎朗宇良、金子とふ、關よし、山田喜代、伊藤ふみ、井上松の、櫻井きみ、高木しん、種村なか、飯盛千代、小川錠、深谷かず、南みち、井戸かた、小出せい、廣浦みつ、小橋たみ、刺繍科布施新助、加納こう、木村なか、小島よし、編物科山崎朗宇良、豐原繁尾、辻てい、鈴木うめ、圖畫科鵜殿長庚、横井とり、造花科鵜殿長庚、伏見藤三郎、金子しえ、三好こう、松本やす、石川壽美、割烹科井上善右衛門、岡野りへ、寄宿舍監小杉倉、同心得久貝かね。

以上の諸氏が熱心誠意事に從へるの結果は、生徒の成績極めて良好にして、從來內外の博覽會其他に出品し、賞與を得たると甚だ尠からず、即ち二十一年五月には佛國万國大博覽會に於て銀盃を受け、二十三年四月には內國勸業博覽會に於て有功二等賞を受け、二十六年二月には米國シカゴ世界博覽會に於て銀牌及賞狀を受け、二十八年六月には第四回內國勸業博覽會に於て有功一等賞を受け、三十三年二月には佛國巴里の萬國博覽會に於て大賞最優等及銀牌を受け、今又た第五回內國勸業博覽會に於て一等賞牌を受領したり、以上の褒賞以て如何に同校生徒製作品の良好なるかを證するに足るべし、

其他同校にては二十四年十月、濃尾震災に付被害者救恤として、綿フラン子ル襦袢三百二十枚を贈りて賞狀を受け、二十七年三月銀婚の御盛典を祝する爲め、生徒製作の刺繍花籃を献上し、宮內省より賞狀を下賜せられ、同二十八年六月三陸大海嘯に付被害者救恤の爲め、單衣數百枚を贈りて木杯を受け、三十三年五月　皇太子殿下の御慶事に際し、奉祝の意を表せんが爲め、各科生徒の合作に依る花車置物を献納せしに、宮內省より賞狀を下賜せられ、又た三十五年五月開會の東京府教育品展覽會に、生徒の製作品を出陳したるに、其中造花科出品の盛花籠は、宮內省の御用品たるの榮を得たる等、同校の功績として數ふべきもの一にして足らず、同校が全國に重きを爲さるゝ所以のもの亦た偶然にあらざるを知るべきなり、

尙今回の博覽會に於て受賞せる所の、造花科出品の花籠は　皇后陛下の御思召に適ひ、百五十圓を以て御買上の恩命を蒙り、又た裁縫科出品の女洋服は、佛蘭西の某新聞記者之を購ふて歸りたりと云ふ、是等の事實は、優に同校生徒の技術の長せるを證するものなるが、斯く其熟練を得るに至りたる次第は、同校が他より製作の依頼を受くる時は、之に應じて生徒に材料を供するの便利を計りたると、尤も與つて力あり、斯くして生徒の伎倆進歩するに從ふて、製作の依頼も漸く多く、殊に造花科の如きは、宮內省より屢々其製作を命せらるゝのみならず、三十三年十二月より、三井呉服店が同校の事業を贊助するの目的を以て、同校生徒の製作品を販賣するの勞を執り、大に材料の豐富を見るに至りたりと云ふ。

第一編 伊藤卓夫君
体操及運動機械一式
人物標本人体模型
學術用模型教育用品
樂器製造販賣業

伊東卓夫君

美滿津商店

（東京市本郷區本郷五丁目十番地）

一等賞牌三個、二等賞牌七個、三等賞牌八個

褒狀數十通受領

同一の人にして、斯く多數の重賞を得たるもの全國三萬餘の受賞者中、只だ君一人あるのみ、豈大名譽と云はざるべけんや、而して君の出品は曩に　兩陛下博覽會へ行幸啓の際親しく　天覽の榮を辱ふし、次で宮内省よりロンテニス、及びベースボール用具等御買上の恩命を蒙りたり、以て愈々其名譽を表彰すべきなり、編者君に就て其事歷を徵むるも得ず、乞ふと切にして辭すると愈々切なり、曰く語るべきの事歷更にあるなしと、其謙遜反つて欽すべきものあり、終に事歷を得る能はず、只だ君の業務に忠實なると、其店務の益々繁榮なるとを見るのみ。

梅田式改良
竈發明者

梅田仙吉君

（東京市日本橋區通油町二十番地）

三等賞牌受領

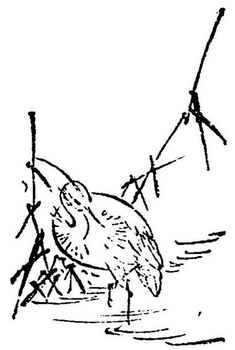
君本年四十有一歳、資性沈勇にして、斃れて後止むの慨あり、夙に實業に從事するの傍ら、專心理工二科の學を修め、頗る通曉する所あり、適々感ずる處あつて、日本竈の改良を企てんと欲す、蓋し君以爲らく、世の文明に進むに從ふて、益々薪炭の缺乏を告ぐるに至るは明かなる事實なりとす、左れば必ずや近き將來に於て木炭に代ふるに無盡藏の石炭を以てするの期あるべきなり、今にして日常必須の竈に一大改良を加へ、能く木炭に石炭に、何れを用ゆるも差支なき丈の設備をなし置くと、極めて必要の事と云はざるべからず、思ふに萬國の經濟は一家の竈の良否に係はると頗る大なるものあり、若し之を改良して國民一般の薪炭費消額を減ずるを得ば、其民福を增し國利を進むると極めて大なるものあらんと、乃ち大に決心す所あり、一意其改良に心を潛む、是れ實に君が二十四五歳の時なりしなり、爾後月を積み歳を重ねて、漸くに改良の端を啓き乃ち幾度か試製し、幾度か實驗し、苦辛經營の末明治二十八九年の頃に至り、始めて其理想に適したる改良竈の發明を成就するを得

たり、然れども尚未だ完全を缺ぐ所のものあり、依て更に意を此に潜めて、專ら工夫考案を凝らし、終に明治三十年八月に至りて、愈々完全無缺の改良竈を製出することを得たり、依て之を梅田式改良竈と名け、直に專賣特許を出願して二八三七號の特許證を得るに至れり、世間普通射利の輩は、僅かに一特許を得れば直ちに之が販賣を急ぎ、其技術の熟練を顧みるに遑なく、其設備の完全を期するに及ばずして、徒らに粗製濫造以て目前の利を得るに是れ汲々とし、終に折角の特許品も、充分其効用を世に知らしむるに至らずして止むもの、殆んど世間の通弊なるに、君此點に對して最も愼重の態度を取り、特許の名譽を荷へるにも拘はらず、直ちに之を發賣することをなさずして、益々其技を鍛錬し、而して後徐ろに工場を埼玉縣川口町に新設し、如何なる多數の需要にも之に應じて差支なく、且つ決して粗製濫造に流れざる丈の設備を整へ、然る後明治三十二年三月を以て、始めて之を世間一般に賣出したり、其用意の周到なる感ずべく、而してこそ、初めて特許品の効力を完ふし得るものと云ふべきなり、宜なるかな一たび此竈の賣出さるゝや、忽ち世間一般の好評を博して、爭ふて之を注文するに至り、須臾にして內地は勿論九州沖繩奥羽北海道の果てにまで及び、臺灣朝鮮等にも賣行きて、其充分の設備も時に製造間に合はざる程の好況を呈し、發賣後四年間に於ける、一ヶ年平均の賣行額は實に一萬五千個の巨額に達し、此の價格最低平均六萬餘圓の多額に及びたりと云ふ、以

て其如何に世の必要に投じたるかを知るべきなり、人若し此竈に依り、而して燃料に茨城無煙炭を用ゆる時は、木炭に比し、約して日々得る所の利益慥かに十分の七以上に及ぶと云ふ、左れば世間一般に此竈を用ゆるに至らば、其國益を增進すると蓋し莫大なるものあらんなり、今此竈の特色とする處を擧ぐれば(一)石炭、薪、木炭、コークス、雜木等自由に焚得るのみならず煙の散亂することなく從つて家屋及び器物等の燻る憂ひ更になし(二)火力の强弱を自由に加減し得るを以て敢て其他煮物の出來損じなく且つ飯の美味云ふ計りなし(三)使用輕便にして如何なる狹き厨房又は二階住居の使用にも適す(四)飯は僅かに二十分餘にて煮熟し大に時間を節するを以て從つて在來の竈に比し燃料六割以上の利益あり、則ち一ヶ年の薪炭消費高を百圓とせば、僅かに四十圓を以て之を充たし得るなり(五)此竈は繭を煮るに最も妙にして、又た温暖飼育器として恰當の良具なり(六)火を焚きつくるに最も簡便にして又た之を消すに最も容易なり(七)器の大小を問はず隨意に之に掛くることを得る等にして、竈の質を甲乙に分ち、甲は全部鑄鐵製にして最も高尚堅牢に、乙は純銅製にして極めて華麗なり、君は向ふ五ヶ年間に、普く全國に此竈を行渡らしめ、大に國益を增進せんとの目的を以て殆んど原價に之を販賣しつゝあり、且つ之に保險を附し、三十日以內には何時にても買戻しを約する等、專ら確實の方法を以て世の信用を博しつゝあり、左れば世人の需要日を逐ふて益々盛大に赴くと同時に、近來世の奸商輩の、

第一編　梅田仙吉君

類似の粗造品を販賣するものさへあるに至りたりと云ふ、



三等賞牌受領

履物業　磯野精一君

（東京市淺草區雷門前並木通松榮堂）

君は去二十九年を以て現今の處に開業したるものにして、其日尚ほ甚だ淺しと雖も、松榮堂の名早く既に世に知れ渡りて、市内屈指の履物店を以て數へらるゝに至り、卸賣に小賣に注文引きも切らず、其店名に呼べるが如く、日を逐ふて益々昌榮に赴けり、君は年齒尚三十に及ばざる四五の壯年を以てして、能く業務に忠實に、又た能く勵精し、嶄新の意匠に富みたる店員と、精妙の伎倆を有せる工員とを雇聘し、孜々として斯業の精巧を凝らし、熱心營業上の改良を圖り、能く時勢に伴ひて最も高尚優美に、又た最も意氣に、極めて嶄新なるものを製出し、且つは近來日本桐の拂底なるに連れて、支那桐を用ゐ、之を日本桐と稱して顧客の目を眩ます奸商等の多き中に在りて、君は決して支那桐を用ゐず、飽く迄誠實を旨として以て使用者の利益を圖り、所謂誠實に勝る商略なしとの金言を守り、利を薄くして數でコナスの方針を取り、敢て變るとあらざるを以て、倍々世人の信用を博し、其聲價を揚ぐるに至りたり、編者君の事歴を聞かんとして、其店を訪ぬる事數回、常に顧客の山を

なして親しく談話するの暇を得ず、以て其隆盛を見るべきなり、而して同店の賣品は桐木類鼻緒類表類に至るまで、總て之を素品より購入し、以て悉く自家に於て製造し、敢て利を他に奪はるゝことなきを以て、從つて總て安價に仕上ぐることを得、又た從つて低價に販賣することを得、依て以て顧客の便利を圖ることを得ると同時に、同店の好評となり、販路の擴張となり、今や內地は勿論、臺灣北海道等より、遠く上海、朝鮮、墺太利等にまで其羽翼を伸ばすに至りたり、而して同店の製品中、特に其新案に係る浮世下駄、數寄屋下駄、護謨入表附下駄の如きは、同店獨特の長技として、一層の聲價を保ちつゝありと云ふ。

今回第五回內國勸業博覽會の開催さるゝに方つて、同店が出品したるもの二十六點あり、而して其中流行を主とせるものあり、優美を主とせるものあり、堅牢實用を主とせるものあり、安價を主とせるものあり、あらゆる方面のものを出陳して敢て洩るゝなく、以て同業者の注目を惹き、以て觀客の賞讃を博し、審査の結果三等賞銅牌を得るに至りたるは素より其所にして、而して其各方面に渡り、悉く好評を得たるもの、蓋し君が業務に熱心なるの致す所と云ふべきなり、又た以上の諸品と共に出陳したる美術日傘の如きは、最も外人及び內國貴婦人等の視線を惹き、前途甚だ有望のものとして數へらるゝに至りたり。

君は夙に下駄臺が、鼻緒表等に先立つて早く消耗するを憂ひ、種々考案の末一の卷

革を新製し、之を下駄臺に卷付けて、以て其保存を永くすることを得せしむるに至れり、依て之に對し專賣特許五四一六の證を得、盛んに之を製造して、自家販賣の履物に、一々之を使用するのみならず、各府縣同業者の需めにも應じ、汎く之を用ゐせしむるに至りたるは、君の功績として最も稱揚すべきの點なるべく、之に依て下駄使用者の利益を圖ることを得たると同時に、又た國益を增進する一有要物たるを失はざるなり。

君は前にも云へるが如く、尙ほ極めて年壯にして、而かも能く好箇の模範青年實業家たり、曾て專心商業上に關する諸學を研鑽し、商事に關する百家の事に涉獵して大に得る所のものあり、着々之を今日執務上の資料として、能く活用しつゝあり、其普通商人と趣を異にするものある、一に君が素養の然らしむる所たり、俚俗に所謂實業家一たび學んで反つて其業に疎きは、普通商人の通弊なるに、君決して此弊に陷ることなく、能く學理を實地に應用して敢て正鵠を誤るなし、其顧客訪問者に接するや、極めて溫順にして一の從順なる青年に過ぎざる如くなるも、一たび其競爭場裏に立つや、敏捷の手腕些の人後に立つことなく、卓拔の識見能く他の機先を制す、二十世紀の新商人として敢て恥ぢざるものと言ふべきなり、思ふに今後君の聲價は、雷門の名に呼べるが如く、轟々として全國に雷傳するに至るべきなり、君淺草區西三筋町四十六番地に支店を有す、是亦た本店と相俟つて、日々繁盛を極めつゝあり。

袋物各種貴金屬彫刻美術品婦人用裝飾品商

齋藤嘉助君　丸嘉商店

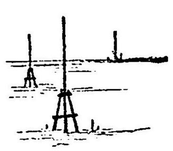
（東京市日本橋區若松町二十二番地）

一等賞牌受領

君は嘉永三年を以て信州松本に生る、幼にして頴悟大志あり、年甫めて十三單身奮つて東京に出で、其頃有名の袋物商丸利に奉公し、以て斯業に就き研究する所ありしが、先天的に美術思想を具へたる君のことゝて、早くも熟達精通する所あり、依つて主家を辭し、明治十年を以て現今の場所に袋物美術品の店を開き、篤實低廉を旨として精巧の品物を販賣したれば、能く人氣に投じて忽ちに其繁盛を見るに至りたり、依つて君は益々業務に勵精し、又た能く時勢に應じて其店務を擴張し、更に金屬彫刻美術品及び婦人用身体裝飾品等、何れも嶄新の意匠を加へたるものを精選し、愈々篤實を旨として販賣するに至りしが、其物品何れも能く顧客の喝采を博して、汎く全國各地に行渡れるの外、更に歐米支那等に輸出するに至り、其國益に資せる所も尠からず、現今益々業務の盛大を見、内外到る所に其信用を博しつゝあり、現に今回第五回勸業博覽會に出品したる金屬裝飾品、袋物類の如き、始んど殘りなく賣約濟となりたるが如き、以て如何に其世人の嗜好に投じ居れるかを察すべきなり。

君の製品は從來内國博覽會、展覽會等に出陳して、銀牌を得たるもの十八個、銅牌を得たるもの二十一個、褒狀に至つては實に枚擧に遑あらず、其他佛國巴里萬國大博覽會に於ては名譽なる金牌の重賞を受け、尚は今回の第五回博覽會に於ては一等賞銀牌を得るに至りたり、以て其製品の精巧にして、内外人の嗜好に適しつゝあるを知るべきなり。

君は最も業務に熱心にして、且つ能く世の進運に伴ひ、敢て他に後れを取ることあらず、左れば能く同業者間の推す處となり、現に日本美術協會第二部委員にして審査の職をも兼務しつゝあり、勵精以て其職責を完ふし居れりと云ふ。



須田勝次郎君

大美津商店

（東京市淺草區馬道町六丁目九番地）

三等賞牌二個受領

君の祖は伊豆出身にして、其江戸に出で斯業に從事したるは、實に百五十年の以前に在り、爾來代を累ぬると雖も、同業者中第一の老舗として、汎く其名を世に知られたり、江戸舊幕の時に當つては、君の家主として諸大名の御用を勤め、特に當時の粋を集めたる、金銀座勤務の人々の如きは、悉く同店の製品を用ゐざるを以て恥となせるの有樣なりき、而して又た時の名優皆好んで之を用ゐ、新案珍奇の意匠輩出して、世の流行の泉源となりたるもの甚だ多し、圓十郎形、芝翫、半四郎、榮三形等今尙は下駄の形名詞となれるもの尠からず、又た男持日傘なるものは、君が三世の祖の初めて考案製出したるものにして、忽ちにして粹人社會は勿論、縉紳社會の稱贊を博し、汎く全國に普及して之を用ゐざるものなきに至り、以て近年に及びたるが、時世の變遷に伴ふて、先年其代用品たる、洋傘を製造發賣し初めたるに、是亦能く世の嗜好に適して、販賣高甚だ熾んなるに至れり、又た往時猿若町三劇場の旺盛なりし當時より、時代所作狂言の傘履物等、皆同店の製作したるものにして、舞臺樂屋及び俳優等の常用に至るまで、盛んに之を製作しつゝあり、其他新吉原遊廓の娼妓其他が用ゆる上草履等の如きも、殆んど同店の製造に係るものにして、今日に至るまで盛んに賣行きつゝあり、又た方今貴婦人用として恰當なる京草履、都草履の如き、昔時より他に比類なき、同店獨特の長技にして、堅牢に且つ低廉なる、自然的の專賣品たり、以上は畢竟同店從來の營業品を擧げたるに過ぎざるが、之に依て見るも如何に其累世斯業に熱心にして、且つ能く世の好評を博したるかを見るべきなり、君は明治元年の生れにして尙年壯なるにも拘はらず、極めて斯業に熱心にして、且つ俊邁穎悟、新案工夫の天才を有し、其父祖の業を繼ひでより、愈々製品を改善し、益々業務を擴張し、能く名を辱かしめざるものあり、父藤次郎氏尙健在し、君の伎倆を見て常に滿足しつゝありと云ふ。

君の新案工夫して賣出せるもの枚擧に遑あらざるが、今其重なる四五を摘記すれば、先づ傘にては春雨傘、鷺色助六傘、玉川染桔梗松葉紅葉張にして巴に廻る變り柄等、最も人の耳目を新たにするものあり、又た美術と誇る塗物には、金絞り、黑八千代、烏帽子、たゝき柳に濱鞘、磯草、小連、梅松櫻、すゝ竹塗、及び特に粹なる呂朱塗等あり、表附下駄には南部二枚三重表、角形利久下方形、及び鯨絹糸鼈甲、竹バナマ表等の外、昨年を以て竹製網代表を新作し、又た本年を以て藤製籠目表を新造し、下駄の形には二十五年にキルク形、三十一年に米市形、本年に霞形、宮戸形、待乳

形の三個を新作し、又た鼻緒には刺繍物を初め、金襴純子繻珍等より、遠く海外の皮革織物等を應用し、種々新趣向を施せる外、本年五月蓬萊結芙蓉織なる鼻緒を新製し、其他昔時より能狂言等に用ゐたる金剛草履なるものは、君の祖先の初めて製作したるものなるを、今回更に改善して賣出し、雪踏には其種類夥多あるも、其新に其皮の反らざる等種々の特色を有し居れり、又た輸出向として十字草履なるものあり、鼻緒を十文字に附けたるものにして、內地にては帝國ホテル、上野精養軒等最も多く使用しつゝあるが、極めて簡便なるを以て能く外人の嗜好に適し、上海、布哇、浦鹽斯德、桑港等に向け、年々五千足以上の輸出あり、同店にては何時多數の注文あるも、能く之に應じ得る丈の設備をなしつゝあり、價格頗る廉にして、且つ堅牢なるものなりと云ふ、其他布哇、浦鹽斯德等に向けては相應に安物の下駄の輸出あり、履物商として斯く製品を海外に輸出するもの、君を除ひて他に多く其例を見ざる所なるべし、其他進物用の下駄箱には今日に至るも世間更に桐箱を用ゆるものあらざるを、同店に於て初めて之を用ゐ、極めて高尙優美なるものを製出せる等、皆君の新案に出づるものにして、而して是等のもの悉く世の嗜好に適し、大に歡　せられつゝあり、以て如何に君の業務に熱心なるかを見るべきなり、而して今又た君は薰形下駄なるものを新案したり、這は下駄の裏に麝香の如き香料を入れ、

空氣の作用を以て之を履む毎に薰香を發するものにして、最も新奇高尙のものたり、此下駄は未だ世に發表するに至らざるも、不日發賣するに至る都合なるやにて、其發賣の上は貴顯紳士及び粹人等の大好評を博するは將に疑なき所なるべし、今回君が第五回博覽會に出品したるは、其新案の下駄と、及び三十年初めて製作したる桔梗骨傘等なるが、其何れもに對し三等賞を得たる所以のものは、蓋し技術精巧にして能く美術に適ひ、且つ販路甚だ盛んなる等の點にあるなるべし、實に君の如きは斯業の啓發者として、最も推重すべきの人と云ふべきなり、君は大阪に二ケ所、京都、秋田、高知及臺灣二ケ所の販賣店を有し、其販賣額極めて多額に上ると云ふ。因に記す從來君の家は未だ一回も博覽會共進會等に出品したることあらず、右は君の嚴父斯る華奢なることを好まざるに依りたるものなるが、君の世となるに及び、茲に初めて出品したるものなりと云ふ。

諸履物雨傘類
製造及販賣業

植松藤吉君

（東京市淺草區茅町二丁目一番地）

香取屋本店

三等賞牌受領

全國中下駄商として最も盛大に且つ著名なるものを香取屋となす、香取屋は百三四十年の舊家にして、上總國香取郡の出生なる青野與七なる人の創むる所、其出生の地名に採りて香取屋と號し、神田川岸に於て營業を初め、能く人氣に投じて業務日に盛大に赴けり、其裔與八なる人明治八年に死して其後絕え、同年先代の植松藤吉氏入つて其業を襲ぎ、店を今の處に移して益々業務を擴張したるが、先代藤吉氏明治十九年に死して、君乃ち其後を襲げるなり、君は明治元年十一月を以つて江戸に生る、幼にして怜悧能く業務に敏なり、業を襲ひでより銳意事に當り、時勢の進歩に伴ふて其製造に改良を施せるの點も尠からず、彼の江戸ッ子下駄の如きは昨年十一月君が初めて製造販賣したる所のものにして、今回の博覽會にも此下駄を出品したるが、其特色とする所は、如何なる人が穿くも能く似合ひて、且つ五圓の品も一圓の品も一見其價値を區別し難く、粹にして華奢ならず俗ならず、如何なる種類の人も之を用ゆるを得るものなれば、製造日淺しと雖も能く人氣に投じて、其賣行甚だ盛んなり、又た女子間に頗る流行せる所の吾妻草履なるものも、明治三十二年君が初めて製造せる所に係り、其他雪踏、鼻緒等に至るまで、君が苦心の末改良を施せるもの甚だ多く、優に斯業の啓發者として同業者間に模範を示すに足れり、君又た雨傘に最も改良を施し其製造販賣せる所のものは、風吹けば之に應じて舞ひ、爲めに之を翳すに困難なきのみならず、風の爲めに破損を生ずるの憂ひなく、又た決して雨の柄を洩るゝとなき等、最も完全のものにして、是れ又た其賣行甚だ盛んなり、君の祖先曾て贅澤の下駄を作り家拂ひを命せられたるものあり、世々極めて業務に熱心にして、他ふて雪下駄を作り世の歡迎を受けたるものあり、君に至つて愈々其發達進歩を期するとを得たり、に後れを取ると更にあらざりしが、君に至つて愈々其發達進歩を期するとを得たり、其功亦た大なりと云ふべし、左れば其業務日に盛んにして、昨年本店を改築し、又た支店は東京、大阪、京都、馬關等を初めとし、全國重要の地に之を設置せる上、朝鮮元山、仁川、釜山等にまで及ぼして、其販賣額極めて多額に上り居れり、是に於て君は斯業に於ける最も重きを置かれ、去三十四年開會の內國履物商聯合共進會には、其審査官として擧げられたるが、昨年中佛蘭西公使館よりは、特に我が上流中流下流の下駄一通を君に注文したるとあり、又た頃年獨逸に於て下駄製造機械の發明あり、同機械初めて東京市京橋區八官町なる日獨商會に到着したるの際、同會より特に君の觀覽を乞ひ來り、君乃ち就て之を見るに、其製作甚だ迅速にして、磨

きも直ちに出で、極めて重寶のものなるも、惜ひかな木の節穴等を避けて之を切ること能はず、爲めに折角の良材も、肝要の個所に節穴の出でゝ、殆んど使用に堪へざるが如き缺點あり、君語るに此事を以てしたるに、同會に於ても大に悟る處あり、即ち其旨を獨逸に云ひ送り、昨今同國に於て更に之が研究をなしつゝありと云ふ、君が斯業の經驗以て見るべきなり、

君の製品は第一回內國勸業博覽會に於て花紋賞牌を受け、三十三年內國展物商聯合共進會に於ては有功金牌を、三十四年の同共進會に於ては功勞金牌を授かりたるが、今回の第五回勸業博覽會に於ては、僅かに三等賞牌を得るに止まりたり、獨り君のみならず、全國の同業者にして三等賞以上を受けたるものは一人もあらざりき、是れ審査官が下駄の最も下等品を標準として審査したるに依るものにして、中には下駄は國家を益するとなきを以て、之れに一二等賞を與ふるの要なしと放言するものさへありたりと聞く、是れ誤解の甚しきものにして、實際下駄は實用的よりするも、風俗上よりするも、頗る有要の品にして、外國人の如きも其簡辨なるを貴み、近來之を用ゆるもの漸く多きを加ふるに至れる傾きあり、又た其改良進歩の點、產額販路等の點より見るも、彼の靴商足袋商等に比して頗る優れる所のものあり、然るに彼に一二等賞を與へて、之に與へざりし如きは甚だ其當を失したるものと云はざるべからず、我が下駄の漸く外人に重きを置かるゝに至りたるは、昨年佛蘭西公使館より、君に注文し來れるに依りても、又た獨逸に之が製造機械を作れるものあるに依りても證するとを得べきに、其審査の結果甚だ不成績なりしは、同業者に一汚點を染めたるものと云はざるべからず、君大に此事に就て憤慨する所あり、益々之に改良を施して、其內容の堅實なるを期すると同時に、充分外國の事情を調査して、彼をして我國特有の下駄を用ゐせしめんとを企て、以て大に今回の審査の誤れるを世に告白すると同時に、以て益々我國益を增進せんと、更に精勵しつゝありと云ふ、其の意氣甚だ壯とすべきなり。

石鹼入容器製造販賣業

井上小四郎君

（東京市淺草區茅町二丁目二十一番地）

三等賞牌受領

君は明治元年三月二十八日を以て、紀州田邊に生る、家世々農を業とす、君亦た初め鋤犁の事に從ひつゝありしも、資性濶達にして大志あり、碌々田間に消光するを好まず、乃ち他の工商に依りて一個獨立の業務を營まんとを企て、明治二十年の頃奮然赤手を以て東都に上り、某武力細工店に入つて其店務を執る、居る事一年餘、頗る業務に精通する所あり、然れども人の爲めに牙籌を執つて日月を空費する、亦決して君の志にあらざるなり、依て業務に從事するの側ら、專心其將來採るべきの業を擇み、種々考慮思索する所あり、而して其結果自ら石鹼容器を作つて之を販賣せんとを思ひ立ちたり、當時同容器の需要は頗る夥多なるものあるに、全國中未だ一人の之を製作するものあらず、其供給は悉く之を外國品に仰ぎ、爲めに國益を損するを見、君奮つて之を製作し、以て外國品の輸入を防がんと欲し、乃ち主家を辭して貯え得たる少許の資本を投じ、自ら其製作に從事したるは、實に明治二十二年なりしなり、是れよりして君は孜々此業に從ひたる

も、悲ひかな資金裕かならざるを以て大仕掛の製作を爲すを得ず、且つ世人の之を知るもの甚だ稀なれば、他より注文を取り、其注文數に應じて之を製作する如き有樣にして、其業務極めて微々たるものなれば、君が當初の目的たりし輸入防止の功績更に擧らざるのみならず、時に業務の維持さへ困難を感ずる處ありたり、然れども君が不撓の精神は克く此困難に堪へて、益々前途の發達を期し、身骨を惜まず注文を取り廻り、家に歸れば直ちに工作に從事して、敢て一日も怠ることあらず、且つ勉めて粗製濫造を戒め、專ら精巧緻密を加へて、只管外國品を凌駕せんとを企てたり、斯の如くにして困難に堪ゆること七八年の長きに亘り、明治三十年頃よりして、其製品の益々精巧能く外國品に劣らざるを得ると同時に、漸く世の歡迎を受くるに至り、初めは賴み廻つて注文を取りしもの、今は先方より續々注文し來るに及び、益々業務を擴張し、市內十五六ヶ所に工場を設けて盛んに製作し、汎く全國各地に販賣するに至り、爲めに君の素志たりし輸入防止の目的を達し得たるのみならず、更に進んで南淸、北淸、布哇、米國等に向け、他の商館の手を經、多數の輸出をなすの盛運を見るに至れり、左れば三十二三年の頃迄は同業者全國中只だ君一人のみなりしに、近來に至り君に倣ふて此業を初むるもの、東京に二人、大坂に一人をさへ出すに至りたる程にて、其前途益々有望の域に向ひ居れり、今回第五回內國勸業博覽會に同品を出品したるは、只だ

君一人のみなりしが、其出品數百六十八點の內百六十四點まで、賣れ盡して、僅かに四點を餘せるのみなりしと云ふ、以て君が製品の如何に世に歡迎せられつゝあるかを知るべきなり、而して同品は審査の結果三等賞を授與せられたるが、其受賞の理由は、蓋し製品精巧華麗にして且つ堅牢なるのみならず、其價格も頗る低廉なる等に依るものなるべし、抑も此器の出品は、獨り今回の博覽會に於て只だ君一人なりしのみならず、從來幾多の博覽會等に曾て其類例なかりしことにして、從つて此器に對し賞を受けたるも君を以て嚆矢となす、亦た名譽と云はざるべけんや、君は初め十五六ヶ所の工場を有せしも、現今は之を大組織の工場五ヶ所に約め、而して益々多額の同品を製出しつゝあるが、既に內地は全く行渡れるを以て、更に進んで輸出を盛んにせんことを企て、今日迄は他の商舘の手を經て輸出し來りしものを、今後は直輸出に改めんとの計畫をもなしつゝあり、而して其直輸出は先づ支那地方より初むる筈なりと云ふ、君年壯氣鋭、加ふるに幾多の經驗を以てす、思ふに必ず將來益々其業を盛大にし、以て國益の一助たるを得るに至らんこと、期して俟つべきなり、

齒科用治療臺齒科器械及簞笥製造業

若林唯造君

家號三河屋

（東京市芝區南佐久間町一丁目一番地）

二等賞牌受領

君本年五十二歲、三河國額田郡深溝村の人たり、家世々農を業とす、明治七年君二十二歲の時、偶々感ずる所あり、工業を以て身を立てんと欲し、蹶然奮起田地家財等を賣却し、漸くにして七十餘兩を得、之を懷にして妻ヨ子子と共に鄕を去り、靜岡燒津より海に航して橫濱に至る、當時未だ滊船の設けなく、渺たる一葉の和船に身を托す、海上忽ち風波の暴るゝものあり、爲めに舟の覆らんとすること幾回、殆んど九死の中に投じて僅かに一生を得、夫妻漸くにして橫濱に着するを得たり、君夫妻當時を懷ふて尙ほ慄然たるものありと云ふ、君の息喜一郎氏現今大倉商業學校に在つて、品行方正の聞えあるもの、當時實に母の胎內に在りたるなり、君は橫濱に着したる後、當時有名なる西洋家具商松本屋事小池辨次郎氏に就て西洋家具の製法を修め、大に得る所あり、翌八年我國齒科醫の嚆矢として其名嘖々たりし小幡英之助氏の協贊を得、玆に始めて齒科用治療臺及び齒科用簞笥の製造に着手したるが、君の技術に富める、其修養未だ一年ならざるに、早く既に巧妙の域に入り、極めて

精良のものを製出するに至りたり、當時我國未だ一人の齒科治療臺及器械等を製造するものなく、實に君を以て之が嚆矢とせり、斯くの如くにして小幡氏が齒科の泰斗として世に仰がるゝと同時に、君亦た東洋に於ける同製造業の元祖として其聲名を博するに至りたるなり、之れよりして君は益々研鑽考究を積み、數年を費して愈々完全無缺なる新製法を成就するに至り、頗る世人の注目を惹きたり、是に於て君は更に奮勵する所あり、明治十一年横濱を辭して東京に出で、今の處に店を搆へて愈々業務を擴張するに至りたるが、爾來日進月歩の時運に伴ふて其需要益々多く、以て斯界に貢獻したる處尠少にあらざるなり、其販路は全國各地は云ふ迄もなく、汎く海外諸國にも輸出するに至り、現今一ヶ年の賣高平均二万餘圓に上るに至れり、以て其盛況を見るべきなり、曾て明治二十二年、其製品の精巧完良なるとの宮中に開え、畏くも皇后陛下の御用を命せらるゝの光榮を荷ひたり、君大に感奮し、更に益々其將來の進歩發達を期したり、爾後の改善精巧蓋し之に基くもの多きを見るべきなり、左れば君の製品は曾て第三回内國勸業博覽會に於て褒狀を受け、米國閣龍萬國博覽會に於ては、其齒科用筐笥に對して二等賞を、同旅行機械箱に對して三等賞を、尚ほ他の一個に對しても同じく賞牌を授かるに至りたり、以て其精巧にして且つ有益なるを見るべきなり、君資性溯達にして大度あり、妻ヨ子子本年四

十二歳能く婦女の淑德を守り、且つ氣丈にして男兒も及ばざるの烈志を有す、其曾て懷胎の身を以て大海中に九死の苦を嘗め、而して能く無事なるを得たるが如き、一に此氣丈の心に基かずんばあらず、君が農より直ちに身を轉じて、而かも短時日の間に能く斯業の成功を遂げたるもの、素より其資性の之に適せると、能く其艱苦に堪へたるとに依らずんばあらずと雖も、而かも其艱苦に堪へて益々技を磨くは、之を勵まし之を奬むる内助の功與つて力なくんばあらず、即ち君が成功の半ばは之を夫人の力と云ふも決して誣言にあらざるべきなり、令息喜一郎氏本年十七歳、亦た能く父の資性を享け、加ふるに賢母の薫陶を以てして、其心志の發育極めて健全なるものあり、且つ父母に事へて孝に、朋友と交つて信あり、能く少年の龜鑑とし て恥ぢざるものあるを見る、其家庭の圓滿想見すべきなり、君又た兄弟四人あり、君は其長にして、他三人何れも別家し、亦た皆相當の地位を保ちつゝありと云ふ。

呉服太物商

市原兼吉君

（東京市京橋區南傳馬町一丁目十四番地）

三等賞牌受領

君は千葉縣の人、十二三歳の頃早く既に上京して某呉服店に奉公し、忠實勤務多年にして、深く斯業に通ずる所あり、明治維新の當時に至り、主家を辭して今の所に店を構へ、茲に始めて獨立の營業をなすに至りたり、而して初めは汎く呉服太物の卸小賣をなしたるも、後見る所ありて專ら小賣業にのみ從事し、勵精刻苦能く世の信用を博し、業務日進月歩の勢を以て盛大に赴き、本年六十歳の高齡に達するまで、尚ほ孜々として自ら其業を採り、以て愈々家運の基礎を固ふしつゝあり、君又た京橋區岡崎町に支店を有す、其本店と相待つて、賣行甚だ盛んなるは人の知る所なりとす、君の此業に旨とする所は物品の精選善良なるに在り、即ち其木綿中形の如き、地質堅牢にして能く久しきに耐え、且つ其畫模様の高尚優美なるは、夙に人の稱揚して措かざる所なるが、斯く其木綿中形の他に卓絶して、世人の稱揚を受くる所以のものは、深く其染法に注意し、悉く神田、深川、本所の地物本場所に於て之を染め、其製品に一々保險を附して、專ら確實を旨とするが故に同品中に往々弊害ある

所の褪色等の憂更にあるなく、且つ其下繪は悉く之を東京美術學校に於て擔任し、熟練の畫家能く其力を揮ひ、且つ時流に應じて新を競ひ珍を爭ひ、敢て他に後るゝことなきを以て、能く世人の嗜好に適し、又た能く流行の魁となり、以て他の稱揚を受くるに至りたるものにして、其今回第五回內國博覽會に於て受賞したるも實に此品に對してなりとす、而して此中形と共に最も君の誇稱する所のものは御召縮緬なりとす、此品亦た極めて優美高尚にして、其染色、其縞柄等何れも流行に適し貴顯紳士向、貴婦人向等何れも能く上流社會の賞讃を博して、其賣行甚だ盛んなるものあり、其他西陣物、上州物等の如きも、悉く其精を抜き萃を蒐め、能く何れの社會にも其嗜好を充たさしめつゝあるが、君の勤勉なる是等の品物は一々其地に出張して、其製織を監督し、其向々に叶ふやう特製せしむるを以て、斯く能く人氣に適ふを得るものなりと云ふ、以上の如く君は一々其品物を精選し、敢て一品も苟めにせざるを以て、從つて有体に云へば其價格は甚だ廉なるにあらず、然れども又た其利を薄ふするを以て、決して高價なるにもあらず、世の商人能く物質善良にして價格廉なるを唱ふるものあるも、善良なる品は決して法外の低價に求め得べきものにあらず、古語にも安きものに良き品なしと云へるが如し、左れば品良く價安しと云ふは畢竟人氣を惹く一時の方便たるに過ぎず、信用を以て世に立たんとする君は決して此一時の方便を用ゆる能はず、有体に其價の廉ならざる丈夫丈品物の善良なる